2020-07-01版

洗足学園音楽大学

大学院
2020年度シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名		ページ数
音楽教育学研究（前）[金1]、（後）[火5]	木下　和彦	･････････	1
音楽教育学演習I（前）[火3]、（後）[木4]	佐藤　昌弘	･････････	4
音楽教育学演習II[金2]	董　芳勝	･････････	7
音楽表現研究I[金4]	佐藤　昌弘	･････････	10
音楽表現研究II[金4]	佐藤　昌弘	･････････	13
副論文作成研究	那須田　務	･････････	16
音楽・音響デザイン特殊研究１[水3]	山下　康介	･････････	19
音楽・音響デザイン特殊研究２[木5]	栗山　和樹	･････････	22
ライヴ・エレクトロニクス研究１[火4]	森　威功	･････････	25
ライヴ・エレクトロニクス研究２[火4]	森　威功	･････････	28
デジタル・オーケストレーション研究１[火5]	森　威功	･････････	31
デジタル・オーケストレーション研究２[火5]	森　威功	･････････	34
録音・音響特殊研究１[木2]	徳永　宏	･････････	37
録音・音響特殊研究２[木4]	徳永　宏	･････････	40
映像特殊研究１[金1]	山田　剛志	･････････	43
映像特殊研究２[金3]	山田　剛志	･････････	46
作曲法特殊研究１[月1]（作曲）	久行　敏彦	･････････	49
作曲法特殊研究１[木5]（二胡）	大江　千佳子	･････････	52
作曲法特殊研究２[月1]（作曲）	久行　敏彦	･････････	55
作曲法特殊研究２[木5]（二胡）	大江　千佳子	･････････	58
楽曲分析法特殊研究１[月2]	那須田　務	･････････	61
楽曲分析法特殊研究２[月2]	那須田　務	･････････	64
アンサンブル特殊研究１[月3]	柳川　瑞季	･････････	67
アンサンブル特殊研究２[月3]	柳川　瑞季	･････････	70
プロフェッショナル特殊研究I	柳澤　涼子	･････････	73
プロフェッショナル特殊研究II	柳澤　涼子	･････････	76
オペラ研究１・２[水4-5、木2-4]	柳澤　涼子	･････････	79
アンサンブル研究１[月2]	櫻田　亮	･････････	82
アンサンブル研究２[月2]	櫻田　亮	･････････	85
歌曲研究１	柳澤　涼子	･････････	88
歌曲研究２	柳澤　涼子	･････････	91
合唱指導法研究[木3-4]	相澤　直人	･････････	94
プロフェッショナル特殊研究１	小嶋　貴文	･････････	97
プロフェッショナル特殊研究１	渡部　亨	･････････	100
プロフェッショナル特殊研究１	水野　佐知香	･････････	103
プロフェッショナル特殊研究１	石井　喜久子	･････････	106
プロフェッショナル特殊研究１	赤塚　博美	･････････	109
プロフェッショナル特殊研究１	松尾　祐孝	･････････	112

プロフェッショナル特殊研究２	小嶋　貴文	･････････	115
プロフェッショナル特殊研究２	渡部　亨	･････････	118
プロフェッショナル特殊研究２	石井　喜久子	･････････	121
プロフェッショナル特殊研究２	赤塚　博美	･････････	124
プロフェッショナル特殊研究２	松尾　祐孝	･････････	127
プロフェッショナル特殊研究３	水野　佐知香	･････････	130
プロフェッショナル特殊研究３	松尾　祐孝	･････････	133
プロフェッショナル特殊研究３	原　善伸	･････････	136
プロフェッショナル特殊研究４	松尾　祐孝	･････････	139
プロフェッショナル特殊研究４［水3］	竹内　永和	･････････	142
アンサンブル研究１	赤塚　博美	･････････	145
アンサンブル研究２	赤塚　博美	･････････	148
作曲・編曲法１	赤塚　博美	･････････	151
作曲・編曲法２	赤塚　博美	･････････	154
アンサンブル研究１	小嶋　貴文	･････････	157
アンサンブル研究１	渡部　亨	･････････	160
アンサンブル研究１	水野　佐知香	･････････	163
アンサンブル研究１［月2］	山澤　洋之	･････････	166
アンサンブル研究１［土4］	松尾　祐孝	･････････	169
アンサンブル研究１［水5］	小林　すぎ野	･････････	172
アンサンブル研究２	小嶋　貴文	･････････	175
アンサンブル研究２	渡部　亨	･････････	178
アンサンブル研究２	水野　佐知香	･････････	181
アンサンブル研究２［月2］	山澤　洋之	･････････	184
アンサンブル研究２［土4］	松尾　祐孝	･････････	187
アンサンブル研究２［水5］	小林　すぎ野	･････････	190
現代曲の奏法と研究１（後）［水2］	渡部　亨	･････････	193
現代曲の奏法と研究２（後）［水2］	渡部　亨	･････････	196
打楽器の変遷と奏法の研究１［月4］	古川　玄一郎	･････････	199
打楽器の変遷と奏法の研究２［月4］	古川　玄一郎	･････････	202
コンチェルト研究１	江崎　昌子	･････････	205
コンチェルト研究２	江崎　昌子	･････････	208
チェンバロ研究［火5］	上薗　未佳	･････････	211
音楽教育特殊研究１［金3］	董　芳勝	･････････	214
音楽教育特殊研究２［金3］	董　芳勝	･････････	217
音楽教育特殊研究３（前）［火4］、（後）［金5］	佐藤　昌弘	･････････	220
音楽教育特殊研究４（前）［火4］、（後）［金5］	佐藤　昌弘	･････････	223
合奏指導法研究１（前）［水2］	渡部　亨	･････････	226
合奏指導法研究１	水野　佐知香	･････････	229

合奏指導法研究1	赤塚　博美	･････････	232
合奏指導法研究1	松尾　祐孝	･････････	235
合奏指導法研究1［水4］	小林　徹	･････････	238
合奏指導法研究1［水6］	佐藤　昌弘	･････････	241
合奏指導法研究2（前）［水2］	渡部　亨	･････････	244
合奏指導法研究2	水野　佐知香	･････････	247
合奏指導法研究2	赤塚　博美	･････････	250
合奏指導法研究2	松尾　祐孝	･････････	253
合奏指導法研究2［水4］	小林　徹	･････････	256
合奏指導法研究2［水6］	佐藤　昌弘	･････････	259
作品研究法［月4]Aクラス	那須田　務	･････････	262
作品研究法［金2]Bクラス	那須田　務	･････････	265
楽曲分析法［火1]Aクラス	伊藤　康英	･････････	268
楽曲分析法［水3]Bクラス	久行　敏彦	･････････	271
専門器楽実習Ⅰ（PF）	小嶋　貴文	･････････	274
専門器楽実習Ⅰ（WI）	渡部　亨	･････････	277
専門器楽実習Ⅰ（SI）	水野　佐知香	･････････	280
専門器楽実習Ⅰ（GT）	原　善伸	･････････	283
専門器楽実習Ⅰ（PI）	石井　喜久子	･････････	286
専門器楽実習Ⅰ（EO）	赤塚　博美	･････････	289
専門器楽実習Ⅰ（WA）	松尾　祐孝	･････････	292
専門器楽実習Ⅱ（PF）	小嶋　貴文	･････････	295
専門器楽実習Ⅱ（WI）	渡部　亨	･････････	298
専門器楽実習Ⅱ（SI）	水野　佐知香	･････････	301
専門器楽実習Ⅱ（GT）	原　善伸	･････････	304
専門器楽実習Ⅱ（PI）	石井　喜久子	･････････	307
専門器楽実習Ⅱ（EO）	赤塚　博美	･････････	310
専門器楽実習Ⅱ（WA）	松尾　祐孝	･････････	313
演奏法研究Ⅰ（PF）	小嶋　貴文	･････････	316
演奏法研究Ⅰ（WI）	渡部　亨	･････････	319
演奏法研究Ⅰ（SI）	水野　佐知香	･････････	322
演奏法研究Ⅰ（GT）	原　善伸	･････････	325
演奏法研究Ⅰ（PI）	石井　喜久子	･････････	328
演奏法研究Ⅰ（EO）	赤塚　博美	･････････	331
演奏法研究Ⅰ（WA）	松尾　祐孝	･････････	334
演奏法研究Ⅱ（PF）	小嶋　貴文	･････････	337
演奏法研究Ⅱ（WI）	渡部　亨	･････････	340
演奏法研究Ⅱ（SI）	水野　佐知香	･････････	343
演奏法研究Ⅱ（GT）	原　善伸	･････････	346

演奏法研究Ⅱ(PI)	石井　喜久子	･････････	349
演奏法研究Ⅱ(EO)	赤塚　博美	･････････	352
演奏法研究Ⅱ(WA)	松尾　祐孝	･････････	355
声楽実習Ⅰ(VO)	柳澤　涼子	･････････	358
声楽実習Ⅱ(VO)	柳澤　涼子	･････････	361
演奏法研究Ⅰ(VO)	柳澤　涼子	･････････	364
演奏法研究Ⅱ(VO)	柳澤　涼子	･････････	367
創作研究Ⅰ(CO)	清水　昭夫	･････････	370
創作研究Ⅱ(CO)	清水　昭夫	･････････	373
作曲理論研究Ⅰ(CO)	清水　昭夫	･････････	376
作曲理論研究Ⅱ(CO)	清水　昭夫	･････････	379
創作制作研究Ⅰ(SC)	森　威功	･････････	382
創作制作研究Ⅱ(SC)	森　威功	･････････	385
音楽音響理論研究Ⅰ(SC)	森　威功	･････････	388
音楽音響理論研究Ⅱ(SC)	森　威功	･････････	391
副科研究1(MP)	佐藤　昌弘	･････････	394
副科研究2(MP)	佐藤　昌弘	･････････	397
副科研究3(MP)	佐藤　昌弘	･････････	400
副科研究4(MP)	佐藤　昌弘	･････････	403

科目名	音楽教育学研究　（前）［金1］、（後）［火5］						
代表教員	木下　和彦	授業コード	IE140100	科目コード	IE1401	期間	通年
担当教員	佐藤　昌弘						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：音楽教育学の基礎的な研究方法および研究内容
到達目標：
(1) 研究遂行の基礎となる知識・技能を習得する。
(2) 音楽教育学の分野と方法を理解し、自らの研究課題を位置づける。
(3) 日本の音楽科教育の基本構造を理解する。
(4) 音楽教育学の今日的課題を理解し、自らの研究の意義を明確にする。

２．授業概要

前期：まず各受講生の研究テーマおよび問題設定を確認する（第1回）。
次に文献探索の方法や論文の読み方などの基礎技術を理解した上で、各自の関心に応じた先行研究の講読と批判を行う（第2～6回）。
続いて音楽教育学の分野と方法を具体的な研究事例を通して概観する（第7～11回）。
前期の最後では、日本の音楽科教育の構造を教育政策・歴史の観点から概観する（第12回～15回）。
後期：音楽教育学の基礎的な文献、および今日的な課題を取り上げた文献を講読することで、自らの研究の位置づけを明確にする（第1～11回）。
さらに前期・後期を通じて習得した基礎的な知識・技能を踏まえて、各受講生の研究について報告してもらい、修士論文執筆につなげる（第12～15回）。
授業はほぼすべての回を文献講読や発表を中心に進め、体系的な知識の整理が必要な場合は講義などを取り入れる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

修士論文作成の基礎的な知識・技能を習得するためにも、授業で指定した文献を事前によく読み、レジュメにまとめる作業に取り組むこと。
さらに事後は授業でのディスカッションなどを踏まえ、再読することを推奨する。これらはそれぞれ2時間ほどの所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

レポート（35%）
報告の内容（35%）
議論への参加状況（30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：加藤富美子編『音楽科教育』一藝社、2013年
参考文献：日本音楽教育学会編『音楽教育学の未来』音楽之友社、2005年
秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学『教育研究のメソドロジー』東京大学出版、2005年
Phelps,Roger P., and et al., A Guide to Research in Music Education , 5th Edition, The Scarecrow Press, 2005.
日本教科教育学会編『教科教育研究ハンドブック』教育出版、2017年
リーマー，ベネット／丸山忠璋訳『音楽教育の哲学』音楽之友社、1987年
スワンウィック，キース／野波健彦ほか訳『音楽と心と教育』音楽之友社、1992年
西園芳信『小学校音楽科カリキュラム構成に関する教育実践学的研究』風間書房、2005年
スモール，クリストファー／野澤豊一・西島千尋訳『ミュージッキング―音楽は〈行為〉である』水声社、2011年
この他は授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受講生の研究テーマや関心に応じて毎回のトピックや重点の置き方、講義順序などを変更することがある。

授業計画	
	［前期］
1	研究テーマと問題設定
2	文献探索の方法
3	文献収集の方法
4	論文の構造と読み方
5	先行研究の講読
6	先行研究の批判
7	音楽教育学の研究分野：学校教育
8	音楽教育学の研究分野：学校教育外
9	音楽教育学の研究方法：哲学的・歴史的研究
10	音楽教育学の研究方法：質的研究
11	音楽教育学の研究方法：量的研究
12	日本の教育制度
13	日本の教育課程行政と学習指導要領
14	日本の音楽科教育史：近代
15	日本の音楽科教育史：現代

授業計画	
	［後期］
1	音楽教育学の基礎文献購読：教育思想・哲学
2	音楽教育学の基礎文献購読：教育史
3	音楽教育学の基礎文献購読：教育心理学
4	音楽教育学の基礎文献購読：カリキュラム論
5	音楽教育学の基礎文献購読：教育評価論
6	音楽教育学の基礎文献購読：授業論
7	音楽教育学の基礎文献購読：専門家教育
8	音楽教育学の基礎文献購読：成人教育
9	音楽教育学の基礎文献購読：幼児教育
10	音楽教育学の今日的課題：学力論
11	音楽教育学の今日的課題：芸術の教育的意義
12	研究の進捗状況の報告
13	研究課題の再検討
14	研究方法の再検討
15	研究計画の再検討

科目名	音楽教育学演習I （前） ［火3］、（後） ［木4］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE141000	科目コード	IE1410	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
音楽教育の諸問題の把握と関連資料のレビュー

到達目標：
日本と西洋の音楽教育を概観し、中国の音楽教育との違いについて把握する。また、日本の伝統的な楽器を用いた授業実践を体験や、20世紀音楽を教材とした鑑賞や創作の授業のシミュレーションをすることにより、アクティブラーニングを取り入れた指導の内容、方法を研究し理解する力を身に付ける。

２．授業概要

前期は、音楽教育を西洋と日本の歴史的背景から学び、アジア(中国)の音楽教育と日本の音楽教育の比較について深く学んでいく。後期は、日本の学校教育の鑑賞と創作を中心に、20世紀に書かれた音楽書をテキストとして、音楽創造と教育との関わり合いを学び、その内容や方法の精選について研究を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

関連資料のレビューが中心となるため、授業時間外での資料の探索や読解が必要であり、これにはおよそ2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
レポート（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特定のテキストは特になく、配付資料を準備。参考文献は講義中随時示す。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］音楽教育の諸問題とその歴史背景
1	ガイダンス
2	日本の音楽教育の歴史的背景　明治・大正
3	日本の音楽教育の歴史的背景　学習指導要領の変遷
4	学校教育における日本の伝統音楽の実際－伝統音楽の体験を交えて
5	資料講読1：各国の音楽教育
6	資料講読2：中国の音楽教育－表現教育
7	資料講読3：中国の音楽教育－鑑賞教育
8	資料講読4：韓国の音楽教育－伝統音楽を中心に
9	資料講読5：ハンガリーの音楽教育―コダーイ・メソッドを中心に
10	資料講読6：リトミック教育－ジャック＝ダルクローズを中心に
11	プレゼンテーション1：中国の音楽教育－表現教育
12	プレゼンテーション2：中国の音楽教育－鑑賞教育
13	プレゼンテーション3：リトミック教育
14	日本と中国の音楽教育の比較
15	前期総括

授業計画	
	［後期］今日における音楽教育の諸問題：創作を中心に
1	ガイダンス
2	日本の学校教育における鑑賞
3	日本の学校教育における創作
4	創作と鑑賞との関連について
5	資料講読１　バーンスタイン著『音楽を語る』より「音楽の無限の多様性」
6	資料講読２　バーンスタイン著『音楽を語る』より「シリアスミュージックにおけるジャズ」
7	資料講読３　バーンスタイン著『音楽を語る』より「リズム」
8	資料講読４　バーンスタイン著『音楽を語る』より「音楽におけるロマンチシズム」
9	資料講読５　メシアン著『音楽言語の技法』より第3章～ 第7章（リズムに関する記述）
10	資料講読６　メシアン著『音楽言語の技法』より第8章～ 第11章（旋律に関する記述）
11	資料講読７　メシアン著『音楽言語の技法』より第13章～第15章（和声に関する記述）
12	資料講読８　メシアン著『音楽言語の技法』より第16章～第19章（旋法に関する記述）
13	資料講読９　武満徹著『東の音・西の音―さわりの文化について』
14	資料講読１０　武満徹著『私の受けた音楽教育』
15	後期総括

科目名	音楽教育学演習II　[金2]						
代表教員	董　芳勝	授業コード	IE141500	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員	佐藤　昌弘						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	「音楽教育学演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：各自のテーマに基づき、1年次からの研究を深め、その成果を論文にとりまとめる。
目標：修士論文を完成する。

２．授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、院生・教員との討議、および教員による個人指導のもとに進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には、資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査から、実際の執筆におよぶまで、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。少ないときで2時間ほど、多いときで総計10時間ほどに及ぶことが想定される。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

授業（中間発表を含む）への参加態度について成績評価の50%、論文作成上必要な作業への対応状況について成績評価の50%を基準とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自のテーマに応じて授業内で随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案
3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定
7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出
11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討
15	前期の総括及び中間発表の準備

授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表
3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成１　序論
7	論文作成２　第1章作成
8	論文作成３　第1章推敲
9	論文作成４　第2章作成
10	論文作成５　第2章推敲
11	論文作成６　第3章作成
12	論文作成７　第3章推敲
13	論文作成８　結論
14	論文の仕上げと見直し
15	論文要旨作成

科目名	音楽表現研究I　［金4］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE144000	科目コード	IE1440	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：作編曲法の基礎
到達目標：音楽教育学における音楽表現の領域に必要とされる作編曲法の知識と技能を習得

２．授業概要

前期：簡単なメロディの作曲、和声と形式の基礎
後期：歌とピアノ曲の作曲を中心に

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：各回の学習範囲について予備知識を調べ、確認する。約1時間の所要時間が想定される。
復習：授業で学習した事柄について要点をまとめ、課題を作成する。約2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（70%）
提出課題の評価（30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：レジュメ、譜例を随時配付
参考文献：授業内で随時紹介

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	前期：簡単なメロディの作曲、和声と形式の基礎
1	前期ガイダンス
2	和音の種類、既成曲のメロディの分析
3	8小節のメロディの作り方①モティーフの活用
4	8小節のメロディの作り方②フレージングについて
5	二部形式について
6	三部形式について
7	三和音とカデンツ
8	三和音の第1転回形
9	三和音の第2転回形
10	属七の和音
11	長七の和音と短七の和音
12	コードパターン
13	借用和音
14	非和声音
15	前期総括

授業計画	
	後期：歌とピアノ曲の作曲を中心に
1	後期ガイダンス
2	転調について
3	伴奏の書法
4	伴奏付けの実際
5	対旋律について
6	歌の作曲法
7	歌の伴奏の作り方
8	変奏曲形式について
9	変奏曲の作曲
10	複合三部形式について
11	複合三部形式のピアノ曲の作曲①主部の作り方
12	複合三部形式のピアノ曲の作曲②中間部の作り方
13	複合三部形式のピアノ曲の作曲③再現部とコーダの作り方
14	任意の形式によるピアノ曲の作曲
15	後期総括

科目名	音楽表現研究II　[金4]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE144500	科目コード	IE1445	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

主題：作編曲法の基礎
到達目標：音楽教育学における音楽表現の領域に必要とされる作編曲法の知識と技能を習得

2．授業概要

前期：簡単なメロディの作曲、和声と形式の基礎
後期：歌とピアノ曲の作曲を中心に

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：各回の学習範囲について予備知識を調べ、確認する。約1時間の所要時間が想定される。
復習：授業で学習した事柄について要点をまとめ、課題を作成する。約2時間の所要時間が想定される。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（70%）
提出課題の評価（30%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：レジュメ、譜例を随時配付
参考文献：授業内で随時紹介

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	前期：簡単なメロディの作曲、和声と形式の基礎
1	前期ガイダンス
2	和音の種類、既成曲のメロディの分析
3	8小節のメロディの作り方①モティーフの活用
4	8小節のメロディの作り方②フレージングについて
5	二部形式について
6	三部形式について
7	三和音とカデンツ
8	三和音の第1転回形
9	三和音の第2転回形
10	属七の和音
11	長七の和音と短七の和音
12	コードパターン
13	借用和音
14	非和声音
15	前期総括

授業計画	
	後期：歌とピアノ曲の作曲を中心に
1	後期ガイダンス
2	転調について
3	伴奏の書法
4	伴奏付けの実際
5	対旋律について
6	歌の作曲法
7	歌の伴奏の作り方
8	変奏曲形式について
9	変奏曲の作曲
10	複合三部形式について
11	複合三部形式のピアノ曲の作曲①主部の作り方
12	複合三部形式のピアノ曲の作曲②中間部の作り方
13	複合三部形式のピアノ曲の作曲③再現部とコーダの作り方
14	任意の形式によるピアノ曲の作曲
15	後期総括

科目名	副論文作成研究						
代表教員	那須田　務	授業コード	IE206000	科目コード	IE2060	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全（MP除く）	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：各自のテーマに基づいた研究とその成果を取りまとめる。

目標：副論文を作成する。

２．授業概要

各自の演奏や作品の理論的裏付けとなる根拠や考察を、個人指導を通じて、論文の形でまとめる。優れた演奏・作品には理論に裏付けされた優れた洞察がその根底にあることを常に意識して研究を進め、質の高い論文の完成を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、論文執筆等々、学習にかける時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

４．成績評価の方法及び基準

授業（中間発表を含む）への参加態度（３０％）
論文（７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自のテーマに応じて随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

論文はワードプロセッサーで作成する。論文としての書式・ルールで作成するため、それらに対応できるよう準備し心がけること。
なお、一年次に「作品研究法」「楽曲分析法」を履修できなかった人は、今年度併せて履修することが望ましい。

授業計画	
	［前期］ ただし、実際の進め方については、それぞれの状況が異なるので、詳細は指導教員と相談すること。
1	オリエンテーション
2	テーマ探求１　基本
3	テーマ探求２　応用
4	テーマの決定と研究計画立案
5	研究計画立案
6	資料・文献の探索と収集１　基本
7	資料・文献の探索と収集２　応用
8	資料・文献の探索と収集３　発展
9	資料・文献の探索と収集４　確認
10	資料・文献からのデータ抽出１　基本
11	資料・文献からのデータ抽出２　応用
12	資料・文献からのデータ抽出３　発展
13	資料・文献からのデータ抽出４　確認
14	研究テーマと計画の調整
15	中間発表の準備

授業計画	
	［後期］
1	中間発表の要旨作成　前半
2	中間発表の要旨作成　後半
3	中間発表（公開）
4	論文作成（必要な資料・文献の追加）１　基本
5	論文作成（必要な資料・文献の追加）２　応用
6	論文作成（必要な資料・文献の追加）３　発展
7	論文作成（必要な資料・文献の追加）４　確認
8	論文作成１　基本
9	論文作成２　応用
10	論文作成３　発展
11	論文作成４　確認
12	論文作成５　まとめ
13	論文提出後の見直し１　前半
14	論文提出後の見直し２　後半
15	大学保存用論文の仕上げ

科目名	音楽・音響デザイン特殊研究１　[水3]						
代表教員	山下　康介	授業コード	IE263100	科目コード	IE2631	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

フィルムスコア特殊研究を主題とし、映画音楽作曲家作品研究を行います。
同時にハーモニーやソングライティングに関する内容を受講することにより楽曲の理解を深めることができます。

２．授業概要

近年の映画音楽界を代表する作家の作品を、専門的、多角的に研究考察する方法を身につけ、今後の作品創作に役立つ、より幅の広い技能を身につける事を目的とします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

取り上げる作曲家については、必ず事前に代表的な音楽を聴いておいてください。
また復習として、授業で得た内容を整理、ファイリングしておくことを推奨します。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%
「研究内容が大学院生研究レベルにあるかどうか」を評価の基準とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキスは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

以下を履修条件とします。

教養としての映画音楽研究を目指す方ではなく、映画音楽作家を目指す方々を対象に講義を展開します。
そのため、学部レベルの管弦楽法、和声法の知識を有する者とします。

授業計画	
	前期は、ジョン・ウイリアムス、ジェームス・ニュートン・ハワードの作品を通して各手法を研究する。
1	ジョン・ウイリアムス作品研究
2	速度変化について
3	管弦楽手法について
4	リディア旋法について
5	対位法的金管作法
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気を調整）
8	課題提出・発表
9	ジェームス・ニュートン・ハワード作品研究
10	遠隔内部調について
11	閉じた終止・開いた終止
12	旋法的和声
13	３度和声／２度和声
14	低音位の進行
15	前期内容のまとめと講評

授業計画	
	後期はハンス・ジマーの作品から、各自で選択した作曲家研究の発表を実施する。
1	ハンス・ジマー作品研究
2	リズム作法について
3	打楽器アンサンブル研究
4	旋律作法
5	混声合唱研究
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気を調整）
8	課題提出・発表
9	自らが選んだ作家の作品研究
10	作曲家選択のポイント
11	作品選択のポイント
12	作品の研究発表ー発表ポイントの確認ー
13	作品の研究発表ー反省点の確認ー
14	作品の研究発表ー講評ー
15	後期内容のまとめと講評

科目名	音楽・音響デザイン特殊研究２　[木5]						
代表教員	栗山　和樹	授業コード	IE263200	科目コード	IE2632	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

フィルムスコア特殊研究を主題とし、映画音楽作曲家作品研究を行います。
同時にハーモニーやソングライティングに関する内容を受講することにより楽曲の理解を深めることができます。

２．授業概要

近年の映画音楽界を代表する作家の作品を、専門的、多角的に研究考察する方法を身につけ、今後の作品創作に役立つ、より幅の広い技能を身につける事を目的とします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

取り上げる作曲家については、必ず事前に代表的な音楽を聴いておいてください。
また復習として、授業で得た内容を整理、ファイリングしておくことを推奨します。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%
「研究内容が大学院生研究レベルにあるかどうか」を評価の基準とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキスは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

以下を履修条件とします。

教養としての映画音楽研究を目指す方ではなく、映画音楽作家を目指す方々を対象に講義を展開します。
そのため、学部レベルの管弦楽法、和声法の知識を有する者とします。

授業計画	
	前期は、ジョン・ウイリアムス、ジェームス・ニュートン・ハワードの作品を通して各手法を研究する。
1	ジョン・ウイリアムス作品研究
2	速度変化について
3	管弦楽手法について
4	リディア旋法について
5	対位法的金管作法
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気を調整）
8	課題提出・発表
9	ジェームス・ニュートン・ハワード作品研究
10	遠隔内部調について
11	閉じた終止・開いた終止
12	旋法的和声
13	３度和声／２度和声
14	低音位の進行
15	前期内容のまとめと講評

授業計画	
	後期はハンス・ジマーの作品から、各自で選択した作曲家研究の発表を実施する。
1	ハンス・ジマー作品研究
2	リズム作法について
3	打楽器アンサンブル研究
4	旋律作法
5	混声合唱研究
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気を調整）
8	課題提出・発表
9	自らが選んだ作家の作品研究
10	作曲家選択のポイント
11	作品選択のポイント
12	作品の研究発表ー発表ポイントの確認ー
13	作品の研究発表ー反省点の確認ー
14	作品の研究発表ー講評ー
15	後期内容のまとめと講評

科目名	ライヴ・エレクトロニクス研究１　[火4]						
代表教員	森　威功	授業コード	IE264100	科目コード	IE2641	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

サウンド制作の基礎であるアナログ減算合成方式からFFT分析・再合成など高度な音声信号処理技術まで包括的に学ぶ。さらに、これらの技術が映画音楽や電子音響音楽の制作で同様に活用されているかを研究しサウンドデザインについての理解を深める。

２．授業概要

前期：アナログ減算合成方式の実習、　Maxの基本的なプログラミング手法を学び、様々な音合成、音響処理モジュールを制作する。

後期：高度な音響処理技術の習得、各々の方向性に基づいた作品を制作し授業内もしくは学内での演奏会で発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で配布するテキストを用いた復習と課題制作に多くの時間を費やしてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の６０％）　平常点（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。

参考文献：

『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版

『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	アナログ減算合成１（音色の三要素）
2	アナログ減算合成２（モジュレーション）
3	前期作品発表
4	Maxプログラミングの基礎
5	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（加算合成、減算合成）
6	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（変調合成）
7	サンプリング基礎
8	サンプリング応用
9	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（グラニュラ合成）
10	シグナル・ルーティングとGUI制作
11	音声入力分析１（基礎）
12	音声入力分析２（応用）
13	プログラミング実習１（基礎）
14	プログラミング実習２（応用）
15	前期作品発表とまとめ

授業計画	
	［後期］
1	DAWとの連携について
2	FFT基礎
3	FFT応用
4	FFT（実用的な活用）
5	Jitter objectを用いた映像処理１　（準備）
6	Jitter objectを用いた映像処理２（　ムービーの再生関連）
7	Jitter objectを用いた映像処理3（マトリックス処理）
8	Jitter objectを用いた映像処理4（画像の加工）
9	Jitter objectを用いた映像処理5（画像の合成、描画）
10	企画発表
11	制作実習１（企画）
12	制作実習２（各インターフェイスの作成）
13	制作実習３（パッチのくみ上げ）
14	制作実習４（デバック作業）
15	後期作品発表と総括

科目名	ライヴ・エレクトロニクス研究２　[火4]						
代表教員	森　威功	授業コード	IE264200	科目コード	IE2642	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

サウンド制作の基礎であるアナログ減算合成方式からFFT分析・再合成など高度な音声信号処理技術まで包括的に学ぶ。さらに、これらの技術が映画音楽や電子音響音楽の制作で同様に活用されているかを研究しサウンドデザインについての理解を深める。

２．授業概要

前期：アナログ減算合成方式の実習、　Maxの基本的なプログラミング手法を学び、様々な音合成、音響処理モジュールを制作する。

後期：高度な音響処理技術の習得、各々の方向性に基づいた作品を制作し授業内もしくは学内での演奏会で発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で配布するテキストを用いた復習と課題制作に多くの時間を費やしてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の６０％）　平常点（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。

参考文献：

『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版

『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	アナログ減算合成１（音色の三要素）
2	アナログ減算合成２（モジュレーション）
3	前期作品発表
4	Maxプログラミングの基礎
5	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（加算合成、減算合成）
6	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（変調合成）
7	サンプリング基礎
8	サンプリング応用
9	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（グラニュラ合成）
10	シグナル・ルーティングとGUI制作
11	音声入力分析１（基礎）
12	音声入力分析２（応用）
13	プログラミング実習１（基礎）
14	プログラミング実習２（応用）
15	前期作品発表とまとめ

授業計画	
	［後期］
1	DAWとの連携について
2	FFT基礎
3	FFT応用
4	FFT（実用的な活用）
5	Jitter objectを用いた映像処理１　（準備）
6	Jitter objectを用いた映像処理２（　ムービーの再生関連）
7	Jitter objectを用いた映像処理3（マトリックス処理）
8	Jitter objectを用いた映像処理4（画像の加工）
9	Jitter objectを用いた映像処理5（画像の合成、描画）
10	企画発表
11	制作実習１（企画）
12	制作実習２（各インターフェイスの作成）
13	制作実習３（パッチのくみ上げ）
14	制作実習４（デバック作業）
15	後期作品発表と総括

科目名	デジタル・オーケストレーション研究１　[火5]						
代表教員	森　威功	授業コード	IE265100	科目コード	IE2651	期間	通年
担当教員	永岡　宏昭						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の音楽制作の工程は以前よりもシンプルであるが、生楽器の録音を伴う作業は基本的に変わっていない。
この講座では、各教員の講義を参考にしながら、実際の音楽制作の流れを体験することにより、学生は音楽制作に必要な知識とスキルを得ることができる。

２．授業概要

この講座は各教員による講義・実習を通して実際の作品を制作する。　更にその作品をプロの演奏家により録音して作品を完成させる 、一連のミュージック・プロダクションを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

講義における課題曲の楽曲分析は事前に済ませておくこと。
録音した楽曲は、各自のスコアと照らし合わせ、録音時に生じた相違点は修正しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%
（指導教員が、履修者個々の指向性・研究過程・研究成果を総合的に考慮して、成績評価を決定する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修に際しては以下の条件を満たすこと。

１、コンピュータ、MIDI、デジタルオーディオに関する基本的な知識を持っていること。
２、スコア、パート譜が作成できること。

授業計画	
	［前期］ 各教員の講義を受け、デジタルオーケストレーションの作品の参考とする。
1	ガイダンス（講座概要）
2	デジタルオーケストレーション作品制作概論
3	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（音楽論）
4	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
5	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
6	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（制作論）
7	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（音楽論）
8	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
9	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
10	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（制作論）
11	作品制作
12	作品制作指導
13	デジタルオーケストレーション作品発表
14	デジタルオーケストレーション作品発表と講評
15	前期まとめと総評

授業計画	
	［後期］ 実際のプロダクションの流れに従いながら録音まで体験する。
1	後期ガイダンス（講座概要）
2	山下康介 ミュージックプロダクション（音楽論）
3	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
4	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
5	山下康介 ミュージックプロダクション（制作論）
6	各自実習用作品の準備（作品の構想）
7	作品指導（スコアの確認）
8	作品指導（パート譜の確認）
9	作品のレコーディング（前半）
10	作品のレコーディング(後半)
11	録音した作品のミックス作業
12	録音した作品のミックス作業（マスタリング）
13	作品発表
14	作品発表会
15	後期まとめと総評

科目名	デジタル・オーケストレーション研究２　[火5]						
代表教員	森　威功	授業コード	IE265200	科目コード	IE2652	期間	通年
担当教員	永岡　宏昭						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の音楽制作の工程は以前よりもシンプルであるが、生楽器の録音を伴う作業は基本的に変わっていない。
この講座では、各教員の講義を参考にしながら、実際の音楽制作の流れを体験することにより、学生は音楽制作に必要な知識とスキルを得ることができる。

２．授業概要

この講座は各教員による講義・実習を通して実際の作品を制作する。　更にその作品をプロの演奏家により録音して作品を完成させる 、一連のミュージック・プロダクションを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

講義における課題曲の楽曲分析は事前に済ませておくこと。
録音した楽曲は、各自のスコアと照らし合わせ、録音時に生じた相違点は修正しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%
（指導教員が、履修者個々の指向性・研究過程・研究成果を総合的に考慮して、成績評価を決定する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修に際しては以下の条件を満たすこと。

１、コンピュータ、MIDI、デジタルオーディオに関する基本的な知識を持っていること。
２、スコア、パート譜が作成できること。

授業計画	
	［前期］ 各教員の講義を受け、デジタルオーケストレーションの作品の参考とする。
1	ガイダンス（講座概要）
2	デジタルオーケストレーション作品制作概論
3	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（音楽論）
4	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
5	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
6	上倉　紀行 ミュージックプロダクション（制作論）
7	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（音楽論）
8	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
9	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
10	渡辺俊幸　ミュージックプロダクション（制作論）
11	作品制作
12	作品制作指導
13	デジタルオーケストレーション作品発表
14	デジタルオーケストレーション作品発表と講評
15	前期まとめと総評

授業計画	
	［後期］ 実際のプロダクションの流れに従いながら録音まで体験する。
1	後期ガイダンス（講座概要）
2	山下康介 ミュージックプロダクション（音楽論）
3	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
4	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
5	山下康介 ミュージックプロダクション（制作論）
6	各自実習用作品の準備（作品の構想）
7	作品指導（スコアの確認）
8	作品指導（パート譜の確認）
9	作品のレコーディング（前半）
10	作品のレコーディング(後半)
11	録音した作品のミックス作業
12	録音した作品のミックス作業（マスタリング）
13	作品発表
14	作品発表会
15	後期まとめと総評

科目名	録音・音響特殊研究１　［木2］						
代表教員	徳永　宏	授業コード	IE266100	科目コード	IE2661	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

サウンドレコーディングの基礎から応用まで、作品制作を交えながら習得。
そして現代の録音は多様化した各種メディアに最適化する必要性が求められます。
各種楽器やDAW音源の収音、編集、ミキシングなどすべての行程においてそれを意識する事を理解します。

２．授業概要

1：録音に於ける基本技術の安定的運用法を学ぶ。
2：各種録音技術を実践し個人作品の発表などに用いる素材の収音、編集ミックスを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

1：参考書、配布テキストによる予習。
2：授業内で録音した素材の編集、調整を各自のDAW内で研究する。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の60%）平常点（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献
「サウンドレコーディング技術概論」一般社団法人　日本音楽スタジオ協会

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	録音プロセス概要：基礎
2	音響基礎：音の性質、デシベルと音圧レベル
3	音響基礎：楽器の音響的な性質
4	録音基礎：モノーラル～ステレオフォニック収音
5	編集基礎：録音物の時間的編集
6	イコライゼーション、音質概要
7	ダイナミクス、音量管理概要
8	電気音響基礎：電気の基礎と基本回路
9	DAW音源の扱い方
10	オーケストラ収音概説
11	ミックスダウンテクニック：残響付加
12	ミックダウンテクニック：特殊表現
13	聴覚の周波数特性、ラウドネス等価について
14	マスタリング行程の有効性について
15	後期にむけての作品制作概要

授業計画	
	［後期］
1	録音プロセス概要：応用的な録音行程とは
2	録音実習：録音計画書の記し方 （プランニング基礎）
3	電気音響基礎：オーディオ回路
4	録音実習：ピアノ
5	電気音響基礎：デジタル技術の基礎
6	録音実習：ヴォーカル
7	サラウンド技術の基礎：5.1サラウンド
8	録音実習：弦楽器
9	各種録音フォーマット
10	録音実習：管楽器
11	編集基礎：録音物の音程編集
12	録音実習：各種合奏
13	各種メディアに対するミックスの考え方及び具体的手法
14	録音実習：効果音など様々な音源に対してにのアプローチ
15	作品発表と総括

科目名	録音・音響特殊研究２　［木4］						
代表教員	徳永　宏	授業コード	IE266200	科目コード	IE2662	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

サウンドレコーディングの基礎から応用まで、作品制作を交えながら習得。
そして現代の録音は多様化した各種メディアに最適化する必要性が求められます。
各種楽器やDAW音源の収音、編集、ミキシングなどすべての行程においてそれを意識する事を理解します。

２．授業概要

1：録音に於ける基本技術の安定的運用法を学ぶ。
2：各種録音技術を実践し個人作品の発表などに用いる素材の収音、編集ミックスを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

1：参考書、配布テキストによる予習。
2：授業内で録音した素材の編集、調整を各自のDAW内で研究する。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の60%）平常点（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献
「サウンドレコーディング技術概論」一般社団法人　日本音楽スタジオ協会

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	録音プロセス概要：基礎
2	音響基礎：音の性質、デシベルと音圧レベル
3	音響基礎：楽器の音響的な性質
4	録音基礎：モノーラル～ステレオフォニック収音
5	編集基礎：録音物の時間的編集
6	イコライゼーション、音質概要
7	ダイナミクス、音量管理概要
8	電気音響基礎：電気の基礎と基本回路
9	DAW音源の扱い方
10	オーケストラ収音概説
11	ミックスダウンテクニック：残響付加
12	ミックダウンテクニック：特殊表現
13	聴覚の周波数特性、ラウドネス等価について
14	マスタリング行程の有効性について
15	後期にむけての作品制作概要

授業計画	
	［後期］
1	録音プロセス概要：応用的な録音行程とは
2	録音実習：録音計画書の記し方 （プランニング基礎）
3	電気音響基礎：オーディオ回路
4	録音実習：ピアノ
5	電気音響基礎：デジタル技術の基礎
6	録音実習：ヴォーカル
7	サラウンド技術の基礎：5.1サラウンド
8	録音実習：弦楽器
9	各種録音フォーマット
10	録音実習：管楽器
11	編集基礎：録音物の音程編集
12	録音実習：各種合奏
13	各種メディアに対するミックスの考え方及び具体的手法
14	録音実習：効果音など様々な音源に対してにのアプローチ
15	作品発表と総括

科目名	映像特殊研究１　［金1］						
代表教員	山田　剛志	授業コード	IE267100	科目コード	IE2671	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

映像特殊研究では、単なる映像制作やそのスキルの習得を目標とするのではなく、自身の目指す表現を実現するための複合的なアイディア、考えた方の獲得を目指す。最終的には音楽と視覚の関係について研究することが目的である。

２．授業概要

前期は、一般的な映像制作の企画、動画、静止画の制作方法を概観し、視覚的な効果と音との関連性について学習する。後期においては、作品の表現を実現するための複合的な考え方、ツールの使い方、制作方法の習得を目指す。限られた時間で創作するため、効率的な作業計画、実施に努めること。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

PCの基本操作、各アプリケーションの使用方法は、事前に予習しておくこと。
使用するソフトウェア：Photoshop, Illustrator, AfterEffects, Unity, MAYA

４．成績評価の方法及び基準

作品への取り組み60%、授業への取り組み40%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

※参考文献（進行具合に寄って変更する可能性があります）
・Mayaベーシックス　3DCG基礎力育成ブック
・After Effects FIRST LEVEL:ゼロからはじめる映像制作基礎テクニック
・Unityの教科書 Unity 2018完全対応版
・Unity ゲームエフェクト入門 Shurikenで作る! ユーザーを引き込む演出手法

その他、指導教員の指示に従い準備すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	環境のセットアップは第3回目開始までに完了しておくこと。 レンダリングについては、非常に時間がかかる場合があるので、右記の計画を遂行するには、事前に出力しておくなど事前の準備が必要である。
1	ガイダンス
2	環境のセットアップ（MAYA、Unity、Adobe系ソフト）
3	映像制作の基礎1（映像の歴史、ゲームにおける映像表現）
4	映像制作の基礎1（映像を企画するということ、絵コンテ）
5	MAYA基礎1（基本的なワークフロー）
6	MAYA基礎2（モデリング、テクスチャ）
7	MAYA基礎3（ライティング、レンダリング）
8	MAYA基礎4（アニメーション）
9	AfterEffects（基本的なワークフロー）
10	AfterEffects（素材を読み込んで編集してみる）
11	AfterEffects（映像にエフェクトをつけてみる）
12	AfterEffects（映像に音をつけてみる）
13	Unity（基本的なワークフロー、素材を読みこんでみる）
14	Unity（簡単な世界をつくってみる）
15	Unity（簡単なゲームをつくってみる）

授業計画	
	自身の名前をクレジットする作品を作るという意識を持って企画を考える必要性、心構えについて
1	ケーススタディ・１（映像と音楽の組み合わせ）
2	ケーススタディ・２（映像とSEの組み合わせ）
3	ケーススタディ・２（ゲームと映像の組み合わせ）
4	企画立案（アイディア検討）
5	映像構成作成（草案、字コンテ）
6	絵コンテ作成
7	絵コンテに従い素材制作
8	絵コンテに従い素材制作（修正など手直し）
9	編集作業(PCに取り込み)
10	編集作業
11	音楽・サウンドの準備
12	出力作業（目的別に応じたセットアップ）
13	出力作業（バッチによる出力）
14	作品提出・レポート提出
15	作品上映・講評

科目名	映像特殊研究２　[金3]						
代表教員	山田　剛志	授業コード	IE267200	科目コード	IE2672	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	映像特殊研究１						
教員免許状							

１．主題・到達目標

映像特殊研究では、単なる映像制作やそのスキルの習得を目標とするのではなく、自身の目指す表現を実現するための複合的なアイディア、考えた方の獲得を目指す。最終的には音楽と視覚の関係について研究することが目的である。

２．授業概要

前期は、一般的な映像制作の企画、動画、静止画の制作方法を概観し、視覚的な効果と音との関連性について学習する。後期においては、作品の表現を実現するための複合的な考え方、ツールの使い方、制作方法の習得を目指す。限られた時間で創作するため、効率的な作業計画、実施に努めること。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

PCの基本操作、各アプリケーションの使用方法は、事前に予習しておくこと。
使用するソフトウェア：Photoshop, Illustrator, AfterEffects, Unity, MAYA

４．成績評価の方法及び基準

作品への取り組み60%、授業への取り組み40%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

※参考文献（進行具合に寄って変更する可能性があります）
・Mayaベーシックス　3DCG基礎力育成ブック
・After Effects FIRST LEVEL:ゼロからはじめる映像制作基礎テクニック
・Unityの教科書 Unity 2018完全対応版
・Unity ゲームエフェクト入門 Shurikenで作る! ユーザーを引き込む演出手法

その他、指導教員の指示に従い準備すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	環境のセットアップは第3回目開始までに完了しておくこと。 レンダリングについては、非常に時間がかかる場合があるので、右記の計画を遂行するには、事前に出力しておくなど事前の準備が必要である。
1	ガイダンス
2	環境のセットアップ（MAYA、Unity、Adobe系ソフト）
3	映像制作の基礎1（映像の歴史、ゲームにおける映像表現）
4	映像制作の基礎1（映像を企画するということ、絵コンテ）
5	MAYA基礎1（基本的なワークフロー）
6	MAYA基礎2（モデリング、テクスチャ）
7	MAYA基礎3（ライティング、レンダリング）
8	MAYA基礎4（アニメーション）
9	AfterEffects（基本的なワークフロー）
10	AfterEffects（素材を読み込んで編集してみる）
11	AfterEffects（映像にエフェクトをつけてみる）
12	AfterEffects（映像に音をつけてみる）
13	Unity（基本的なワークフロー、素材を読みこんでみる）
14	Unity（簡単な世界をつくってみる）
15	Unity（簡単なゲームをつくってみる）

授業計画	
	自身の名前をクレジットする作品を作るという意識を持って企画を考えること
1	ケーススタディ・１（映像と音楽の組み合わせ）
2	ケーススタディ・２（映像とSEの組み合わせ）
3	ケーススタディ・２（ゲームと映像の組み合わせ）
4	企画立案（アイディア検討）
5	映像構成作成（草案、字コンテ）
6	絵コンテ作成
7	絵コンテに従い素材制作
8	絵コンテに従い素材制作（修正など手直し）
9	編集作業(PCに取り込み)
10	編集作業
11	音楽・サウンド準備
12	出力作業（目的別に応じたセットアップ）
13	出力作業（バッチによる出力）
14	作品提出・レポート提出
15	作品上映・講評

科目名	作曲法特殊研究１　［月1］（作曲）						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	IE2701A0	科目コード	IE2701	期間	
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲法という言葉はさまざまなテクニックを指すが、本授業においては特に和声法について、これまでに修得してきたテクニックをさらに向上させることを主題とする。

和声法は２０世紀にH.シャランをはじめとする理論家によって大きな発展を遂げた。日本においても島岡譲氏らによる『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅲ』（音楽之友社）により例えば模倣反復進行、偶成和音、保続音、２個の主題の同時的提示をもつバス課題、階梯導入をもつバス課題など、さまざまな概念や課題様式が考案された。さらに、特にフランスにおいて特定の作曲家の和声様式に基づく課題などへと発展し今日に至る。

本授業では、それらの課題様式における難度の高い課題を中心に修得するとともに、それらの課題を作成する力を身につけることを目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声 理論と実習 Ⅲ』（音楽之友社）
『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）
『Vingt Leçons d'Harmonie』（O.メシアン著／LEDUC社刊）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定 課題の研究　反復進行、偶成和音、保続音を含む課題
2	課題の創作　反復進行、偶成和音、保続音を含む課題
3	課題の研究　内声における主題再現を含む課題
4	課題の創作　内声における主題再現を含む課題
5	模範例作成　内声における主題再現を含む課題
6	課題の研究　反復進行を含む課題
7	課題の創作　反復進行を含む課題
8	模範例作成　反復進行を含む課題
9	課題の研究　偶成和音を含む課題
10	課題の創作　偶成和音を含む課題
11	模範例作成　偶成和音を含む課題
12	課題の研究　２個の主題の同時的提示をもつバス課題
13	課題の創作　２個の主題の同時的提示をもつバス課題
14	模範例作成　２個の主題の同時的提示をもつバス課題
15	前期のまとめと講評

授業計画	
	［後期］
1	課題の研究　J.S.バッハ様式
2	課題の創作　J.S.バッハ様式
3	模範例作成　J.S.バッハ様式
4	課題の研究　W.A.モーツァルト様式
5	課題の創作　W.A.モーツァルト様式
6	模範例作成　W.A.モーツァルト様式
7	課題の研究　R.シューマン様式
8	課題の創作　R.シューマン様式
9	模範例作成　R.シューマン様式
10	課題の研究　J.ブラームス様式
11	課題の創作　J.ブラームス様式
12	模範例作成　J.ブラームス様式
13	課題の研究　R.ワーグナー様式
14	課題の創作　R.ワーグナー様式
15	模範例作成　R.ワーグナー様式 １年間の総括

科目名	作曲法特殊研究１　［木5］（二胡）						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	IE2701B0	科目コード	IE2701	期間	通年
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

西洋音楽における五線を用いる記譜法は、今日では 世界に広く浸透し、あらゆる音楽の記譜に用いられる ようになってきた。しかし、五線記譜法は全ての音楽 を書き表すのに適しているというわけではなく、今日 でも各地域の文化、伝統によって独自の記譜法が定着 している楽器や、口伝によって受け継がれている音楽 も存在する。西洋音楽でも音符で書き表さず、記号(装 飾音)の使用によって旋律の装飾を指示することもあ る。一方、楽譜に指示がなくても自由な装飾を施す必 要のある作品もある。

本授業では、①五線記譜法とそれ以外の記譜法の違 いを研究し、相互に書き表す方法を修得すること ② 様々な楽器の奏法や音楽語法を考察し、各自の専攻へ 応用できるようになることを主題及び目標とする。

作曲法特殊研究１では、主に中国の二胡の記譜法を学び、五線記譜法との連携を研究する。さらに楽曲の作成に取り組み、新たな二胡の音楽の可能性を見出していく。

２．授業概要

例えば日本における箏や三味線、中国における二胡など、それぞれの楽器や音楽文化における独自の記譜法について、五線記譜法との違いを研究する。各楽器については専門家のアドバイスを受ける。

また、作曲・編曲をおこないながら、音の響きや曲の展開方法などを研究し、さまざまな音楽作品を的確に解釈する能力を養っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、日頃より多くの楽譜を書き、それを演奏することで、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『楽譜の書き方』（平石博一著／東京ハッスルコピー）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	記譜の研究（二胡）
3	記譜の実践（二胡）
4	編曲の研究　編曲作品の研究
5	編曲の実践　歌曲からの編曲
6	編曲の実践　弦楽器の作品からの編曲
7	編曲の実践　ピアノの作品からの編曲
8	作曲演習　作曲にあたっての注意
9	作曲演習（二胡）曲の構成
10	作曲演習（二胡）テーマの作成
11	作曲演習（二胡）テーマの展開
12	作曲演習（二胡）ニュアンス、アゴーギク等の音楽表現
13	作曲演習（二胡）浄書
14	作曲演習（二胡）演奏
15	前期の総括と講評

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス　目標設定
2	西洋音楽の記譜法　音高、音価、リズム
3	西洋音楽の記譜法　拍子
4	西洋音楽の記譜法　装飾音
5	西洋音楽の楽曲研究　形式
6	西洋音楽の楽曲研究　和声
7	西洋音楽の楽曲研究　弦楽器とピアノの作品
8	作曲演習（二胡とピアノ）曲の構成
9	作曲演習（二胡とピアノ）テーマの作成
10	作曲演習（二胡とピアノ）テーマの展開
11	作曲演習（二胡とピアノ）伴奏部の作成
12	作曲演習（二胡とピアノ）浄書
13	作曲演習（二胡とピアノ）演奏
14	日本音楽の記譜法（箏、尺八、三味線）
15	後期の総括と講評

科目名	作曲法特殊研究２　［月1］（作曲）						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	IE2702A0	科目コード	IE2702	期間	
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲法という言葉はさまざまなテクニックを指すが、本授業においては特に和声法について、これまでに修得してきたテクニックをさらに向上させることを主題とする。

和声法は２０世紀にH.シャランをはじめとする理論家によって大きな発展を遂げた。日本においても島岡譲氏らによる『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅲ』（音楽之友社）により例えば模倣反復進行、偶成和音、保続音、２個の主題の同時的提示をもつバス課題、階梯導入をもつバス課題など、さまざまな概念や課題様式が考案された。さらに、特にフランスにおいて特定の作曲家の和声様式に基づく課題などへと発展し今日に至る。

本授業では、それらの課題様式における難度の高い課題を中心に修得するとともに、それらの課題を作成する力を身につけることを目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声 理論と実習 Ⅲ』（音楽之友社）
『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）
『Vingt Leçons d'Harmonie』（O.メシアン著／LEDUC社刊）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定 課題の研究　階梯導入をもつバス課題
2	課題の創作　階梯導入をもつバス課題
3	模範例作成　階梯導入をもつバス課題
4	課題の研究　H. シャラン 380 の和声課題集第９巻
5	課題の創作　H. シャランの様式による課題（第９巻）
6	模範例作成　H. シャランの様式による課題（第９巻）
7	課題の研究　H. シャラン 380 の和声課題集第 10 巻
8	課題の創作　H. シャランの様式による課題（第 10 巻）
9	模範例作成　H. シャランの様式による課題（第 10 巻）
10	課題の研究　音楽大学入試におけるバス課題
11	課題の創作　音楽大学入試におけるバス課題
12	課題の研究　音楽大学入試におけるソプラノ課題
13	課題の創作　音楽大学入試におけるソプラノ課題
14	模範例作成　音楽大学入試における課題
15	前期のまとめと講評

授業計画	
	［後期］
1	課題の研究　J.P.　ラモー様式
2	課題の創作　J.P.　ラモー様式
3	模範例作成　J.P.　ラモー様式
4	課題の研究　C.　フランク様式
5	課題の創作　C.　フランク様式
6	模範例作成　C.　フランク様式
7	課題の研究　G.　フォーレ様式
8	課題の創作　G.　フォーレ様式
9	模範例作成　G.　フォーレ様式
10	課題の研究　C.　ドビュッシー様式
11	課題の創作　C.　ドビュッシー様式
12	模範例作成　C.　ドビュッシー様式
13	課題の研究　M.　ラヴェル様式
14	課題の創作　M.　ラヴェル様式
15	模範例作成　M.　ラヴェル様式 １年間の総括

科目名	作曲法特殊研究２　［木5］（二胡）						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	IE2702B0	科目コード	IE2702	期間	通年
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

西洋音楽における五線を用いる記譜法は、今日では世界に広く浸透し、あらゆる音楽の記譜に用いられるようになってきた。しかし、五線記譜法は全ての音楽を書き表すのに適しているというわけではなく、今日でも各地域の文化、伝統によって独自の記譜法が定着している楽器や、口伝によって受け継がれている音楽も存在する。

本授業では、①五線記譜法とそれ以外の記譜法の違いを研究し、相互に書き表す方法を修得すること ②様々な楽器の奏法や音楽語法を考察し、各自の専攻へ応用できるようになることを主題及び目標とする。

作曲法特殊研究2では、さらに様々な楽器を用いての作曲、編曲の力を身につけることを目標とする。

２．授業概要

例えば日本における箏や三味線、中国における二胡など、さまざまな楽器や文化における独自の記譜法について、五線記譜法との違いを研究する。五線記譜法の音楽を独自の記譜法に翻訳すること、または独自の記譜法から五線記譜法に翻訳することを通じて、各楽器の専門家のアドバイスを受けながら、記譜と読譜を総合的に学ぶ。また、様々な地域の音楽のリズムや旋法について考察し、理解を深めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、日頃より多くの楽譜を書き、それを演奏することで、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『楽譜の書き方』（平石博一著／東京ハッスルコピー）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽器の研究（二胡）
3	合奏の研究（複数の二胡による）
4	合奏の実践（複数の二胡による ）
5	合奏の編曲演習（複数の二胡による）
6	楽器の研究（ ヴァイオリン ）
7	作品の研究（ ヴァイオリンとピアノの二重奏 ）
8	合奏の研究（二胡、ピアノ）
9	合奏の実践（二胡、ピアノ）
10	合奏の編曲演習（二胡、ピアノ）
11	編曲の研究（ ピアノ曲の二胡、ピアノ二重奏への編曲 ）
12	ピアノ曲の編曲演習１（選曲、編曲）
13	ピアノ曲の編曲演習２（編曲、浄書）
14	ピアノ曲の編曲演習３（演奏）
15	前期のまとめと講評

授業計画	
	［後期］
1	楽器の研究（ リュート ）
2	記譜の研究（リュートのタブラチュア）
3	記譜の実践（リュートのタブラチュア）
4	編曲演習（リュート）
5	楽器の研究（ 箏、尺八 ）
6	記譜の研究（ 箏、尺八 ）
7	記譜の実践（ 箏、尺八 ）
8	インド音楽の研究
9	南米音楽の研究
10	フラメンコの研究
11	作曲演習１（テーマの作成、楽曲の構成）
12	作曲演習２（作曲）
13	作曲演習３（作曲、浄書）
14	作曲演習４（演奏）
15	１年間の総括

科目名	楽曲分析法特殊研究１　[月2]						
代表教員	那須田　務	授業コード	IE271100	科目コード	IE2711	期間	通年
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

どのようなジャンルの音楽家にとっても、西洋クラシックの歴史や美学史の知識は、自らの創作や演奏活動の発展の礎となる。そこで、前期は主に各時代の音楽について、社会的文化的背景、美学、楽譜、音楽様式、楽器、演奏習慣など様々な観点から学ぶ。ディスカッションを交えて自ら考える力を養う。

２．授業概要

授業は主に講義形式で進められるが、ときには文献や楽譜をもとに自ら研究・発表・ディスカッションを行う。それを通して具体的な研究方法を身に着けると同時に、論理的な思考力、文章力、話をする力を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習は当然ながら、あらゆる時代の音楽への関心を持ち、自発的に研究する態度を求めたい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度担当教員が指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修者の専門分野や関心ごとにも考慮した内容を心掛ける。また、授業計画で挙げられた授業回数とともに、授業時間外の学習時間が必要となるので留意されたい。

授業計画	
	［前期］
1	導入
2	古代ギリシャの音楽　時代背景・思想・音楽理論など
3	中世の音楽～芸術理念・キリスト教典礼音楽の隆盛
4	中世の音楽～音楽理論と哲学
5	中世の音楽～初期の多声音楽と様々な典礼音楽
6	中世の音楽～ノートルダム楽派、アルス・アンティクワ
7	中世の音楽～ノートルダム楽派
8	中世の音楽～アルス・ノーヴァ、様々な楽器と演奏の実践
9	中世の音楽～楽器と演奏習慣
10	ルネサンス音楽～精神思潮としての人文主義、社会、出来事
11	ブルゴーニュ楽派、デュファイとバンショワ、ルネサンス初期の声楽形式
12	盛期ルネサンス音楽～フランドル楽派、ジョスカン・デ・プレ他
13	ルネサンス音楽～各地の音楽・ドイツ、フランス、イギリス、イタリア
14	バロック音楽～芸術、精神、初期の音楽の様相
15	バロック音楽～イタリア・オペラの発展

授業計画	
	［後期］
1	バロック音楽～17世紀の器楽曲
2	バロック音楽～後期　イタリア、ドイツ、フランス
3	バロック音楽 - バッハ・ヘンデル
4	前古典派と古典派音楽　総論
5	古典派音楽～モーツァルト・ハイドン
6	ベートーヴェンとその時代
7	ベートーヴェン　交響曲第9番「合唱付き」
8	ロマン主義の時代精神、美学
9	シューマンの人と作品
10	メンデルスゾーンの人と作品
11	ヴィルトゥオーゾの時代～パガニーニの《24のカプリース》分析
12	ベルリオーズ《幻想交響曲》
13	ショパンの人と作品
14	19世紀前半の他の作曲家たち
15	授業のまとめ

科目名	楽曲分析法特殊研究２　[月2]						
代表教員	那須田　務	授業コード	IE271200	科目コード	IE2712	期間	通年
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

どのようなジャンルの音楽家にとっても、西洋クラシックの歴史や美学史の知識は、自らの創作や演奏活動の発展の礎となります。楽曲分析法特殊研究１では西洋音楽の歴史をロマン派の何人かの作曲家を取り上げました。当講座は主にそれ以外の作曲家を扱い、音楽美学入門として音楽の根源的な問題について考えます。

２．授業概要

授業は主に講義形式で進められるが、ときには文献や楽譜をもとに自ら研究・発表・ディスカッションを行う。それを通して具体的な研究方法を身に着けると同時に、論理的な思考力、文章力、話をする力を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習は当然ながら、あらゆる時代の音楽への関心を持ち、自発的に研究する態度を求めたい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度担当教員が指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修者の専門分野や関心ごとにも考慮した内容を心掛ける。また、授業計画で挙げられた授業回数とともに、授業時間外の学習時間が必要となるので留意されたい。

授業計画	
	［前期］
1	ロマン派の作曲家～シューベルト
2	ロマン派の作曲家～ショパン
3	ロマン派の作曲家～シューマン
4	ロマン派の作曲家～パガニーニ
5	ロマン派の作曲家～メンデルスゾーン
6	ロマン派の作曲家～ヴェーバー
7	ロマン派の作曲家～ヴァーグナー
8	ロマン派の作曲家～ビゼー
9	ベルカント・オペラの作曲家～ロッシーニ
10	ベルカント・オペラの作曲家～ドニゼッティとベッリーニ
11	ロマン派の作曲家～ヴェルディ
12	イタリア・オペラ～プッチーニ
13	フランス自然主義文学とヴェリスモ・オペラ
14	ドビュッシーとその時代
15	ラヴェル、サティ

授業計画	
	［後期］
1	表現主義芸術と新ウィーン楽派
2	シェーンベルクと12音技法
3	セリー音楽とその後の展開
4	新古典主義音楽と新即物主義
5	20世紀のロマン主義～シベリウス
6	ソヴィエト連邦の時代の音楽
7	20世紀アメリカの音楽
8	20世紀の日本の音楽
9	音楽美学～音と音楽の本質的特徴
10	音楽美学～音楽作品と楽譜・鳴り響き
11	音楽美学～体験としての音楽
12	音楽美学～音楽作品を理解することとは？
13	音楽美学思想の流れ～古代から近世
14	音楽美学思想の流れ～近代から現代へ
15	授業のまとめ

科目名	アンサンブル特殊研究１　[月3]						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	IE272100	科目コード	IE2721	期間	通年
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

民族楽器などを含むさまざまな楽器における旋律線を深く研究し、新たな可能性を模索するとともに、その旋律線に対しての和声法を研究する。西洋音楽における和声法にとどまらず、旋法や五音音階など幅広い音階に目を向けて研究する。
また完成した旋律、ハーモニーをもとにどのようなアンサンブルが可能かを研究し、作曲と演奏の両面に実践につなげていく。
アンサンブル特殊研究１では、西洋の伝統的な旋法を中心に研究する。

２．授業概要

授業ではさまざまな旋律線を研究するが、西洋音楽の記譜法によって表現できないなど、場合によっては記譜法も研究する。最終的には楽譜を制作し、アンサンブル可能な形へとスコア、パート譜等を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施し、完成させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）
平常点には授業への参加姿勢や毎回の課題の達成度、そして授業内でのアンサンブルの完成度が含まれる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（O.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/theory/classic/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	長短旋法と教会旋法につて
3	旋律と和声の研究（長旋法と和声）
4	合奏譜の作成演習（長旋法と和声）
5	アンサンブル演習（長旋法と和声）
6	旋律と和声の研究（短旋法と和声）
7	合奏譜の作成演習（短旋法と和声）
8	アンサンブル演習（短旋法と和声）
9	旋律と和声の研究（エオリア旋法と和声）
10	合奏譜の作成演習（エオリア旋法と和声）
11	アンサンブル演習（エオリア旋法と和声）
12	旋律と和声の研究（ドリア旋法と和声）
13	合奏譜の作成演習（ドリア旋法と和声）
14	アンサンブル演習（ドリア旋法と和声）
15	前期のまとめと講評

授業計画	
	［後期］
1	旋律と和声の研究（フリギア旋法と和声）
2	合奏譜の作成演習（フリギア旋法と和声）
3	アンサンブル演習（フリギア旋法と和声）
4	旋律と和声の研究（リディア旋法と和声）
5	合奏譜の作成演習（リディア旋法と和声）
6	アンサンブル演習（リディア旋法と和声）
7	旋律と和声の研究（ミクソリディア旋法と和声）
8	合奏譜の作成演習（ミクソリディア旋法と和声）
9	アンサンブル演習（ミクソリディア旋法と和声）
10	教会旋法を用いた作曲演習
11	様々な西洋の音階（ハンガリー、ジプシーなど）について
12	旋律と和声の研究（様々な西洋の音階）
13	合奏譜の作成演習（様々な西洋の音階）
14	アンサンブル演習（様々な西洋の音階）
15	１年間の総括

科目名	アンサンブル特殊研究２　［月3］						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	IE272200	科目コード	IE2722	期間	通年
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

民族楽器などを含むさまざまな楽器における旋律線を深く研究し、新たな可能性を模索するとともに、その旋律線に対しての和声法を研究する。西洋音楽における和声法にとどまらず、旋法や五音音階など幅広い音階に目を向けて研究する。
また完成した旋律、ハーモニーをもとにどのようなアンサンブルが可能かを研究し、作曲と演奏の両面に実践につなげていく。
アンサンブル特殊研究２では、東洋の伝統的な旋法に加え、２０世紀に考案された旋法を中心に研究する。

２．授業概要

授業ではさまざまな旋律線を研究するが、西洋音楽の記譜法によって表現できないなど、場合によっては記譜法も研究する。最終的には楽譜を制作し、アンサンブル可能な形へとスコア、パート譜等を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施し、完成させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）
平常点には授業への参加姿勢や毎回の課題の達成度、そして授業内でのアンサンブルの完成度が含まれる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（O.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/theory/classic/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	日本と中国の音階について
3	旋律と和声の研究（日本の音階と和声）
4	合奏譜のスケッチ作成（日本の音階と和声）
5	合奏譜の制作（日本の音階と和声）
6	アンサンブル演習（日本の音階と和声）
7	旋律と和声の研究（中国の音階と和声）
8	合奏譜のスケッチ作成（中国の音階と和声）
9	合奏譜の制作（中国の音階と和声）
10	アンサンブル演習（中国の音階と和声）
11	全音音階と和音の可能性について
12	旋律と和声の研究（全音音階）
13	合奏譜のスケッチ作成（全音音階）
14	合奏譜の制作（全音音階）
15	アンサンブル演習（全音音階）

授業計画	
	［後期］
1	移調の限られた旋法（MTL）について
2	旋律と和声の研究（MTL２～４番と和声）
3	合奏譜のスケッチ作成（MTL２～４番と和声）
4	合奏譜の制作（MTL２～４番と和声）
5	アンサンブル演習（MTL２～４番と和声）
6	旋律と和声の研究（MTL５～７番と和声）
7	合奏譜のスケッチ作成（MTL５～７番と和声）
8	合奏譜の制作（MTL５～７番と和声）
9	アンサンブル演習（MTL５～７番と和声）
10	MTLを用いた作曲演習
11	合奏譜の制作（西洋の楽器を中心に）
12	アンサンブル演習（西洋の楽器を中心に）
13	合奏譜の制作（東洋の楽器を中心に）
14	アンサンブル演習（東洋の楽器を中心に）
15	１年間の総括

科目名	プロフェッショナル特殊研究I						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE275100	科目コード	IE2751	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	外国人教授の授業は、通訳が付かない場合もあるので、ある程度の外国語（英語・伊語など）理解力が必要						
教員免許状							

１．主題・到達目標

学生各自の研究テーマおよび目標にあわせて、招聘教授・本学客員教授による指導により、専門家としてのスキル向上を目指す。

２．授業概要

演奏法・表現法の演習を行う。その他演奏家にとって必要なスキルを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に教員から与えられた課題をよく理解して、各自で必ず復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を重視する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自研究テーマに沿って準備する。その他ガイダンス時に各指導教員より指示がある

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演奏曲、研究課題は各レッスン担当教員と相談すること

授業計画	
	［前期］ 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。
1	前期ガイダンス（演奏法に関する演習）
2	各自の研究テーマにより課題を選曲し研究する
3	イタリア語研究課題について
4	イタリア語における母音発語法
5	イタリア語における子音発語法
6	歌唱における呼吸運動について
7	イタリア語における言葉と響きについて
8	課題における表現法の演習　基本
9	課題における表現法の演習　応用
10	演習とまとめ
11	発声法講座
12	合唱指導法講座
13	宗教曲講座
14	音楽家のための英会話
15	音楽家のための体幹トレーニング

授業計画	
	［後期］ 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。
1	後期ガイダンス（表現法に関する演習）
2	感情表現と身体表現についての考察
3	ヨーロッパにおける感情表現について
4	慣習から考察する表現、演奏法について
5	身体表現を加えた演奏法の演習
6	課題による舞台表現の演習
7	課題による舞台表現及び舞台マナーについての考察
8	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習　基本
9	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習　応用
10	与えられた課題による舞台表現の演習とまとめ
11	日本歌曲特別講座
12	フランス歌曲特別講座
13	ドイツ歌曲特別講座
14	イタリア歌曲特別講座
15	１年間の授業の統括

科目名	プロフェッショナル特殊研究II						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE275200	科目コード	IE2752	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	外国人教授の授業は、通訳が付かない場合もあるので、ある程度の外国語（英語・伊語など）理解力が必要						
教員免許状							

１．主題・到達目標

学生各自の研究テーマおよび目標にあわせて、招聘教授・本学客員教授による指導により、専門家としてのスキル向上を目指す。

２．授業概要

演奏法・表現法の演習を行う。その他演奏家にとって必要なスキルを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に教員から与えられた課題をよく理解して、各自で必ず復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を重視する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自研究テーマに沿って準備する。その他ガイダンス時に各指導教員より指示がある

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演奏曲、研究課題は各レッスン担当教員と相談すること

授業計画	
	［前期］ 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。
1	前期ガイダンス（演奏法に関する演習）
2	各自の研究テーマにより課題を選曲し研究する
3	イタリア語研究課題について
4	イタリア語における母音発語法
5	イタリア語における子音発語法
6	歌唱における呼吸運動について
7	イタリア語における言葉と響きについて
8	課題における表現法の演習　基本
9	課題における表現法の演習　応用
10	演習とまとめ
11	発声法講座
12	合唱指導法講座
13	宗教曲講座
14	音楽家のための英会話
15	音楽家のための体幹トレーニング

授業計画	
	［後期］ 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。
1	後期ガイダンス（表現法に関する演習）
2	感情表現と身体表現についての考察
3	ヨーロッパにおける感情表現について
4	慣習から考察する表現、演奏法について
5	身体表現を加えた演奏法の演習
6	課題による舞台表現の演習
7	課題による舞台表現及び舞台マナーについての考察
8	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習　基本
9	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習　応用
10	与えられた課題による舞台表現の演習とまとめ
11	日本歌曲特別講座
12	フランス歌曲特別講座
13	ドイツ歌曲特別講座
14	イタリア歌曲特別講座
15	１年間の授業の統括

科目名	オペラ研究１・２　[水4-5、木2-4]						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE275300	科目コード	IE2753d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オペラ歌手として舞台に立つための様々な基礎的内容の習得、各々の声に応じた作品による音楽表現・舞台身体表現の研究を踏まえ、オペラ・ガラコンサートにおいて課題の作品を完成させる。

２．授業概要

前期、モーツァルトを題材とし、レチタティーヴォを中心に研究する。
前期は主にディクション、音楽稽古を中心に行い、後期は一部演目を変えて、「オペラガラコンサート」に向けて稽古を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回与えられた課題、問題点を解決できるよう自主練習をすること

４．成績評価の方法及び基準

授業の参加姿勢、習熟度を評価する。
更に成果発表であるオペラガラコンサートでの評価を含める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

自分の演奏する楽譜に関しては各自で用意する。版について指定のある場合は事前に告知する。その他、必要なものは授業内で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自課題とするオペラ作品のヴォーカル・スコアを準備すること。
欠席回数、遅刻早退回数が多い場合は単位認定を行わない。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンスと授業概要説明
2	コレペティトールによる音楽研究 「フィガロの結婚」から、イタリア語における発語の基礎
3	コレペティトールによる音楽研究 「フィガロの結婚」からモーツアルトにおける楽譜の解析
4	コレペティトールによる音楽研究 「魔笛」から、ドイツ語の発語の基礎
5	コレペティトールによる音楽研究 「魔笛」から、楽譜の解析と読解
6	指揮者による音楽研究 「フィガロの結婚」から、言葉と音のつながりについて
7	指揮者による音楽研究 「フィガロの結婚」から、各キャラクターの音楽表現について
8	指揮者による音楽研究 「魔笛」による役作りと音の表現について
9	演出家による音楽研究 「フィガロの結婚」作品の背景について
10	演出家による音楽研究 「魔笛」作品の背景について
11	声楽講師による音楽研究 「フィガロの結婚」「椿姫」より
12	声楽講師による音楽研究 「フィガロの結婚」声の表現と身体表現について
13	声楽講師による音楽研究 「魔笛」における発声を基本とする台詞表現について
14	指揮者と演出家よる音楽チェック
15	前期まとめとして、授業内発表

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス・後期オペラガラコンサートに向けて、演目の決定
2	声楽講師による音楽研究／各曲の作品考察　基本
3	声楽講師による音楽研究／各曲の作品考察　応用
4	演出家による作品への考察
5	演出家による各場面への考察
6	立ち稽古(荒立ち)「フィガロの結婚」その他希望の演目
7	立ち稽古「フィガロの結婚」その他希望の演目
8	立ち稽古「フィガロの結婚」／基本動作
9	立ち稽古「フィガロの結婚」／舞台上の道具の扱い等
10	立ち稽古　各演目の演技の基本
11	立ち稽古　各演目の動きの応用
12	各演目荒通し
13	各演目荒通し　確認
14	G.P.
15	「オペラ・ガラコンサート」成果発表

科目名	アンサンブル研究１　［月2］						
代表教員	櫻田　亮	授業コード	IE275500	科目コード	IE2755	期間	通年
担当教員	柳澤　涼子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

キリスト教宗教音楽の声楽作品について、独唱曲、重唱曲、合唱曲を総合的に演習・研究し、それぞれの演奏に必要な技術、表現力などを修得する。

２．授業概要

主にバロック時代や古典派の、ミサ曲、オラトリオなどから、作品を全曲あるいは抜粋して取り上げて演習・研究し、履修年度内に研究発表演奏会を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自の研究課題について、授業内で教員から与えられるアドヴァイスに従い、必要な予備研究等を行う。

４．成績評価の方法及び基準

研究発表演奏会での演奏内容、授業への参加姿勢を評価の対象とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で発表する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修年度内に行われる研究発表演奏会への出演を前提として履修すること。必要に応じて補講を行う場合があるので、できる限り参加すること。また各自の研究課題以外に、他の学生の研究課題にも興味を持ち、積極的に授業に臨むこと。
授業への出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 授業の進度により変更有
1	前期ガイダンス
2	研究課題曲の選定
3	研究課題曲の決定
4	研究課題曲のディクションと解釈
5	パート練習実践
6	自分と違うパートの指導実践
7	意見交換を含めてのパート練習実践
8	独唱曲の聴きあい
9	意見交換を含めて独唱曲を研究
10	個々に研究し再度独唱曲の聴きあい
11	本番を想定しての独唱曲の演奏
12	フィードバッグをしさらに独唱曲の研究
13	独唱曲おさらい会
14	前期反省会
15	後期に向けてのガイダンス

授業計画	
	［後期］ 授業の進度により変更有
1	後期ガイダンス
2	研究発表演奏会に向けて曲目の意見交換
3	研究発表演奏会に向けての曲目選定
4	研究発表演奏会に向けての曲目決定
5	ソリストをオーディション
6	ソリスト決定
7	研究課題曲のパート練習
8	研究課題曲のディクションと解釈
9	歌唱演習
10	歌唱演習及び表現の研究
11	パートごと課題曲を演奏
12	フィードバック後の課題曲の演奏
13	全体合唱合わせ
14	研究発表演奏会に向けて最終確認
15	研究発表演奏会のG.P

科目名	アンサンブル研究２　[月2]						
代表教員	櫻田　亮	授業コード	IE275600	科目コード	IE2756	期間	通年
担当教員	柳澤　涼子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

キリスト教宗教音楽の声楽作品について、独唱曲、重唱曲、合唱曲を総合的に演習・研究し、それぞれの演奏に必要な技術、表現力などを修得する。

２．授業概要

主にバロック時代や古典派の、ミサ曲、オラトリオなどから、作品を全曲あるいは抜粋して取り上げて演習・研究し、履修年度内に研究発表演奏会を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自の研究課題について、授業内で教員から与えられるアドヴァイスに従い、必要な予備研究等を行う。

４．成績評価の方法及び基準

研究発表演奏会での演奏内容、授業への参加姿勢を評価の対象とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で発表する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修年度内に行われる研究発表演奏会への出演を前提として履修すること。必要に応じて補講を行う場合があるので、できる限り参加すること。また各自の研究課題以外に、他の学生の研究課題にも興味を持ち、積極的に授業に臨むこと。
授業への出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 授業の進度により変更有
1	前期ガイダンス
2	研究課題曲の選定
3	研究課題曲の決定
4	研究課題曲のディクションと解釈
5	パート練習実践
6	自分と違うパートの指導実践
7	意見交換を含めてのパート練習実践
8	独唱曲の聴きあい
9	意見交換を含めて独唱曲を研究
10	個々に研究し再度独唱曲の聴きあい
11	本番を想定しての独唱曲の演奏
12	フィードバッグをしさらに独唱曲の研究
13	独唱曲おさらい会
14	前期反省会
15	後期に向けてのガイダンス

授業計画	
	［後期］ 授業の進度により変更有
1	後期ガイダンス
2	研究発表演奏会に向けて曲目の意見交換
3	研究発表演奏会に向けての曲目選定
4	研究発表演奏会に向けての曲目決定
5	ソリストをオーディション
6	ソリスト決定
7	研究課題曲のパート練習
8	研究課題曲のディクションと解釈
9	歌唱演習
10	歌唱演習及び表現の研究
11	パートごと課題曲を演奏
12	フィードバック後の課題曲の演奏
13	全体合唱合わせ
14	研究発表演奏会に向けて最終確認
15	研究発表演奏会のG.P

科目名	歌曲研究１						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE275700	科目コード	IE2757	期間	通年
担当教員	悦田　比呂子、牧野　正人、宮部　小牧						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・バロック音楽概論 「ルネッサンスから初期バロックへ」 ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	・バロック声楽史 「声楽技術の進化」 ・古典派 の歌曲作品　モーツァルトを中心に
3	・初期バロック概要 ・シューベルトの歌曲作品１
4	・Caccini, G. ”Le Nuove Musiche” ・ シューベルトの歌曲作品2
5	・実習 Amarilli,mia bella ・シューマンの歌曲作品
6	・装飾音について ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 　ワーグナーらの歌曲作品
7	・実習 Dolcissimo sospiro ・ブラームスの歌曲作品
8	・ヴィヴラートコントロール ・前半の総括
9	・Monteverdi. C. の声楽作品 ・ヴォルフの歌曲作品１（メーリケ）
10	・中、後期バロック概要 ・ヴォルフの歌曲作品 2（ゲーテ他）
11	・ダ・カーポ形式について ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	・実習 Scarlatti, A. 独唱カンタータ ・R.シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	・Handel, G.F. の声楽作品 ・様々な近代歌曲
14	・通奏低音実習 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備
15	・まとめ 「バロック声楽作品の楽しみ」 ・授業内発表

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス語発音規則の説明及び演習　G.フォーレの歌曲1.　ディクション ・日本歌曲ガイダンス
2	・G.フォーレの歌曲2　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
3	・R.アーンの歌曲1.　ディクション、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・A.アーンの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・H.デュパルクの歌曲1.　ディクション、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・H.　デュパルクの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
7	・C.ドビュッシーの歌曲1.　ディクション、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・C.ドビュッシーの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・M.ラヴェルの歌曲1.　ディクション、詩人、作曲家、時代背景等 の研究及び演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・M.ラヴェルの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
11	・E.シャブリエ の歌曲1.　ディクション、詩人、作曲家、歌唱法の研究及び演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・E.シャブリエの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・F.プーランクの歌曲1.ディクション、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・F.プーランクの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
15	・授業内試演会 ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究２						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	IE275800	科目コード	IE2758	期間	通年
担当教員	悦田　比呂子、牧野　正人、宮部　小牧						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

の解釈をし、正しい発音で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

２．授業概要

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンスの時に各指導教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自、それぞれの歌曲を選択する。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・バロック音楽概論 「ルネッサンスから初期バロックへ」 ・ドイツ語の発語と発音(シューベルト 野ばら)
2	・バロック声楽史 「声楽技術の進化」 ・古典派 ハイドンとモーツアルトの歌曲作品
3	・初期バロック概要 ・モーツアルトとベートーベンの歌曲作品
4	・Caccini, G. ”Le Nuove Musiche” ・前期ロマン派 シューベルトの歌曲作品
5	・実習 Amarilli,mia bella ・連作歌曲作品の詩と音楽(ベートーベン、シューベルト、シューマン)
6	・装飾音について ・シューマンの歌曲作品
7	・実習 Dolcissimo sospiro ・前半のまとめ
8	・ヴィヴラートコントロール ・メンデルスゾーン、リスト、ワーグナーの歌曲作品
9	・Monteverdi. C. の声楽作品 ・後期ロマン派 ブラームスの歌曲作品 1
10	・中、後期バロック概要 ・ブラームスの歌曲作品 2
11	・ダ・カーポ形式について ・ヴォルフの歌曲作品 1
12	・実習 Scarlatti, A. 独唱カンタータ ・詩人ゲーテ、メーリケ、アイヒェンドルフとヴォルフの歌曲作品 2
13	・Handel, G.F. の声楽作品 ・シュトラウスの歌曲作品 1
14	・通奏低音実習 ・シュトラウスの歌曲作品 2
15	・まとめ 「バロック声楽作品の楽しみ」 ・後半のまとめ

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス語発音規則の説明及び演習　G.フォーレの歌曲1.　ディクション ・日本歌曲ガイダンス
2	・G.フォーレの歌曲2　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・山田耕筰の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
3	・R.アーンの歌曲1.　ディクション、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
4	・A.アーンの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・山田耕筰の童謡作品について研究と演習
5	・H.デュパルクの歌曲1.　ディクション、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・H.　デュパルクの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
7	・C.ドビュッシーの歌曲1.　ディクション、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・C.ドビュッシーの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・M.ラヴェルの歌曲1.　ディクション、詩人、作曲家、時代背景等 の研究及び演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・M.ラヴェルの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
11	・E.シャブリエ の歌曲1.　ディクション、詩人、作曲家、歌唱法の研究及び演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・E.シャブリエの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・F.プーランクの歌曲1.ディクション、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・F.プーランクの歌曲2.　解釈、歌唱法の研究及び演習 ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
15	・授業内試演会 ・まとめと授業内発表会

科目名	合唱指導法研究　[木3-4]						
代表教員	相澤　直人	授業コード	IE277000	科目コード	IE2770	期間	通年
担当教員	柳澤　涼子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前期は現在、恒例となっているNHK全国学校音楽コンクールの課題曲（本年度は、中学校の部及び高等学校の部のみ）に集中的に取り組み、分析を含めて曲を音楽的に高めていく過程を共有し、学ぶことが中心となる。詩、曲ともに毎年書き下ろされるこの課題曲を、全国の中高の合唱部と同時期に取り組むことによって、日本の合唱界を支える音楽教育にも興味を拡大し、将来の活動の糧となることを期待する。　また、前期では上記の課題曲に加えて、受講生のレベルや音色などを加味して他数曲決定し、授業内で指示をする。

後期は、本年度は第九の第四楽章と、他の合唱組曲に取り組む。(曲目、及び第九の合唱譜の出版社について、前期のうちに指示をする)

授業内では他声部、伴奏楽器との対峙・融和といった、合唱ならではの要素はもちろんだが、音楽そのもの（特に、作曲家が楽譜に書ききれないニュアンスや、最も音楽的であるべきexpressive noteについて）を、作曲家でも合唱指揮者でもある目線から指導する。また、声楽家が合唱の指導（ヴォイストレーニングや指揮／指導）を依頼されるケースは非常に多いため、現場で必要な考え方やスキルなども授業内で積極的に共有し、考えていきたい。

なお、成果発表の場として、前期は６月２１日（日）の試演会、また後期は１２月5日（土）の「合唱の祭典」が決定しているので、各自出演することを了承の上で履修をすること。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。演奏会の曲目の反復練習を中心とし、前期・後期の演奏会（「合唱の祭典」）に向けて自身の技術の向上を図り、その経緯を将来の自身の演奏・指導現場に生かせる様にすることを最終の目標とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各曲の音取り、読み込みを必ずしてから講義に臨み、楽譜との個人的な戦い、プライベートな時間、場にならないよう留意すること。
また、　声楽コースの学生としてのプライドと自覚を持ち、発声練習など、毎回の稽古に必要な事前のウォーミングアップは各自で行ってから臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と受講態度、個人の技術、表現者としての意欲を総合して評価をする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

学内カワイの売店「ドミナント」に於いて、以下の楽譜を事前に購入し、備えること。

・ＮＨＫ全国学校音楽コンクール 中学校の部課題曲 混声
・ＮＨＫ全国学校音楽コンクール 高等学校の部課題曲 混声

注意
・追加で取り上げる曲、また後期で取り上げる作品は、前期講義内で紹介し、前記売店にて各自購入してもらう予定である。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

繰り返しになるが、上述した前期、後期の演奏会に欠席した者の単位は認められないため、スケジュール管理、体調管理など、プロ意識を持って臨むこと。
また、前期及び後期の講義日程（演奏会後の授業分を、演奏会前に振り替えるなど、イレギュラーがある）を初回授業時に説明するので、全員参加のこと。
※上述した前期、後期の演奏会に欠席した者の単位は認められない。

授業計画	
	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部の課題曲を取り上げ演奏する他、時間と相談をしながらその他の曲も扱う。
1	ガイダンス。NHK全国学校音楽コンクール課題曲（中・高校）のパート・歌唱部分を確認し、演奏会に向けて講義を進める際の確認事項を説明する。その後に、練習予定。
2	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のリーディング
3	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のテキストの理解と音の確認
4	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲の作品の流れの展開を把握する
5	音楽稽古（１）　リーディング
6	音楽稽古（２）　曲全体のフォルムを構築する
7	音楽稽古（３）　楽譜に書かれないニュアンスなど
8	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のまとめ。
9	音楽稽古（４）　詩と音楽の解釈について
10	演奏会に向けての総合練習（１）　これまでのポイントの再確認
11	演奏会に向けての総合練習（２）　通し稽古・ピアニストとのトータルアンサンブル
12	前期演奏会に向けての総合練習（３）　G.P.
13	前期演奏会当日リハーサル
14	前期演奏会本番（於：シルバーマウンテン）
15	後期に扱う楽曲の事前練習

授業計画	
	後期の講義内容、扱う楽曲については未定。前期講義中にパートバランスや音楽的な内容、いま学生にとって必要と思われることなどを考え、指示する。
1	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（１）　リズムのニュアンス
2	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（２）　メロディー及びフレーズにニュアンス
3	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（３）　ハーモニーのニュアンス
4	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（４）　ことばのニュアンス
5	演奏会に向けて（楽曲の分析、解説など）
6	演奏会に向けての練習（１）　音取りや詩（発音）などの確認
7	演奏会に向けての練習（２）　ハーモニーを確認しながらのリーディング
8	演奏会に向けての練習（３）　全体の流れを把握
9	演奏会に向けての練習（４）　これまでに学んだ各種ニュアンスの確認
10	演奏会に向けての練習（５）　ピアノ及び伴奏楽器とのアンサンブルを考える
11	演奏会に向けての総合練習（１）　これまでのポイントの再確認
12	演奏会に向けての総合練習（２）　通し稽古とアンサンブルの精度を整えるための練習
13	演奏会に向けての総合練習（３）　一年間の総まとめ
14	後期演奏会前リハーサル
15	後期演奏会本番（於：前田ホール）

科目名	プロフェッショナル特殊研究１						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	IE2801A0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。
【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾の演奏技法
3	イタリア式装飾の演奏技法
4	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
5	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
6	シューマン「子供のためのアルバム」から見る美しい音色の選択
7	フレーズの作り方・和声進行の読み取り方～ショパンのワルツを題材に～
8	リストの楽曲における奏法解釈
9	20世紀音楽・多調性の演奏技法～プロコフィエフ《サルカズム》～
10	スペイン音楽におけるリズムの特性
11	ピアニストのための即興講座 （1）鍵盤楽器を用いる即興演奏の実際と考察
12	ピアニストのための即興講座 （２）音階と調
13	ピアニストのための即興講座 （３）調整と和音、様々な和音表記とコードネームの理解
14	ピアニストのための即興講座 （４）カデンツと転調
15	ピアニストのための即興講座 （５）バス（左手）と和音構成音（右手）

授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	ピアニストのための即興講座 （６）伴奏形と様式の研究
2	ピアニストのための即興講座 （７）非和声音の体系化
3	ピアニストのための即興講座 （８）より自由な発想による即興と創作プラン（カデンツァ）
4	ピアニストのための即興講座 （９）調性、拍子を用いない即興演奏
5	ピアニストのための即興講座 （１０）統括と発表
6	バッハの鍵盤作品～モダンピアノによる演奏の可能性～
7	古典派初期の鍵盤作品～クラーマーやクレメンティに与えた影響の考察～
8	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》
9	ショパンの和声法～ロマン派初期の作曲様式との共通点・相違点～
10	リストのピアノ曲がもつオーケストラ映像のイメージ 《二つの伝説》
11	ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性
15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究１						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2801C0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次はプロの演奏家から指導、練習法と本番を通じて心構えや演奏姿勢を学ぶ。

２．授業概要

年度初めに以下の２項目でアンケートをとり、インスペクターを中心に授業計画を立てる。
A＝特別アンサンブル研究１．２（小編成）
ピアノ・弦・打楽器等ともアンサンブル研究をおこなう。
B＝室内オーケストラ研究１．２

３．授業時間外の学習（予習復習について）

室内楽に於いては、各自、パート譜及びスコアリーディングを責任を持って予習する事。そして緻密で技術的、音楽的なアンサンブルの練習が必要。担当教員からの指示を復習して次回のレッスンに臨む事。
室内オーケストラに於いては特に各自、パート譜及びスコアリーディング（CDを含む）を責任を持って予習し、練習に臨む事。

４．成績評価の方法及び基準

練習と演奏会の参加姿勢と演奏内容で評価。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏曲の総譜（スコア）を準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

A＝３～８重奏が望ましい。不足楽器に関しては大学院演奏要員などを当てる。積極的な授業参加。
B＝オーケストラ団員としての積極的な授業参加。

授業計画	
	［前期］ A＝特別アンサンブル研究１．２　（小編成）前期 研究発表会（７月・講堂） B＝室内オーケストラ研究１．２　定期演奏会（７月・前田ホール）
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究　三重奏曲の分析
3	特別アンサンブル研究　三重奏曲の演奏解釈
4	特別アンサンブル研究　四重奏曲の分析
5	特別アンサンブル研究　四重奏曲の演奏法解釈
6	特別アンサンブル研究　　五重奏曲の楽曲分析
7	特別アンサンブル研究　五重奏曲の演奏法解釈
8	特別アンサンブル研究　六重奏以上の編成楽曲の分析
9	特別アンサンブル研究（三重奏曲　研究演奏練習）
10	特別アンサンブル研究（四重奏曲　研究演奏練習）
11	特別アンサンブル研究　（五重奏曲　研究演奏練習）
12	室内オーケストラ分奏　（序曲　研究演奏練習）
13	室内オーケストラ分奏（研究発表会前半総合練習）
14	室内オーケストラ分奏（研究発表会後半総合練習
15	特別アンサンブル研究（研究演奏会）

授業計画	
	［後期］ A＝特別アンサンブル研究１．２（小編成）　後期 アンサンブル研究コンサート（１２月・SM） B＝室内オーケストラ研究１．２　大学院コンチェルトのタベ（１０月・前田ホール）　大学・大学院オペラ管弦楽団　大学院オラトリオ
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏の分析（フルート）
3	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏曲の分析（オーボエ）
4	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏の分析（クラリネット）
5	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏の分析（サクソフォン）
6	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（フルート）
7	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（オーボエ）
8	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（クラリネット）
9	特別アンサンブル研究 金管楽器特殊編成
10	室内オーケストラ分奏（コンチェルトのタベ）ピアノ協奏曲
11	室内オーケストラ分奏（コンチェルトのタベ）弦楽器協奏曲
12	特別アンサンブル研究（オラトリオアンサンブル研究コンサート練習）
13	特別アンサンブル研究（オラトリオアンサンブル研究コンサート演奏会）
14	特別アンサンブル研究（オペラ研究コンサート練習）
15	特別アンサンブル研究（オペラ研究コンサート演奏会）

科目名	プロフェッショナル特殊研究１						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	IE2801D0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

著名なアーチスト達の公開レッスンを通して演奏水準を高める。
オーケストラの経験を通して幅広い音楽性を身に着ける。

２．授業概要

世界的に活躍する著名なアーチスト達の公開レッスン及び外部招聘演奏家による特別レッスンを行う。
ピアニストとして田中麻紀講師を迎えている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

しっかりと練習をした上で講座を受けてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト。楽譜など受講学生が各自で用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

聴講生も楽譜を持参すること。

授業計画	
	［前期］
1	前期オリエンテーション
2	ベートーヴェン　ヴァイオリンソナタについて研究
3	ベートーヴェン　チェロソナタについて研究
4	バッハ　チェロ組曲について研究
5	バッハ　チェロ組曲についての見解
6	バッハ　無伴奏パルティータＮＯ．1について研究
7	室内管弦楽団 ベートーヴェン　交響曲について
8	音楽家のための体幹トレーニング（基礎）
9	音楽家のための英語（基礎）
10	バッハ無伴奏　ソナタNO.2
11	シュターミッツ　協奏曲の研究
12	ブラームス　協奏曲の研究
13	チャイコフスキー　ヴァイオリン協奏曲の研究
14	グラズノフ　ヴァイオリン協奏曲の研究
15	ブラームス　ソナタＮＯ．1の研究

授業計画	
	［後期］
1	後期オリエンテーション
2	ブラームス　ヴァイオリンソナタＮＯ．2の研究
3	ブラームス　チェロソナタの研究
4	ブラームス　ヴィオラソナタＮＯ．1の研究
5	ブラームス　ヴィオラソナタＮＯ．2の研究
6	バッハ　無伴奏ソナタNO.2について研究
7	室内管弦楽団 ブラームス　交響曲について
8	音楽家のための体幹トレーニング（発展）
9	音楽家のための英語（応用）
10	バッハ無伴奏　ソナタNO.3
11	バッハ無伴奏　パルティータNO.2の研究
12	バッハ無伴奏　パルティータNO.3
13	グリーグ　ヴァイオリンソナタの研究
14	モーツァルト　ヴァイオリン協奏曲の研究
15	バルトーク　協奏曲の研究

科目名	プロフェッショナル特殊研究１						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	IE2801E0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各種打楽器のオーケストラ、吹奏楽の中での演奏法、楽器の歴史、楽器メンテナンス方法、音楽療法の分野での打楽器が持つ可能性,バッハ研究その他、打楽器をどの場所でどのように関連させていくことが出来るかというノウハウ、またその実践方法や、その実践にあたり知っておくとよい知識を学ぶ。様々な視点から打楽器について学習することにより、大学院を修了後、演奏、指導、音楽療法など社会の中の多種な場での打楽器を活かした活動に繋げていくことを可能にすることを目標とする。

２．授業概要

複数担当教員がそれぞれ複数回の授業でそれぞれの専門的な知識と経験に基づいた講座、演習指導を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講学生は各担当教員の事前の指示による授業内容の予習、演習の場合は事前練習を行うことが望ましい。授業後にはその内容を自分がきちんと理解出来ているかという確認、また、特に演習授業の場合は授業受講後に課題習得のための練習を行うことを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢、演習課題の消化と実践演奏技量などを考慮し決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト、楽譜など受講学生がそれぞれ準備する。著作物の取り扱いについては使用方法に問題がないかそのつど確認する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	オーケストラスタディ１：オーケストラの歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
2	オーケストラスタディ２：主に古典、ロマン派の時代の具体的な楽曲（モーツァルト、ベートーヴェン、マーラーなどの交響曲他）を取り上げ、その中で演奏される各種打楽器の奏法、音色の解釈などを実演を交えながら学習する。
3	オーケストラスタディ３：２０世紀以降の楽曲における打楽器群の奏法や音色についての学習。また、現代作品での特殊奏法などについて、楽曲の音源を聴きながら確認と実演を伴う学習を行う。
4	吹奏楽打楽器研究１：吹奏楽の歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
5	吹奏楽打楽器研究２：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、リズムについて考察する。
6	吹奏楽打楽器研究３：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、特に鍵盤打楽器が担うメロディー、ハーモニーについて考察する。
7	バッハ研究１：　マリンバなどの鍵盤打楽器で演奏されることも多いバッハの作品のアナリーゼ。また、バッハを軸にバロック以前の音楽と楽器、そこから近現代の音楽まで、どのような関連性を見られるか、など、歴史と楽器の成り立ちを検証し、知識を深める。
8	打楽器奏法実習1：各種民族打楽器の基本奏法を学ぶ
9	音楽療法入門１：障害者に対する音楽の提供方法の研究、その中で特に打楽器の持ちうる可能性について考える。
10	音楽療法入門２：色々な障害者のケースと、その人達がどのように音楽と関わることが出来るかを考える。一例として人工内耳を使用する聴覚障害者がどのような形で音楽を体感出来るかのリサーチを取り上げ、考察する。
11	楽器のメンテナンス方法を学ぶ１：ティンパニのメンテナンスについて。
12	打楽器のメンテナンスについて２：小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のメンテナンスについて。
13	打楽器のチューンングについて１：小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のチューニングについて。
14	楽器のチューニング方法を学ぶ２：ティンパニのチューニングについて。
15	打楽器奏法実習2：カスタネットの奏法研究。

授業計画	
	［後期］
1	オーケストラスタディ４：オーケストラ奏者を目指す上で必要な事柄を学ぶ。オーディションに向けての心構え、練習方法について。
2	オーケストラスタディ５：実際にオーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの演奏のポイント、注意すべき点などを学習する。この回では特にスネアドラムのパートに焦点をあてる。
3	オーケストラスタディ６：オーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの中から、シンバと、、トライアングル、タンバリンなどをはじめとする小物楽器のパートに焦点をあてて学習する。
4	オーケストラスタディ７：ティンパニのレパートリーの学習。
5	オーケストラスタディ８：シロフォン、グロッケンシュピールなどの鍵盤打楽器パートの学習。
6	吹奏楽打楽器研究４：具体的な例として吹奏楽曲「ぐるりよざ」を取り上げ、曲の中で演奏される打楽器パートの効果的な奏法を学ぶ。また、スコアを見ながら打楽器パートと他楽器のパートがどのように絡んでいるか、それによる各所でのバランスの取り方などを確認。
7	バッハ研究２：　例としてバッハ無伴奏チェロ組曲の中の1曲を取り上げ、打楽器であるマリンバでこの作品演奏する上でのアプローチの仕方について研究する。
8	コンチェルト研究１：マルチパーカッションのための協奏曲の研究
9	コンチェルト研究２：鍵盤打楽器のための協奏曲の研究
10	音楽療法入門３：打楽器で表せるリズム、メロディー、ハーモニーと、打つ行為の運動性についてなどの視点から、幼児、高齢者などに対するリハビリとしての音楽の可能性を考える。
11	楽器メンテナンス３：鍵盤打楽器のメンテナンスについて学習する。
12	楽器メンテナンス４：金属打楽器、小物打楽器のメンテナンスについて学習する。
13	海外招聘講師及び客員教授による特別レッスン。
14	打楽器奏法実習３：ハンドパーカッションの基本奏法を学ぶ
15	履修学生が将来目指す職業の中で、この授業で学んだ様々な事をどのように活かしていけるかについての発表とディスカッション。１年間の授業の統括とする。

科目名	プロフェッショナル特殊研究１						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE2801F0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの持つ多様性を更に深く研究する。それぞれの研究論文の内容も含め、専門的に追求することを目標とする。

２．授業概要

担当教員による。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実習の授業が多いので、予習、復習は、積極的に行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み・・70%、課題評価・・30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	課題を実習しながら、より深く音楽を追求していく。
1	電子オルガンスタジオエレクトロニクス 電子オルガンのためのクラシックサウンドについて
2	電子オルガンスタジオエレクトロニクス 電子オルガンのためのポピュラーサウンドについて
3	電子オルガンスタジオエレクトロニクス Computer D.W.A.(Digital Audio Workstation)を使用した音楽制作
4	電子オルガンスタジオエレクトロニクス 欧米のスタジオにおける映画音楽制作考察
5	大衆音楽研究 分数コードやsus2の和音など80年代以降に生まれた新しい響きの和音について解説
6	大衆音楽研究 David Foster の作品の和声進行や転調についての分析
7	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガン　アレンジの基礎（アレンジ手法・構成・ジャンル・リズム・コード進行）
8	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガン　アレンジの基礎（イントロ・エンディング・間奏等）
9	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアレンジ　コードプログレッション1（Diatonic Scale Chords）
10	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアレンジ　コードプログレッション2
11	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアレンジ3　楽曲アナリーゼ（虹の彼方に）
12	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアンサンブル4　アレンジ、コードプログレッション
13	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアンサンブル4　アレンジとコードプログレッション応用編
14	ポピュラー奏法特別研究 作品発表とディスカッション
15	バンドアレンジ研究 課題のアレンジ実習　構成の考え方

授業計画	
1	バンドアレンジ研究 アレンジ曲の演奏
2	バンドアレンジ研究 アレンジ曲のアンサンブルと音色研究
3	バンドアレンジ研究 アンサンブル実習とアレンジの確認と実際　基本
4	バンドアレンジ研究 アンサンブル実習とアレンジの確認と実際　応用
5	即興演奏実習 モチーフを使ったクラシックスタイル即興演奏の実際
6	即興演奏実習 クラシックスタイル即興演奏の実際２
7	即興演奏実習 ポピュラースタイル即興演奏の実際
8	キーボード研究（パイプオルガン） パイプオルガンの歴史
9	キーボード研究（パイプオルガン） 奏法研究
10	キーボード研究（チェンバロ） 歴史と楽器の種類
11	キーボード研究（チェンバロ） 通奏低音奏法入門
12	即興演奏実習 モチーフ即興のためのトレーニング
13	即興演奏実習 モチーフ即興のスタイル研究
14	即興演奏実習 モチーフ即興の分析とまとめ
15	電子オルガンの歴史 歴代の電子オルガンを見学

科目名	プロフェッショナル特殊研究１						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2801G0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を５回で１クールとして、1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。　総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「プロフェッショナル特殊研究３」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	［前期］ 大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「プロフェッショナル特殊研究３」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。
1	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲研究 ／ 導入編～研究に向けての概説
2	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲研究 ／ 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲研究 ／ 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲研究 ／ 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲研究 ／ 研究成果発表と講評
6	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲研究 ／ 導入編～研究に向けての概説
7	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲研究 ／ 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲研究 ／ 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲研究 ／ 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲研究 ／ 研究成果発表と講評
11	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲研究 ／ 導入編～研究に向けての概説
12	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独唱曲研究 ／ 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲研究 ／ 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲研究 ／ 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
15	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲研究 ／ 研究成果発表と講評

授業計画	
	［後期］ 講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独唱曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 研究成果発表と講評
11	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
15	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 研究成果発表と講評

科目名	プロフェッショナル特殊研究２						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	IE2802A0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業における課題の実践準備。
【復習】授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾の演奏技法
3	イタリア式装飾の演奏技法
4	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
5	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
6	シューマン「子供のためのアルバム」から見る美しい音色の選択
7	フレーズの作り方・和声進行の読み取り方～ショパンのワルツを題材に～
8	リストの楽曲における奏法解釈
9	20世紀音楽・多調性の演奏技法～プロコフィエフ《サルカズム》～
10	スペイン音楽におけるリズムの特性
11	ピアニストのための即興講座 （1）鍵盤楽器を用いる即興演奏の実際と考察
12	ピアニストのための即興講座 （２）音階と調
13	ピアニストのための即興講座 （３）調整と和音、様々な和音表記とコードネームの理解
14	ピアニストのための即興講座 （４）カデンツと転調
15	ピアニストのための即興講座 （５）バス（左手）と和音構成音（右手）

授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	ピアニストのための即興講座 （６）伴奏形と様式の研究
2	ピアニストのための即興講座 （７）非和声音の体系化
3	ピアニストのための即興講座 （８）より自由な発想による即興と創作プラン（カデンツァ）
4	ピアニストのための即興講座 （９）調性、拍子を用いない即興演奏
5	ピアニストのための即興講座 （１０）統括と発表
6	バッハの鍵盤作品～モダンピアノによる演奏の可能性～
7	古典派初期の鍵盤作品～クラーマーやクレメンティに与えた影響の考察～
8	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》
9	ショパンの和声法～ロマン派初期の作曲様式との共通点・相違点～
10	リストのピアノ曲がもつオーケストラ映像のイメージ 《二つの伝説》
11	ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《ミクロコスモス》
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性
15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究２						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2802C0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

２年次はさらに高度なオーケストラスタディや演奏法を研究する。

２．授業概要

年度初めに以下の２項目でアンケートをとり、インスペクターを中心に授業計画を立てる。
A＝特別アンサンブル研究１．２（小編成）
ピアノ・弦・打楽器等ともアンサンブル研究をおこなう。
B＝室内オーケストラ研究１．２

３．授業時間外の学習（予習復習について）

室内楽に於いては、各自、パート譜及びスコアリーディングを責任を持って予習する事。そして緻密で技術的、音楽的なアンサンブルの練習が必要。担当教員からの指示を復習して次回のレッスンに臨む事。
室内オーケストラに於いては特に各自、パート譜及びスコアリーディング（CDを含む）を責任を持って予習し、練習に臨む事。

４．成績評価の方法及び基準

練習と演奏会の参加姿勢と演奏内容で評価。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏曲の総譜（スコア）を準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

A＝３～８重奏が望ましい。不足楽器に関しては大学院演奏要員などを当てる。積極的な授業参加。
B＝オーケストラ団員としての積極的な授業参加。

授業計画	
	［前期］ A＝特別アンサンブル研究１．２（小編成） 前期 研究発表会（７月・講堂） 後期 アンサンブル研究コンサート（１２月・講堂） B＝室内オーケストラ研究１．２
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究　三重奏曲の分析
3	特別アンサンブル研究　三重奏曲の演奏解釈
4	特別アンサンブル研究　四重奏曲の分析
5	特別アンサンブル研究　四重奏曲の演奏法解釈
6	特別アンサンブル研究　五重奏曲の楽曲分析
7	特別アンサンブル研究　五重奏曲の演奏法解釈
8	特別アンサンブル研究　六重奏以上の編成楽曲の分析
9	特別アンサンブル研究（三重奏曲　研究演奏練習）
10	特別アンサンブル研究（四重奏曲　研究演奏練習）
11	特別アンサンブル研究（五重奏曲　研究演奏練習）
12	室内オーケストラ分奏（序曲　研究演奏練習）
13	室内オーケストラ分奏（研究発表会前半総合練習）
14	室内オーケストラ分奏（研究発表会後半総合練習）
15	特別アンサンブル研究（研究演奏会）

授業計画	
	［後期］ A＝特別アンサンブル研究１．２（小編成） 後期 アンサンブル研究コンサート（１２月・講堂） B＝室内オーケストラ研究１．２ 大学院コンチェルトの夕べ（１０月・前田ホール）
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏曲の分析(フルート)
3	特別アンサンブル研究１．２　ピアノ三重奏曲の分析（オーボエ）
4	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏曲の分析（クラリネット）
5	特別アンサンブル研究　ピアノ三重奏曲の分析（サクソフォン）
6	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（フルート）
7	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（オーボエ）
8	特別アンサンブル研究　弦楽器とのアンサンブル（クラリネット）
9	特別アンサンブル研究　金管楽器特殊編成
10	室内オーケストラ分奏（コンチェルトの夕べ）ピアノ協奏曲
11	室内オーケストラ分奏（コンチェルトの夕べ）弦楽器協奏曲
12	特別アンサンブル研究（オラトリオアンサンブル研究コンサート練習）
13	特別アンサンブル研究（アンサンブル研究コンサート演奏会）
14	特別アンサンブル研究（オペラ研究コンサート練習）
15	特別アンサンブル研究（オペラ研究コンサート演奏会）

科目名	プロフェッショナル特殊研究２						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	IE2802E0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各種打楽器のオーケストラ、吹奏楽の中での演奏法、楽器の歴史、楽器メンテナンス方法、音楽療法の分野での打楽器が持つ可能性,バッハ研究その他、打楽器をどの場所でどのように関連させていくことが出来るかというノウハウ、またその実践方法や、その実践にあたり知っておくとよい知識を学ぶ。様々な視点から打楽器について学習することにより、大学院を修了後、演奏、指導、音楽療法など社会の中の多種な場での打楽器を活かした活動に繋げていくことを可能にすることを目標とする。

２．授業概要

複数担当教員がそれぞれ複数回の授業でそれぞれの専門的な知識と経験に基づいた講座、演習指導を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講学生は各担当教員の事前の指示による授業内容の予習、演習の場合は事前練習を行うことが望ましい。授業後にはその内容を自分がきちんと理解出来ているかという確認、また、特に演習授業の場合は授業受講後に課題習得のための練習を行うことを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢、演習課題の消化と実践演奏技量などを考慮し決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト、楽譜など受講学生がそれぞれ準備する。著作物の取り扱いについては使用方法に問題がないかそのつど確認する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	オーケストラスタディ１：オーケストラの歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
2	オーケストラスタディ２：主に古典、ロマン派の時代の具体的な楽曲（モーツァルト、ベートーヴェン、マーラーなどの交響曲他）を取り上げ、その中で演奏される各種打楽器の奏法、音色の解釈などを実演を交えながら学習する。
3	オーケストラスタディ３：２０世紀以降の楽曲における打楽器群の奏法や音色についての学習。また、現代作品での特殊奏法などについて、楽曲の音源を聴きながら確認と実演を伴う学習を行う。
4	吹奏楽打楽器研究１：吹奏楽の歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
5	吹奏楽打楽器研究２：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、リズムについて考察する。
6	吹奏楽打楽器研究３：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、特に鍵盤打楽器が担うメロディー、ハーモニーについて考察する。
7	バッハ研究１：　マリンバなどの鍵盤打楽器で演奏されることも多いバッハの作品のアナリーゼ。また、バッハを軸にバロック以前の音楽と楽器、そこから近現代の音楽まで、どのような関連性を見られるか、など、歴史と楽器の成り立ちを検証し、知識を深める。
8	打楽器奏法実習1：各種民族打楽器の基本奏法を学ぶ
9	音楽療法入門１：障害者に対する音楽の提供方法の研究、その中で特に打楽器の持ちうる可能性について考える。
10	音楽療法入門２：色々な障害者のケースと、その人達がどのように音楽と関わることが出来るかを考える。一例として人工内耳を使用する聴覚障害者がどのような形で音楽を体感出来るかのリサーチを取り上げ、考察する。
11	楽器のメンテナンス方法を学ぶ１：ティンパニのメンテナンスについて。
12	打楽器のメンテナンスについて２：小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のメンテナンスについて。
13	打楽器のチューンングについて１：小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のチューニングについて。
14	楽器のチューニング方法を学ぶ２：ティンパニのチューニングについて。
15	打楽器奏法実習2：カスタネットの奏法研究。

授業計画	
	［後期］
1	オーケストラスタディ４：オーケストラ奏者を目指す上で必要な事柄を学ぶ。オーディションに向けての心構え、練習方法について。
2	オーケストラスタディ５：実際にオーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの演奏のポイント、注意すべき点などを学習する。この回では特にスネアドラムのパートに焦点をあてる。
3	オーケストラスタディ６：オーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの中から、シンバと、、トライアングル、タンバリンなどをはじめとする小物楽器のパートに焦点をあてて学習する。
4	オーケストラスタディ７：ティンパニのレパートリーの学習。
5	オーケストラスタディ８：シロフォン、グロッケンシュピールなどの鍵盤打楽器パートの学習。
6	吹奏楽打楽器研究４：具体的な例として吹奏楽曲「ぐるりよざ」を取り上げ、曲の中で演奏される打楽器パートの効果的な奏法を学ぶ。また、スコアを見ながら打楽器パートと他楽器のパートがどのように絡んでいるか、それによる各所でのバランスの取り方などを確認。
7	バッハ研究２：　例としてバッハ無伴奏チェロ組曲の中の1曲を取り上げ、打楽器であるマリンバでこの作品演奏する上でのアプローチの仕方について研究する。
8	コンチェルト研究１：マルチパーカッションのための協奏曲の研究
9	コンチェルト研究２：鍵盤打楽器のための協奏曲の研究
10	音楽療法入門３：打楽器で表せるリズム、メロディー、ハーモニーと、打つ行為の運動性についてなどの視点から、幼児、高齢者などに対するリハビリとしての音楽の可能性を考える。
11	楽器メンテナンス３：鍵盤打楽器のメンテナンスについて学習する。
12	楽器メンテナンス４：金属打楽器、小物打楽器のメンテナンスについて学習する。
13	海外招聘講師及び客員教授による特別レッスン。
14	打楽器奏法実習３：ハンドパーカッションの基本奏法を学ぶ
15	履修学生が将来目指す職業の中で、この授業で学んだ様々な事をどのように活かしていけるかについての発表とディスカッション。１年間の授業の統括とする。

科目名	プロフェッショナル特殊研究２						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE2802F0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの持つ多様性を更に深く研究する。それぞれの研究論文の内容も含め、専門的に追求することを目標とする。

２．授業概要

担当教員による。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実習の授業が多いので、予習、復習は、積極的に行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み・・70%、課題評価・・30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	課題を実習しながら、より深く音楽を追求していく。
1	キーボード研究 【チェンバロ】チェンバロの歴史と楽器の種類
2	キーボード研究 【チェンバロ】チェンバロのための作品について
3	キーボード研究 【チェンバロ】チェンバロの奏法
4	キーボード研究 【チェンバロ】アンサンブルやオーケストラの中でのチェンバロ
5	キーボード研究 【パイプオルガン】パイプオルガンの歴史
6	キーボード研究 【パイプオルガン】ペダル奏法
7	キーボード研究 【パイプオルガン】ペダル奏法（フレーズの表現）
8	キーボード研究 【パイプオルガン】パイプオルガン作品研究と奏法
9	キーボード研究 【ハモンドオルガン】ハモンドオルガンの歴史
10	キーボード研究 【ハモンドオルガン】ハモンドオルガン作品研究と奏法
11	キーボード研究 【電子キーボード】電子楽器の歴史
12	キーボード研究 【電子キーボード】サンプリングテクノロジー
13	キーボード研究 【ジャズピアノ】基本的なアドリブとリズム
14	キーボード研究 【ジャズピアノ】ハーモニーとコンピング
15	大衆音楽研究 「Try Unite!」の楽曲分析を通して、モーダルインターチェンジコードの使用法を解説

授業計画	
1	大衆音楽研究 Pat Methenyの作品分析
2	伴奏法研究（アコースティック楽器とのデュオについて） 選曲のポイントとアレンジのポイント
3	伴奏法研究（アコースティック楽器とのデュオについて） アコースティック楽器との演奏の場合の、音色のポイント
4	伴奏法研究（声楽やアコースティック楽器の伴奏の場合） オーケストラ作品に書かれていない作品の伴奏の場合、アレンジや音色のポイント
5	伴奏法研究 実際の楽器や声楽との試演、発表
6	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンの音色研究（合成音色の考察）
7	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンの音色研究（定位とリズム音色の考察）
8	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンのヴォイシング（コード進行）
9	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンの楽曲研究（アレンジの考察と発表）
10	楽器と演奏法（木管楽器）奏法を学び、実際、鍵盤での表現を研究する。
11	楽器と演奏法（弦楽器）奏法を学び、実際、鍵盤での表現を研究する。
12	楽器と演奏法（金管楽器）奏法を学び、実際、鍵盤での表現を研究する。
13	バンドアレンジ ジャズのアレンジのスタイルについて
14	バンドアレンジ アレンジ実習
15	電子オルガンの歴史 歴代の電子オルガンを見学

科目名	プロフェッショナル特殊研究２						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2802G0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	GH	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を５回で１クールとして、1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。　総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「プロフェッショナル特殊研究４」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 研究成果発表と講評
11	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
15	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の研究 / 研究成果発表と講評
11	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 機材設置の基礎と実践
13	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 演奏実践第一段階・・・問題点の洗い出し
14	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 演奏実践第二段階・・・問題点の克服
15	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 研究成果発表と講評

科目名	プロフェッショナル特殊研究３						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	IE2803D0	科目コード	IE2803	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

著名なアーチスト達の公開レッスンを通して演奏水準を高める。
オーケストラの経験を通して幅広い音楽性を身に着ける。

２．授業概要

世界的に活躍する著名なアーチスト達の公開レッスン及び外部招聘演奏家による特別レッスンを行う。
ピアニストとして田中麻紀講師を迎えている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

しっかりと練習をした上で講座を受けてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト。楽譜など受講学生が各自で用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

聴講生も楽譜を持参すること。

授業計画	
	［前期］
1	前期オリエンテーション
2	ベートーヴェン　ヴァイオリンソナタについて研究
3	ベートーヴェン　チェロソナタについて研究
4	バッハ　チェロ組曲について研究
5	バッハ　チェロ組曲についての見解
6	バッハ　無伴奏パルティータＮＯ．1について研究
7	室内管弦楽団 ベートーヴェン　交響曲について
8	音楽家のための体幹トレーニング（基礎）
9	音楽家のための英語（基礎）
10	バッハ無伴奏　ソナタNO.2
11	シュターミッツ　協奏曲の研究
12	ブラームス　協奏曲の研究
13	チャイコフスキー　ヴァイオリン協奏曲の研究
14	グラズノフ　ヴァイオリン協奏曲の研究
15	ブラームス　ソナタＮＯ．1の研究

授業計画	
	［後期］
1	後期オリエンテーション
2	ブラームス　ヴァイオリンソナタＮＯ．2の研究
3	ブラームス　チェロソナタの研究
4	ブラームス　ヴィオラソナタＮＯ．1の研究
5	ブラームス　ヴィオラソナタＮＯ．2の研究
6	バッハ　無伴奏ソナタNO.2について研究
7	室内管弦楽団 ブラームス　交響曲について
8	音楽家のための体幹トレーニング（発展）
9	音楽家のための英語（応用）
10	バッハ無伴奏　ソナタNO.3
11	バッハ無伴奏　パルティータNO.2の研究
12	バッハ無伴奏　パルティータNO.3
13	グリーグ　ヴァイオリンソナタの研究
14	モーツァルト　ヴァイオリン協奏曲の研究
15	バルトーク　協奏曲の研究

科目名	プロフェッショナル特殊研究３						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2803G0	科目コード	IE2803	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業末ジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を５回で１クールとして、1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程２年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。１年目の「プロフェッショナル特殊研究１」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。「プロフェッショナル特殊研究１」を履修していることが望ましい。

授業計画	
	大学院修士課程２年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。１年目の「プロフェッショナル特殊研究１」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。
1	講師Ａレッスン（第１クール）～古典合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Ａレッスン（第１クール）～古典独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Ｂレッスン（第２クール）～古典合奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独唱曲応用研究 / 楽譜徹底研究
13	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
15	講師Ｃレッスン（第３クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～作品背景徹底研究、2)楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲応用湯研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Ｄレッスン（第４クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独唱曲応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・改善必要点の洗い出し
9	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Ｅレッスン（第５クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 譜楽譜徹底研究お
13	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
15	講師Ｆレッスン（第６クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

科目名	プロフェッショナル特殊研究３						
代表教員	原　善伸	授業コード	IE2803H0	科目コード	IE2803	期間	通年
担当教員	金子　浩、今田　央						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI(GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フラメンコ音楽に特有の各形式、リズム、フラメンコギターの数々の特殊奏法をマスターし、フラメンコギターソロ演奏を習得する。
また、その技術をフラメンコのリズム、旋法を取り入れたスペインクラシックギターレパートリーの演奏にも応用させる。
ポピュラー音楽への応用も研究する。

２．授業概要

実際にフラメンコギターを使用して形式ごとのリズム、旋法、各種特殊奏法の習得。講義としてはフラメンコ音楽発生の歴史、時代背景、地理的要因などを考察。
フラメンコ舞踊手やフラメンコ歌手の伴奏も体験しフラメンコ芸術の三位一体（歌、踊り、ギター）の重要性を実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

テクニック向上のための基礎練習や受講した楽曲の復習。

４．成績評価の方法及び基準

授業態度、及び演奏レベル、最終授業において発表を行い、完成度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

フラメンコの典型であるソレア、ブレリア、アレグリアなどの舞曲から教員が選定した物

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１学年において「フラメンコギター奏法研究」を履修したもの

授業計画	
	フラメンコギターの特殊奏法、各型式の習得 毎回講義としてフラメンコ発生の歴史、地理的要因等の解説
1	フラメンコギターの特殊奏法の一つである各種”ラスゲアード”の解説、及びクラシックギターとの音の出し方（タッチ）の違いを学ぶ。
2	様々なラスゲアード奏法を実践する。
3	ラスゲアード奏法の練習法を指導する。
4	フラメンコの形式の一つ”ソレア”（３拍子系のリズム）を解説し理解させる。
5	”ソレア”の簡単なフレーズを習得させる。
6	”ソレア”という形式を実際の演奏を通じ研究する。
7	”ソレア”から派生したいくつかの形式の解説、およびそれぞれのフレーズを習得させる。
8	フラメンコの形式の一つ”タンゴ”（２拍子系）の解説を解説する。
9	”タンゴ”における簡単なフレーズを習得する。
10	過去の演奏を聴き”タンゴ”のより深い理解を求める。
11	”タンゴ”から派生した他の２拍子系の形式の解説する。
12	”タンゴ”のリズムによる楽曲を解説する。
13	”タンゴ”のリズムによる楽曲を実践する。
14	上記に属さない他の形式の解説とフレーズの習得
15	前期まとめの発表演奏を行う。

授業計画	
	前期で培った技術、知識を基にフラメンコギターソロの演奏を研究していく。機会があればフラメンコにおける三位一体を体験する。
1	クラシックギターのレパートリーにおけるフラメンコの影響を考察する。
2	スペイン音楽の中のフラメンコの影響を考察する。
3	ラテン、ポピュラー等、現代の軽音楽へのフラメンコの影響を考察する。
4	クラシックギターのレパートリーの中でのフラメンコ奏法の実践を試みる。
5	ポピュラー音楽の中でいかにフラメンコ奏法を活用するかを考察する。
6	イサーク・アルベニスの楽曲の中でのフラメンコの影響を考察する。
7	エンリケ・グラナドスの楽曲の中でのフラメンコの影響を考察する。
8	マヌエル・で・ファリャの楽曲の中でのフラメンコの影響を考察する。
9	マヌエル・デ・ファリヤの生涯と作品について考察する。
10	マヌエル・デ・ファリヤのクラシックギター曲をリストアップする。
11	ホアキン・ロドリーゴのアランフェス協奏曲を研究する。
12	アランフェス協奏曲におけるラスゲアード奏法を研究する。
13	トウリーナのフラメンコを取り入れた楽曲を研究する。
14	トゥリーナの他の楽曲を研究する。
15	最終発表演奏を行う。

科目名	プロフェッショナル特殊研究４						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2804G0	科目コード	IE2804	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を５回で１クールとして、1)導入編～研究に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

各レッスンゲスト講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。
総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程２年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。１年目の「プロフェッショナル特殊研究２」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。「プロフェッショナル特殊研究２」を履修していることが望ましい。

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1)導入編～作品背景徹底研究、2)楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Ａレッスン（第１クール）～現代邦楽作品応用研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Ｂレッスン（第２クール）～現代音楽作品応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 楽譜徹底研究
13	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要問題点の克服
15	講師Ｃレッスン（第３クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1)導入編～作品背景徹底研究、2)楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)実践ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Ｄレッスン（第４クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Ｅレッスン（第５クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 機材設置の基礎と実践
13	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 演奏実践第一段階・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 演奏実践第二段階・・・改善必要点の克服
15	講師Ｆレッスン（第６クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

科目名	プロフェッショナル特殊研究４　[水3]						
代表教員	竹内　永和	授業コード	IE2804H0	科目コード	IE2804	期間	通年
担当教員	原　善伸						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI(GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	１学年において古楽器演奏方（リュート奏法）を履修し単位を取得したも者						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在、クラシックギター奏者には19世紀に確立したクラシックギターのためのオリジナル楽曲のみならず、16世紀から現代のワールドミュージックに到るまでの幅広い演奏技術と作品解釈が求められている。本講座はこうした状況に対し、リュートやバロックギターなど16世紀から18世紀に用いられた古楽器の演奏方を実践、研究するものである。

２．授業概要

リュートやバロックギターの奏法をオリジナル楽器を用いて実践することにより、ルネッサンスやバロックの音楽の解釈やオリジナル奏法の有効性を追求する。最終的には発表会や実技試験、演奏会などでもオリジナル楽器の演奏ができるよう指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

テクニック向上のための基礎練習や受講した楽曲の復習、次回の講座の課題曲の研究。

４．成績評価の方法及び基準

授業態度、及び演奏レベル、最終授業において発表を行い、完成度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ルイス・ミラン「エル・マエストロ」
ルイス・ド・ナルバエス「デルフィンの６部の譜本」
ジョン・ダウランド「リュート曲全集」
フランチェスコ・で・ミラノ「リュート曲全集」
ロベール・ド・ヴィゼー「王に捧げるギター曲集」
レオポルト・シルビオス・ヴァイス「バロックリュート曲集」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１学年において古楽器演奏法（リュート奏法）を履修した者

授業計画	
	16世紀から18世紀における撥弦楽器の歴史を考察する。
1	16世紀スペインのビウエラ音楽の作品と作曲者の研究
2	ルイス・ミランの「エル・マエストロ」における楽曲とタブラチュアの考察
3	ルイス・ミラン「６つのパヴァーヌ」演奏指導と解釈
4	ルイス・ド・ナルバエス「デルフィンの６部の譜本」の背景と作品の考察
5	ルイス・ド・ナルバエス「皇帝の歌」の原曲と奏法解釈の考察
6	ルイス・ド・ナルバエス「牛を見張れによるディファレンシアス」の意義と演奏法研究
7	アロンソ・ムダーラ「ルドヴィコのハープを模したファンタジー」の意義と演奏法研究
8	ジョン・ダウランドの作品とイギリスのリュート音楽、および歴史的背景の考察
9	ジョン・ダウランド「涙のパヴァーヌ」の演奏法と作品解釈
10	ジョン・ダウランド「カエルのガリアルダ」の演奏法と作品解釈
11	ジョン・ダウランド「ファンタジー」の演奏法と作品解釈
12	フランチェスコ・ミラノの作品とイタリアのリュート音楽の考察
13	フランチェスコ・ミラノ「リチェルカーレ」の演奏法と作品解釈
14	前期まとめとしての発表曲の選定と演奏法の指導
15	前期まとめの発表演奏と講評

授業計画	
	後期授業の展望：バロック時代の撥弦楽器の歴史と作品、楽器について
1	フランスバロックの楽器、作品、演奏法についての考察
2	ロベール・ド・ヴィゼー「王に捧げるギター曲集」より組曲ニ短調の楽曲構成と演奏法の解説
3	ロベール・ド・ヴィゼー「組曲ニ短調」よりプレリュード、アルマンドの演奏法と解釈、実践
4	ロベール・ド・ヴィゼー「組曲ニ短調」よりサラバンド、メヌエットの演奏法と解釈、実践
5	ロベール・ド・ヴィゼー「組曲ニ短調」よりガヴォット、ブーレ、ジーグの演奏法と解釈、実践
6	ドイツバロックの楽器、作品、演奏法についての考察
7	レオポルト・シルビオス・ヴァイス「ファンタジー」の演奏法と作品解釈
8	レオポルト・シルビオス・ヴァイス「パッサカリア」の演奏法と作品解釈
9	レオポルト・シルビオス・ヴァイス「シャコンヌ」の演奏法と作品解釈
10	ホアキン・トゥリーナのクラシックギター曲をリストアップする。
11	ヨハン・セバスティアン・バッハのリュート作品についての考察
12	ヨハン・セバスティアン・バッハ「リュート組曲第１番BWV996」の演奏法と作品解釈
13	ヨハン・セバスティアン・バッハ「リュート組曲第２番BWV997」の演奏法と作品解釈
14	ヨハン・セバスティアン・バッハ「リュート組曲第3番BWV995」の演奏法と作品解釈
15	最終発表演奏と講評

科目名	アンサンブル研究１						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE281100	科目コード	IE2811	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スコアリーディングにより、オーケストラ作品を課題として取り上げ、音楽表現の方法やアンサンブルテクニックを学ぶ。（クラシック）
電子オルガンによるポピュラー作品のアンサンブルを取り上げる。バンドの中でのキーボードとしての役割なども学び、経験する。（ポピュラー）　電子オルガン２台又は３台によるアンサンブル、指揮とともに、又はバンドのメンバーとともに演奏することにより、音楽を立体的に感じられるようになることを到達目標にする。集大成として、演奏会で本番を行う。

２．授業概要

指揮者と共に電子オルガン２台又は３台によるアンサンブル実習（クラシック）
電子オルガンによるアンサンブル、ドラムなどバンドメンバーとの共演によるアンサンブル実習（ポピュラー）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲目決定後、譜読み、音色作りを行う。それと同時に楽曲について、下調べをしておくこと。参考音源なども聞いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（演奏の準備状況（評価の50%）
楽曲に対する理解力、表現力（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アンサンブルのため、極力、欠席をしないこと。

授業計画	
1	ガイダンス【クラシック】授業概要、目標設定
2	クラシックアンサンブル①選曲並びに課題研究
3	クラシックアンサンブルの実習②2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習　基本
4	クラシックアンサンブルの実習③2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習　応用
5	クラシックアンサンブルの実習④パート毎の音色研究
6	クラシックアンサンブルの実習⑤2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定
7	クラシックアンサンブル実習⑥2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定　基本
8	クラシックアンサンブル実習⑦2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定　応用
9	クラシックアンサンブル実習⑧　楽器と奏法の関係について　基本
10	クラシックアンサンブル実習⑨　楽器と奏法の関係について　応用
11	クラシックアンサンブル実習⑩　曲全体のまとめ方と表現について
12	ポピュラーアンサンブル実習①アンサンブル概要並びに選曲
13	ポピュラーアンサンブル実習②バンドスタイルの形態の研究
14	ポピュラーアンサンブル実習③課題曲のアレンジ分析
15	ポピュラーアンサンブル実習④課題のアレンジ分析と音出し

授業計画	
1	ポピュラーアンサンブル実習⑤エレクトリックベース奏法研究とアレンジ
2	ポピュラーアンサンブル実習⑥エレクトリックギターの奏法研究とアレンジ
3	ポピュラーアンサンブル実習⑦ドラムの奏法研究とアレンジ
4	ポピュラーアンサンブル実習⑧バンドスタイルでのアンサンブル実習
5	クラシックアンサンブル実習　演奏会課題曲の楽曲分析
6	クラシックアンサンブル実習　2台又は3台のアンサンブルのためのパート分け研究
7	クラシックアンサンブル実習　演奏会用課題曲のアンサンブル音出し
8	クラシックアンサンブル実習　演奏会用課題曲の音出しとバランス研究
9	クラシックアンサンブル実習　ソリストとの合わせ
10	クラシックアンサンブル実習　ソリストとの合わせ　ホールでのバランスや音作り
11	スコアリーディング研究　課題曲の譜読み
12	スコアリーディング研究　譜読みと分析
13	スコアリーディング研究　音色研究
14	スコアリーディンク研究　フレーズの解釈と表現
15	スコアリーディング研究　本番でのバランス作り、リバーブなどの設定研究

科目名	アンサンブル研究２						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE281200	科目コード	IE2812	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スコアリーディングにより、オーケストラ作品を課題として取り上げ、音楽表現の方法やアンサンブルテクニックを学ぶ。（クラシック）
電子オルガンによるポピュラー作品のアンサンブルを取り上げる。バンドの中でのキーボードとしての役割なども学び、経験する。（ポピュラー）　電子オルガン２台又は３台によるアンサンブル、指揮とともに、又はバンドのメンバーとともに演奏することにより、音楽を立体的に感じられるようになることを到達目標にする。集大成として、演奏会で本番を行う。

２．授業概要

指揮者と共に電子オルガン２台又は３台によるアンサンブル実習（クラシック）
電子オルガンによるアンサンブル、ドラムなどバンドメンバーとの共演によるアンサンブル実習（ポピュラー）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲目決定後、譜読み、音色作りを行う。それと同時に楽曲について、下調べをしておくこと。参考音源なども聞いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（演奏の準備状況（評価の50%）
楽曲に対する理解力、表現力（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アンサンブルのため、極力、欠席をしないこと。

授業計画	
	クラシックアンサンブルに関して、前期は、秋に行われる管楽器とのコンチェルトを課題曲にし、その準備を中心に進める。
1	ガイダンス【クラシック】授業概要、目標設定
2	クラシックアンサンブル①選曲並びに課題研究
3	クラシックアンサンブルの実習②2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習
4	クラシックアンサンブルの実習③2台又は3台など複数楽器でのアンサンブル。管楽器（木管）の譜読みと奏法研究
5	クラシックアンサンブルの実習④金管楽器の譜読みと奏法研究
6	クラシックアンサンブルの実習⑤弦楽器の譜読みと奏法研究
7	クラシックアンサンブル実習⑥2台又は3台でのアンサンブルに於ける音色研究
8	クラシックアンサンブル実習⑦2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定
9	クラシックアンサンブル実習⑧　ソロ部分の音楽研究
10	クラシックアンサンブル実習⑨　指揮合わせ
11	クラシックアンサンブル実習⑩　曲全体のまとめ方と表現について
12	ポピュラーアンサンブル実習①アンサンブル概要並びに選曲
13	ポピュラーアンサンブル実習②バンドスタイルの形態の研究
14	ポピュラーアンサンブル実習③課題曲のアレンジ分析
15	ポピュラーアンサンブル実習④課題のアレンジ分析と音出し

授業計画	
	クラシックアンサンブルに関して、後期は、冬に行われる弦楽器のコンチェルトを課題曲にし、その準備を中心に進める。
1	ポピュラーアンサンブル実習⑤エレクトリックベース奏法研究とアレンジ
2	ポピュラーアンサンブル実習⑥エレクトリックギターの奏法研究とアレンジ
3	ポピュラーアンサンブル実習⑦ドラムの奏法研究とアレンジ
4	ポピュラーアンサンブル実習⑧バンドスタイルでのアンサンブル実習
5	クラシックアンサンブル実習　ソリスト(フルート・オーボエ）との合わせ
6	クラシックアンサンブル実習　ソリスト（クラリネット・サックス）との合わせ
7	クラシックアンサンブル実習　ソリスト（金管楽器）との合わせ
8	管楽器コンチェルトのリハーサルに於けるサウンド作り
9	クラシックアンサンブル実習　弦楽器コンチェルトとのパート分け
10	クラシックアンサンブル実習　譜読み（木管楽器の譜読みと奏法研究）
11	クラシックアンサンブル実習　譜読み（金管楽器の譜読みと奏法研究）
12	クラシックアンサンブル実習　譜読み（弦楽器の譜読みと奏法研究）
13	スコアリーディング研究　音色研究
14	ソリストと共に指揮合わせ
15	スコアリーディング研究　本番でのバランス作り、リバーブなどの設定研究

科目名	作曲・編曲法１						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE282100	科目コード	IE2821	期間	通年
担当教員	大竹　くみ、三宅　康弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンは、楽器を演奏し、レジストレーションを作るだけでなく、作曲・編曲能力も求められる楽器である。つまり、音楽家としての総合的な力を求められているのである。

２．授業概要

本授業では、三宅康弘講師による「電子オルガン作品分析」で、日本及びオランダの電子オルガンのオリジナル作品を分析し、楽器の奏法や機能に着目した作曲法について研究する。また、大竹くみ講師による「作曲・編曲演習」では、さまざまなスタイルの作品を書けるように、オーケストレーションを含む編曲法などの実習をする。そしてそれらを総合させ、電子オルガンオリジナル曲を作曲し、発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実際の作品を分析、実習を行う授業のため、予習、復習は積極的に行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、研究過程、作品提出を総合的に考慮して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

既存の電子オルガン音楽に満足することなく、大学院生として、新たな電子オルガンの世界を切り開いていく人材となることを期待したい。

授業計画	
1	日本の電子オルガンオリジナル作品の概要
2	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品a）
3	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品b)
4	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品c)
5	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品d)
6	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品e)
7	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品f)
8	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品g)
9	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品h)
10	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品i)
11	オリジナル作品の音源から、演奏法の研究（作品a）
12	オリジナル作品の音源から、演奏法の研究（作品b）
13	オリジナル作品の音源から、演奏法の研究（作品c）
14	オリジナル作品の音源から、演奏法の研究（作品d）
15	オリジナル作品の音源から、演奏法の研究（作品e）

授業計画	
1	ガイダンス（今までに書いた自作曲、編曲作品を持参）「故郷」を混声四部合唱に編曲
2	変奏曲の分析1（きらきら星変奏曲等）と実施 「讃美歌」の旋律を同声2部合唱に編曲
3	変奏曲の分析2（パガニーニのテーマ等）と実施 「黒いひとみの」を同声2部合唱に編曲
4	変奏曲の分析4(Bachのシャコンヌ等）と実施 「トロイカ」を同声2部合唱に編曲
5	変奏曲の発表 「みんなで歌えば」を同声2部合唱に編曲
6	ソナタ形式について（ソナチネの分析） 「雨の庭」を同声3部合唱に編曲
7	ピアノソナタの分析1（ベートーベンの作品）と実施 「キャンプの夜」を同声3部合唱に編曲
8	ピアノソナタの分析2（モーツアルトの作品）と実施 「追憶」を同声3部合唱に編曲
9	ソナタの主題制作、発展 「故郷」を混声4部合唱に編曲
10	ソナチネ作品の個別指導
11	ソナチネ作品の個別指導並びに合唱編曲の発表1
12	合唱編曲の発表2
13	変奏曲、ソナタ形式の総括
14	授業内発表A（自分の作品分析と演奏）前半
15	授業内発表B（自分の作品分析と演奏）後半

科目名	作曲・編曲法２						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE282200	科目コード	IE2822	期間	通年
担当教員	大竹　くみ、三宅　康弘						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンは、楽器を演奏し、レジストレーションを作るだけでなく、作曲・編曲能力も求められる楽器である。つまり、音楽家としての総合的な力を求められているのである。

２．授業概要

本授業では、三宅康弘講師による「電子オルガン作品分析」で、日本及びオランダの電子オルガンのオリジナル作品を分析し、楽器の奏法や機能に着目した作曲法について研究する。また、大竹くみ講師による「作曲・編曲演習」では、さまざまなスタイルの作品を書けるように、オーケストレーションを含む編曲法などの実習をする。そしてそれらを総合させ、電子オルガンオリジナル曲を作曲し、発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実際の作品を分析、実習を行う授業のため、予習、復習は積極的に行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、研究過程、作品提出を総合的に考慮して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

既存の電子オルガン音楽に満足することなく、大学院生として、新たな電子オルガンの世界を切り開いていく人材となることを期待したい。

授業計画	
1	世界の電子オルガンオリジナル作品の概要
2	大規模の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品A） （様式を中心に）
3	大規模の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品B） （形式を中心に）
4	大規模の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品C） （語法を中心に）
5	大規模の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品D） （和声を中心に）
6	現代の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品E） （音型を中心に）
7	現代の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品F） （ラインを中心に）
8	現代の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品G） （音域を中心に）
9	現代の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品H） （奏法を中心に）
10	現代の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品I） （3段鍵盤を中心に）
11	現代の電子オルガンオリジナル作品から音色研究（アコースティックなサウンド）
12	現代の電子オルガンオリジナル作品の音色研究（電子音を使ったサウンド）
13	現代作品の演奏研究、個別チェック（音色）
14	現代作品の演奏研究、個別チェック（解釈）
15	まとめと発表

授業計画	
1	ガイダンス（小品を持参） 「旅愁」を同声2部合唱に編曲
2	オリジナル作品を他の編成に編曲1 「旅愁」を同声3部合唱に編曲
3	オリジナル作品を他の編成に編曲2 「旅愁」を混声4部合唱に編曲
4	オリジナル作品を他の編成に編曲3 「峠の我が家」を同声2部合唱に編曲
5	編成を変えて書いたオリジナル作品の発表 「峠の我が家」を同声3部合唱に編曲
6	オーケストレーションについて 「峠の我が家」を混声4部合唱に編曲
7	オリジナル作品（自作）をオーケストレーンする1 （アウトラインを考える）
8	オリジナル作品（自作）をオーケストレーションする２ （楽器群ごとに整理）
9	オリジナル作品（自作）をオーケストレーションする3 （２管編成に）
10	オリジナル作品（自作）をオーケストレーションする4 （2管編成）個別チェック
11	オーケストレーションしたオリジナル作品（自作）の作品と演奏の個別チェック
12	オーケストレーションしたオリジナル作品（自作）をアンサンブルで音出し
13	オリジナル作品（自作）の演奏のための音色研究
14	授業内発表（自分の作品分析と演奏）
15	作曲・編曲についての総括

科目名	アンサンブル研究１						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	IE2841A0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

室内楽、声楽曲伴奏,等の各自の希望するアンサンブルを通して他楽器の音色、機能を知り、自身の音色感、他楽器とのバランス、フレーズ感等を学ぶことを目標とする。また修了後には、どのような編成にも対応できるアンサンブルピアニストとして活躍できる表現法・奏法の確立をする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを受け、多角的に音楽を捉え幅広い音楽観を築く事を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業における成果をアンサンブルを通して実践確認する。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果による評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による指示に基づき各自準備する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	オペラ伴奏、歌曲伴奏を通して、歌手とのより専門性の高いアンサンブルを研究実践する
1	指揮者によるオペラ伴奏法（1）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
2	指揮者によるオペラ伴奏法（２）～歌い手をオーケストラが支える役割～
3	指揮者によるオペラ伴奏法（３）～弦楽器パートのピアノ奏法について～
4	指揮者によるオペラ伴奏法（４）～管楽器パートのピアノ奏法について～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（５）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～
6	コレペティトールによるオペラ研究（1）～オペラににおけるコレペティトゥアの役割～
7	コレペティトールによるオペラ研究（2）～オーケストラスコアにおける奏法解釈～
8	コレペティトールによるオペラ研究（3）～歌詞と音楽、演技と音楽の連動～
9	コレペティトールによるオペラ研究(（４）～コレペティトールにおける歌唱指導～
10	コレペティトールによるオペラ研究（５）～コレペティトールにおける指揮者としての役割～
11	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
12	歌曲伴奏法（２）～歌曲とピアノ独奏曲の相違点～
13	歌曲伴奏法（３）～歌曲から考察するピアノ奏法～
14	歌曲伴奏法（４）～歌詞とフレージングの連動性～
15	歌曲伴奏法（５）～呼吸とアーティキュレーション～

授業計画	
	室内楽、バレエ伴奏等、様々なアンサンブルのジャンルを多角的な視野から、伴奏者・アンサンブルピアニストとしての技術・表現を研究実践する。
1	2台ピアノ奏法研究（１）～独奏との相違点・音の聴き方・音楽の作り方～
2	2台ピアノ奏法研究（２）～オーケストラやピアノ以外の楽器を想定した音色の研究～
3	室内楽研究（１）～室内楽におけるピアニストの役割～
4	室内楽研究（２）～ベートーヴェンの大公トリオにおける奏法解釈～
5	室内楽研究（３）メンデルスゾーンのピアノトリオから見るピアニストのアンサンブルテクニック～
6	バレエ伴奏法（１）～バレエレッスンにおけるピアノ伴奏の役割～
7	バレエ伴奏法（２）～プリエ・バットマン・タンデュからグラン・バットマンまでの奏法研究～
8	バレエ伴奏法（３）～アダージョからグラン・ワルツまで、より躍動的にダンサーの動きを誘えるような演奏とは～
9	バレエ伴奏法（４）～ダンサーとのバーレッスン実践～
10	バレエ伴奏法（５）～ヴァリエーションについて映像からの考察～
11	バレエ伴奏法（６）～ダンサーの踊りに合わせたヴァリエーション曲の実践～
12	バレエ伴奏法（７）～モチーフを使った即興演奏や変奏～
13	バレエ伴奏法（８）～アンシェヌマンに合わせた即興演奏～
14	バレエ伴奏法（９）～バレエ伴奏をする上で重要なバレエ作品の考察と実践～
15	ミュージックプロダクション実習～レコーディングにおける奏法表現の可能性～

科目名	アンサンブル研究１						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2841C0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

同属または異なる発音形態の異種楽器とのアンサンブルを通年で研究する。

２．授業概要

各グループで年間スケジュールを立て曲を選ぶ。授業回数が前後期15回と少ないので十分な予習・練習が必要である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

年度末試験により評価する。尚、優秀グループは前田ホールでの大学院室内楽演奏会に出演。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループによる準備

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

室内楽研究として履修登録する。履修決定後、担当教員と授業計画を立てる。
不足楽器については、学部生、卒業生等を当てる。積極的な練習を必要とする。

授業計画	
	［前期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（ヘンデル）
2	アンサンブル研究（バッハ）
3	アンサンブル研究（モーツァルト）
4	アンサンブル研究（ベートーヴェン）
5	アンサンブル研究（ハイドン）
6	アンサンブル研究（シューマン）
7	アンサンブル研究（ブラームス）
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（ドビュッシー）
2	アンサンブル研究（フォーレ）
3	アンサンブル研究（ラヴェル）
4	アンサンブル研究（フランセ）
5	アンサンブル研究（ミヨー）
6	アンサンブル研究（試験曲の分析）
7	アンサンブル研究（試験曲演奏法指導）
8	アンサンブル研究（試験曲リハーサル）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル研究１						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	IE2841D0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演奏をする上で大切な事は、他の楽器の音も聴けることである。
アンサンブルを通して、お互いの技術の向上はもちろんのこと音楽に対する考え方を高める。

２．授業概要

各グループで年間スケジュールを立て、曲を選ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

各担当教員の判断による。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意（パート譜、スコア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

三重奏から八重奏が望ましい。
大学院生でメンバーが集まらない時は、学部生、卒業生等に選択の幅を広げてメンバーを集めてもよい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。
3	音楽の全体像をつかむ。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。
5	難しいパッセージの徹底練習。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
7	表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
10	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD 等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	アンサンブル研究１　[月2]						
代表教員	山澤　洋之	授業コード	IE2841E0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

打楽器アンサンブルに関する知識・能力を養い、より専門的な知識に基づき打楽器アンサンブルについて理解し、高度なアンサンブルを演奏する事ができるようになる。

２．授業概要

打楽器アンサンブルの黎明期より現代までの重要なアンサンブルを実演を交え取り組み、楽曲分析・演奏からそのアンサンブルがその後にもたらした影響を考察することにより打楽器アンサンブルについてより深い表現・演奏ができるようになる。また、現代打楽器アンサンブルの重要なレパートリーを学習し、理解する事が出来る。
積極的な作曲活動も視野に入れる楽曲を作成できるようになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

合奏への実技的部分の練習はもちろんの事
取り上げる楽曲への分析、歴史的背景等の予習が望ましい
双方の予習復習に120分程度を想定している

４．成績評価の方法及び基準

平常点（演奏内容・楽曲分析内容も含み、演奏指導中に適宜質問を行いその解答や演奏習熟度によって判断される）100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Music for Pieces of Wood/S.Reich
Heartbeat/A.Gomez
October Mountain/Alan Hovhaness
新作/山澤洋之
他を必要に応じて配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ ※歴史的な作品を主に取り上げる。
1	ガイダンス
2	基本的なアンサンブルの実践
3	楽曲研究（打楽器黎明期の作品）
4	楽曲研究（チャベス、トッカータを境にした作品）
5	楽曲研究（実験音楽）
6	楽曲研究（ミニマルの登場）
7	楽曲研究（日本における打楽器アンサンブル黎明期の作品）
8	楽曲研究（日本における独自進化した作品群）
9	楽曲研究（新しい作品）
10	研究楽曲１　楽曲の構造内容の理解
11	研究楽曲２　構造に即した表現
12	研究楽曲３　打楽器的なアプローチによる演奏への理解
13	研究楽曲４　全体構造及び表現に即した奏法への追及
14	研究楽曲５　これまでの理解に基づく表現及び演奏の総合的な表現へのアプローチ
15	前期まとめ　演奏の試演と問題の抽出を行い後期への課題とする

授業計画	
	［後期］ ※年度末に実施されるアンサンブルコンサートに向けての実践。
1	後期ガイダンス
2	選曲とプログラミング
3	楽曲制作（新しい打楽器作品への取り組み）
4	楽曲制作（実際の音と記譜について）
5	演奏会楽曲研究（古典派の作品から）
6	演奏会楽曲研究（学生作品）
7	演奏会楽曲研究（新しい作品）
8	演奏会楽曲研究（実験的な作品、またはシアターピース）
9	演奏会楽曲研究（大規模な編成の作品）
10	演奏楽曲研究（具大的な表現・奏法の研究に着手）
11	演奏会楽曲研究　（楽曲ごとの演奏表現の洗練化）
12	演奏会楽曲研究　（曲ごとの関連性を研究し、演奏会全体の構造を理解する）
13	演奏会楽曲研究　（全体的な構造を踏まえたうえでの均整的な総合表現）
14	演奏会楽曲研究　（演奏会楽曲の試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。）
15	後期まとめ　演奏会楽曲の再試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。

科目名	アンサンブル研究１　[土4]						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2841G0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々な作曲家の合奏作品を演奏する実習を通じて、邦楽器によるアンサンブルの技術を高めていく。プロとして現場で通用する高度な領域への到達が目標となる。

２．授業概要

GH学部生との合同で授業を進めていく。様々な作曲家の様々な作品を取り上げて、アンサンブルの演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。 場合によっては、複数の学生による自主的なパート練習も必要となる。

４．成績評価の方法及び基準

演奏実績に応じて、総合的に判断する。
総合的判断の基本線は下記の通り。
・演習への姿勢＝25%　　・演奏への取り組み＝25%　・演奏実績及びその成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
1	アンサンブル曲A / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲A / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲A / 課題作品研究
4	アンサンブル曲A / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲A / 演奏発表と講評
6	アドリブ演奏法 / 導入編～演習に向けての概説
7	アドリブ演奏法 / アドリブと不確定性・偶然性
8	アドリブ演奏法 / 独奏におけるアドリブ
9	アドリブ演奏法 / アンサンブルにおけるアドリブ
10	アドリブ演奏法 / アドリブ演奏発表と講評
11	アンサンブル曲B / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲B / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲B / 課題作品研究
14	アンサンブル曲B / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲B / 演奏発表と講評

授業計画	
1	アンサンブル曲C / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲C / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲C / 課題作品研究
4	アンサンブル曲C / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲C / 演奏発表と講評
6	アンサンブル曲D / 導入編～演習に向けての概説
7	アンサンブル曲D / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	アンサンブル曲D / 課題作品研究
9	アンサンブル曲D / 演奏の仕上げ
10	アンサンブル曲D / 演奏発表と講評
11	アンサンブル曲E / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲E / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲E / 課題作品研究
14	アンサンブル曲E / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲E / 演奏発表と講評

科目名	アンサンブル研究１　[水5]						
代表教員	小林　すぎ野	授業コード	IE2841H0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	原　善伸、寺島　夕紗子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI(GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックギターによる重奏、合奏や他楽器(ヴァイオリン、声楽)との二重奏によって、アンサンブル能力、初見力を養い、ギター奏者として自分の役割を果たし協調する人格を培うことを目標とする。年２回のクラシックギターコース演奏会に出演する。

２．授業概要

クラシックギターによる二重奏、三重奏、四重奏、及び合奏をはじめ、音域や表現力を高める目的を持ってアルトギター、バスギターなどの合奏用ギター（大学に常備）を用いたアンサンブル、またヴァイオリンや声楽との二重奏、合奏を実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自パートの個人練習はもちろん、演奏会に向けて必要に応じて自主的なパート、合奏練習をする。

４．成績評価の方法及び基準

授業態度と演奏会の評価から総合的に判断。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布　（バロック時代、ロマン派、近.現代等の編曲作品及びオリジナル作品を使用する。）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業は全回出席が前提となる。

授業計画	
	［前期］ ギターアンサンブルに必用な基礎練習と前期クラシックギターコース演奏会にむけた楽曲の練習。
1	ガイダンス ヴァイオリンとギターの違い、アンサンブルについて
2	ヴァイオリンとギターのアンサンブルのための基礎練習
3	ヴァイオリンとギターアンサンブルのレパートリー紹介
4	ヴァイオリンとギターによるバロック時代の楽曲紹介
5	ヴァイオリンとギターによるバロック時代の楽曲練習
6	ヴァイオリンとギターによるイタリアバロック時代の楽曲練習
7	古典派時代のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の紹介
8	古典派時代のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の練習
9	古典派時代のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の練習　演奏会形式による小発表会
10	前期クラシックギター演奏会のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の選定
11	前期クラシックギター演奏会のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の練習
12	前期クラシックギター演奏会のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の練習　指揮付き
13	前期クラシックギター演奏会のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	ヴァイオリンとクラシックギターのアンサンブルについてまとめ

授業計画	
	［後期］ 後期クラシックギターコース演奏会に向けた取り組みと、ギターアンサンブルの主要レパートリーの研究。
1	ガイダンス 声楽とギターのアンサンブルの課題と目標設定
2	バロック時代の声楽とギターのアンサンブル曲の紹介
3	バロック時代の声楽とギターのアンサンブル曲の練習
4	バロック時代の声楽とギターのアンサンブル曲の練習　演奏会形式の小発表
5	ロマン派の声楽とギターのアンサンブル曲の紹介
6	ロマン派の声楽とギターによるアンサンブル曲の練習
7	ロマン派の声楽とギターによるアンサンブル曲の練習 小発表会形式による演奏会
8	ロマン派の声楽とギターによるアンサンブル曲の練習　発表会形式による小発表会
9	近・現代の声楽とギターによるアンサンブル曲の紹介と練習
10	後期クラシックギター演奏会の声楽とギターによるアンサンブル曲の選定
11	後期クラシックギター演奏会の声楽とギターによるアンサンブル曲の練習 バロック時代曲
12	後期クラシックギター演奏会の声楽とギターによるアンサンブル曲の練習　近、現代曲
13	後期クラシックギター演奏会の声楽とギターによるアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	アンサンブル研究２						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	IE2842A0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

室内楽、声楽曲伴奏,等の各自の希望するアンサンブルを通して他楽器の音色、機能を知り、自身の音色感、他楽器とのバランス、フレーズ感等を学ぶことを目標とする。また修了後には、どのような編成にも対応できるアンサンブルピアニストとして活躍できる表現法・奏法の確立をする。

２．授業概要

様々な分野の教授陣からのアドヴァイスを受け、多角的に音楽を捉え幅広い音楽観を築く事を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業における成果をアンサンブルを通して実践確認する。

４．成績評価の方法及び基準

授業における研究成果による評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による指示に基づき各自準備する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	オペラ伴奏、歌曲伴奏を通して、歌手とのより専門性の高いアンサンブルを研究実践する
1	指揮者によるオペラ伴奏法（1）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
2	指揮者によるオペラ伴奏法（２）～歌い手をオーケストラが支える役割～
3	指揮者によるオペラ伴奏法（３）～弦楽器パートのピアノ奏法について～
4	指揮者によるオペラ伴奏法（４）～管楽器パートのピアノ奏法について～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（５）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～
6	コレペティトールによるオペラ研究（1）～オペラににおけるコレペティトゥアの役割～
7	コレペティトールによるオペラ研究（2）～オーケストラスコアにおける奏法解釈～
8	コレペティトールによるオペラ研究（3）～歌詞と音楽、演技と音楽の連動～
9	コレペティトールによるオペラ研究(（４）～コレペティトールにおける歌唱指導～
10	コレペティトールによるオペラ研究（５）～コレペティトールにおける指揮者としての役割～
11	歌曲伴奏法（１）～歌詞とメロディーの連動性～
12	歌曲伴奏法（２）～歌曲とピアノ独奏曲の相違点～
13	歌曲伴奏法（３）～歌曲から考察するピアノ奏法～
14	歌曲伴奏法（４）～歌詞とフレージングの連動性～
15	歌曲伴奏法（５）～呼吸とアーティキュレーション～

授業計画	
	室内楽、バレエ伴奏等、様々なアンサンブルのジャンルを多角的な視野から、伴奏者・アンサンブルピアニストとしての技術・表現を研究実践する。
1	2台ピアノ奏法研究（１）～独奏との相違点・音の聴き方・音楽の作り方～
2	2台ピアノ奏法研究（２）～オーケストラやピアノ以外の楽器を想定した音色の研究～
3	室内楽研究（１）～室内楽におけるピアニストの役割～
4	室内楽研究（２）～ベートーヴェンの大公トリオにおける奏法解釈～
5	室内楽研究（３）メンデルスゾーンのピアノトリオから見るピアニストのアンサンブルテクニック～
6	バレエ伴奏法（１）～バレエレッスンにおけるピアノ伴奏の役割～
7	バレエ伴奏法（２）～プリエ・バットマン・タンデュからグラン・バットマンまでの奏法研究～
8	バレエ伴奏法（３）～アダージョからグラン・ワルツまで、より躍動的にダンサーの動きを誘えるような演奏とは～
9	バレエ伴奏法（４）～ダンサーとのバーレッスン実践～
10	バレエ伴奏法（５）～ヴァリエーションについて映像からの考察～
11	バレエ伴奏法（６）～ダンサーの踊りに合わせたヴァリエーション曲の実践～
12	バレエ伴奏法（７）～モチーフを使った即興演奏や変奏～
13	バレエ伴奏法（８）～アンシェヌマンに合わせた即興演奏～
14	バレエ伴奏法（９）～バレエ伴奏をする上で重要なバレエ作品の考察と実践～
15	ミュージックプロダクション実習～レコーディングにおける奏法表現の可能性～

科目名	アンサンブル研究２						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2842C0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

同属または異なる発音形態の異種楽器とのアンサンブルを通年で研究する。

２．授業概要

各グループで年間スケジュールを立て曲を選ぶ。授業回数が前後期15回と少ないので十分な予習・練習が必要である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

年度末試験により評価する。尚優秀グループは前田ホールでの大学院室内楽演奏会に出演

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループによる準備

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

室内楽研究として履修登録する。履修決定後、担当教員と授業計画を立てる。
不足楽器については、学部生、卒業生等を当てる。積極的な練習を必要とする。

授業計画	
	［前期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（ヘンデル）
2	アンサンブル研究（バッハ）
3	アンサンブル研究（モーツァルト）
4	アンサンブル研究（ベートーヴェン）
5	アンサンブル研究（ハイドン）
6	アンサンブル研究（シューマン）
7	アンサンブル研究（ブラームス）
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］ 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究（ドビュッシー）
2	アンサンブル研究（フォーレ）
3	アンサンブル研究(ラヴェル)
4	アンサンブル研究（フランセ）
5	アンサンブル研究（近、現代）
6	アンサンブル研究（試験曲の分析）
7	アンサンブル研究（試験曲演奏法指導）
8	アンサンブル研究（試験曲リハーサル）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル研究２						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	IE2842D0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演奏をする上で大切な事は、他の楽器の音も聴けることである。
アンサンブルを通して、お互いの技術の向上はもちろんのこと音楽に対する考え方を高める。

２．授業概要

各グループで年間スケジュールを立て、曲を選ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

４．成績評価の方法及び基準

各担当教員の判断による。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意（パート譜、スコア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

三重奏から八重奏が望ましい。
大学院生でメンバーが集まらない時は、学部生、卒業生等に選択の幅を広げてメンバーを集めてもよい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。
3	音楽の全体像をつかむ。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。
5	難しいパッセージの徹底練習。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
7	表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
10	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD 等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	アンサンブル研究２　[月2]						
代表教員	山澤　洋之	授業コード	IE2842E0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

打楽器アンサンブルに関する知識・能力を養い、より専門的な知識に基づき打楽器アンサンブルについて理解し、高度なアンサンブルを演奏する事ができるようになる。

２．授業概要

打楽器アンサンブルの黎明期より現代までの重要なアンサンブルを実演を交え取り組み、楽曲分析・演奏からそのアンサンブルがその後にもたらした影響を考察することにより打楽器アンサンブルについてより深い表現・演奏ができるようになる。また、現代打楽器アンサンブルの重要なレパートリーを学習し、理解する事が出来る。
積極的な作曲活動も視野に入れる楽曲を作成できるようになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

合奏への実技的部分の練習はもちろんの事
取り上げる楽曲への分析、歴史的背景等の予習が望ましい
双方の予習復習に120分程度を想定している

４．成績評価の方法及び基準

平常点（演奏内容・楽曲分析内容も含み、演奏指導中に適宜質問を行いその解答や演奏習熟度によって判断される）100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Music for Pieces of Wood/S.Reich
Heartbeat/A.Gomez
October Mountain/Alan Hovhaness
新作/山澤洋之
他を必要に応じて配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ ※歴史的な作品を主に取り上げる。
1	ガイダンス
2	基本的なアンサンブルの実践
3	楽曲研究（打楽器黎明期の作品）
4	楽曲研究（チャベス、トッカータを境にした作品）
5	楽曲研究（実験音楽）
6	楽曲研究（ミニマルの登場）
7	楽曲研究（日本における打楽器アンサンブル黎明期の作品）
8	楽曲研究（日本における独自進化した作品群）
9	楽曲研究（新しい作品）
10	研究楽曲１　楽曲の構造内容の理解
11	研究楽曲２　構造に即した表現
12	研究楽曲３　打楽器的なアプローチによる演奏への理解
13	研究楽曲４　全体構造及び表現に即した奏法への追及
14	研究楽曲５　これまでの理解に基づく表現及び演奏の総合的な表現へのアプローチ
15	前期まとめ　演奏の試演と問題の抽出を行い後期への課題とする

授業計画	
	［後期］ ※年度末に実施されるアンサンブルコンサートに向けての実践。
1	後期ガイダンス
2	選曲とプログラミング
3	楽曲制作（新しい打楽器作品への取り組み）
4	楽曲制作（実際の音と記譜について）
5	演奏会楽曲研究（古典派の作品から）
6	演奏会楽曲研究（学生作品）
7	演奏会楽曲研究（新しい作品）
8	演奏会楽曲研究（実験的な作品、またはシアターピース）
9	演奏会楽曲研究（大規模な編成の作品）
10	演奏楽曲研究（具大的な表現・奏法の研究に着手）
11	演奏会楽曲研究　（楽曲ごとの演奏表現の洗練化）
12	演奏会楽曲研究　（曲ごとの関連性を研究し、演奏会全体の構造を理解する）
13	演奏会楽曲研究　（全体的な構造を踏まえたうえでの均整的な総合表現）
14	演奏会楽曲研究　（演奏会楽曲の試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。）
15	後期まとめ　演奏会楽曲の再試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。

科目名	アンサンブル研究２　[土4]						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2842G0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々な作曲家の合奏作品を演奏する実習を通じて、邦楽器によるアンサンブルの技術を高めていく。プロとして現場で通用する高度な領域への到達が目標となる。

２．授業概要

GH学部生との合同で授業を進めていく。様々な作曲家の様々な作品を取り上げて、アンサンブルの演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。 場合によっては、複数の学生による自主的なパート練習も必要となる。

４．成績評価の方法及び基準

演奏実績に応じて、総合的に判断する。
総合的判断の基本線は下記の通り。
・演習への姿勢＝25%　　・演奏への取り組み＝25%　・演奏実績及びその成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
1	アンサンブル曲A / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲A / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲A / 課題作品研究
4	アンサンブル曲A / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲A / 演奏発表と講評
6	アドリブ演奏法 / 導入編～演習に向けての概説
7	アドリブ演奏法 / アドリブと不確定性・偶然性
8	アドリブ演奏法 / 独奏におけるアドリブ
9	アドリブ演奏法 / アンサンブルにおけるアドリブ
10	アドリブ演奏法 / アドリブ演奏発表と講評
11	アンサンブル曲B / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲B / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲B / 課題作品研究
14	アンサンブル曲B / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲B / 演奏発表と講評

授業計画	
1	アンサンブル曲C / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲C / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲C / 課題作品研究
4	アンサンブル曲C / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲C / 演奏発表と講評
6	アンサンブル曲D / 導入編～演習に向けての概説
7	アンサンブル曲D / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	アンサンブル曲D / 課題作品研究
9	アンサンブル曲D / 演奏の仕上げ
10	アンサンブル曲D / 演奏発表と講評
11	アンサンブル曲E / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲E / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲E / 課題作品研究
14	アンサンブル曲E / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲E / 演奏発表と講評

科目名	アンサンブル研究２　[水5]						
代表教員	小林　すぎ野	授業コード	IE2842H0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	原　善伸、寺島　夕紗子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI(GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックギターによる重奏、合奏や他楽器(ヴァイオリン、声楽)との二重奏によって、アンサンブル能力、初見力を養い、ギター奏者として自分の役割を果たし協調する人格を培うことを目標とする。年２回のクラシックギターコース演奏会に出演する。

２．授業概要

クラシックギターによる二重奏、三重奏、四重奏、及び合奏をはじめ、音域や表現力を高める目的を持ってアルトギター、バスギターなどの合奏用ギター（大学に常備）を用いたアンサンブル、またヴァイオリン、声楽との二重奏、合奏を実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自パートの個人練習はもちろん、演奏会に向けて必要に応じて自主的なパート、合奏練習をする。

４．成績評価の方法及び基準

授業態度と演奏会の評価から総合的に判断。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布　（バロック時代、ロマン派、近.現代等の編曲作品及びオリジナル作品を使用する。）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業は全回出席が前提となる。

授業計画	
	［前期］ ギターアンサンブルに必用な基礎練習と前期クラシックギターコース演奏会にむけた楽曲の練習。
1	ガイダンス ヴァイオリンとギターの違い、アンサンブルについて
2	ヴァイオリンとギターのアンサンブルのための基礎練習
3	ヴァイオリンとギターアンサンブルのレパートリー紹介
4	ヴァイオリンとギターによるバロック時代の楽曲紹介
5	ヴァイオリンとギターによるバロック時代の楽曲練習
6	ヴァイオリンとギターによるイタリアバロック時代の楽曲練習
7	古典派時代のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の紹介
8	古典派時代のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の練習
9	古典派時代のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の練習　演奏会形式による小発表会
10	前期クラシックギター演奏会のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の選定
11	前期クラシックギター演奏会のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の練習
12	前期クラシックギター演奏会のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲の練習　指揮付き
13	前期クラシックギター演奏会のヴァイオリンとギターによるアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	ヴァイオリンとクラシックギターのアンサンブルについてまとめ

授業計画	
	［後期］ 後期クラシックギターコース演奏会に向けた取り組みと、ギターアンサンブルの主要レパートリーの研究。
1	ガイダンス 声楽とギターのアンサンブルの課題と目標設定
2	バロック時代の声楽とギターのアンサンブル曲の紹介
3	バロック時代の声楽とギターのアンサンブル曲の練習
4	バロック時代の声楽とギターのアンサンブル曲の練習　演奏会形式の小発表
5	ロマン派の声楽とギターのアンサンブル曲の紹介
6	ロマン派の声楽とギターによるアンサンブル曲の練習
7	ロマン派の声楽とギターによるアンサンブル曲の練習 小発表会形式による演奏会
8	ロマン派の声楽とギターによるアンサンブル曲の練習　発表会形式による小発表会
9	近・現代の声楽とギターによるアンサンブル曲の紹介と練習
10	後期クラシックギター演奏会の声楽とギターによるアンサンブル曲の選定
11	後期クラシックギター演奏会の声楽とギターによるアンサンブル曲の練習 バロック時代曲
12	後期クラシックギター演奏会の声楽とギターによるアンサンブル曲の練習　近、現代曲
13	後期クラシックギター演奏会の声楽とギターによるアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	現代曲の奏法と研究１　（後）［水2］						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE285100	科目コード	IE2851	期間	半期(後期)
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演奏家の視点から現代音楽作品の解釈と特殊奏法について深く研究する。

２．授業概要

講義には第一線で活躍するゲスト演奏家を招聘し、履修生も現代音楽作品を演奏し特殊奏法や作品について研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と練習を必ず行う

４．成績評価の方法及び基準

演奏姿勢、演奏内容とレポート提出

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜・インターネット
CD・DVD・YouTube

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

国内外コンクール参加、研究演奏・修士演奏や学内リサイタルシリーズ等、必ず演奏経験を行う。

授業計画	
	［半期］（後期） 注１：１１～１２月開催の冬の音楽祭に行われる可能性あり
1	現代曲とは ガイダンスと授業説明
2	現代音楽の定義
3	フルートについて
4	オーボエについて
5	現代楽器と古楽器演奏法との相違点
6	サクソフォンについて
7	クラリネットについて
8	ホルンについて
9	トロンボーンについて
10	室内楽における現代曲について
11	オーケストラにおける現代曲について
12	現代音楽の現状
13	研究演奏発表会①　前半
14	研究演奏発表会②　後半　注１
15	まとめとレポート提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	現代曲の奏法と研究２　（後）　[水2]						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE285200	科目コード	IE2852	期間	半期(後期)
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演奏家の視点から現代音楽作品の解釈と特殊奏法について深く研究する。

２．授業概要

講義には第一線で活躍するゲスト演奏家を招聘し、履修生も現代音楽作品を演奏し特殊奏法や作品について研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と練習を必ず行う

４．成績評価の方法及び基準

演奏姿勢、演奏内容とレポート提出

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜・インターネット
CD・DVD・YouTube

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

国内外コンクール参加、研究演奏・修士演奏や学内リサイタルシリーズ等、必ず演奏経験を行う。

授業計画	
	［半期］（後期） 注１：１１～１２月開催の冬の音楽祭に行われる可能性あり
1	現代曲とは ガイダンスと授業説明
2	現代音楽の定義
3	フルートについて
4	オーボエについて
5	現代楽器と古楽器演奏法との相違点
6	サクソフォンについて
7	クラリネットについて
8	ホルンについて
9	トロンボーンについて
10	室内楽における現代曲について
11	オーケストラにおける現代曲について
12	現代音楽の現状
13	研究演奏発表会①　前半
14	研究演奏発表会②　後半　　注１
15	まとめとレポート提出

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	打楽器の変遷と奏法の研究１　［月4］						
代表教員	古川　玄一郎	授業コード	IE286100	科目コード	IE2861	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲者たちは打楽器に何を求めたのか。
表現素材としての打楽器のあり方を演奏者の視座より考察し､譜面の読みを深くする。

２．授業概要

19世紀なかごろより急速に発展し様々なかたちで音楽作品に用いられてきた打楽器だが、その特徴のひとつとして楽器のヴァリエーションが膨大なことが挙げられる。
奏法は各打楽器によりそれぞれ異なり、さらに撥類を組み合わせることによって音色の可能性は無限の拡がりをみせる。当然表現媒体として打楽器をチョイスする作曲家は多く、彼らははこれまでにない新しい響きをもとめ従来の奏法からは大きく逸れた、いわゆる特殊奏法を考案してきた。
この講義は19世紀初頭から現代に至るまでの打楽器芸術の遷移とそれらの表現方法を､毎回テーマに即した作品と作曲家にフォーカスし研究を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

①20世紀までの音楽史を理解しておくこと。
②取り上げる作品を聴き､譜面に目を通すこと。
③取り上げる作品の奏法、記譜法を理解しておくこと。
（トータルの学習想定時間は90分程度）

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢（平常点）50%、レポート50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

①「新版打楽器事典」網代景介・岡田知之共著（音楽之友社）
②授業内で適宜配布するプリントや譜例

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

諸芸術に対する深い理解と愛情を持つ履修者を望む。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ～音を聴くということ～
2	オーケストラに導入される非楽音 「さまよえるオランダ人」(R.ワーグナー)、「交響曲第6番」(G.マーラー)、「アルプス交響曲」(R.シュトラウス)、「子供と魔法」(M.ラヴェル)、「パリのアメリカ人」(G.ガーシュイン)、「パラード」(E.サティ)
3	室内楽① 「兵士の物語」(I.ストラヴィンスキー)、「バレエ・メカニック」(G.アンタイル)、「2台ピアノと打楽器のためのソナタ」(B.バルトーク)、「夏の夜の音楽」（G.クラム）、「linea」（L.ベリオ）
4	室内楽②(打楽器アンサンブル他) 「鼻」(D.ショスタコーヴィチ)、「イオニザシオン」(E.ヴァーレーズ)、「２組のティンパニのためのマーチ」(フィリドール兄弟)、「ソロモンの雅歌からの５つの断章」(V.トムソン)
5	J.ケージ① (プリペアドピアノ考案～4'33")
6	J.ケージ② (打楽器アンサンブル作品を中心に)
7	具体音と大衆音楽 「L.アンダーソン、S.ジョプリン」(タイプライター、サンドペーパーバレエ、シンコペイテッドクロック、ピアノラグタイム)
8	図形楽譜 「ツィクルス」(K.シュトックハウゼン)、「デンマークの王様」(M.フェルドマン)、「サッファ」(I.クセナキス）、「インテリアル」「ギロ」(H.ラッヘンマン)他
9	武満徹①打楽器作品 「ムナーリバイムナーリ」「四季」「カシオペア」「雨の樹」「From me flows what you call Time」「ジティマルヤ」
10	武満徹②映画音楽他 「怪談」「はなれ瞽女おりん」「砂の女」「他人の顔」「燃える秋」「心中天網島」
11	引用 「動物の謝肉祭」（C.サンサーンス）、「干からびた胎児」（E.サティ）、「The Well-Tempered Percussion」（P.ノアゴー）
12	弓で弾く打楽器 「グラウンド」（副士則夫）、「変化する共鳴の長さ」（鷲見音衛門文広）、「ナゲキバトのソネット」（C.ディーン）、「イーチン」（P.ノアゴー）
13	クラスター 「REEL」（L..ハリソン）、「TheTides of Manaunaun」（H.カウエル）、「シリカ」（副士則夫）他
14	プリペアドピアノ 「かくて大地は再び身を結ばん」（J.ケージ）、「エオリアンハープ」（H.カウエル）、「デュオローグ」（西村朗）他
15	前期まとめ、レポート

授業計画	
	［後期］
1	S.ライヒ① (初期テープ作品～木片の音楽まで)
2	S.ライヒ② (Six Marimba～現在まで)
3	ライヒへのオマージュと変容 「Uberlagerung und Verschibung」(K.オーベルマイヤー)、「手拍子の音楽変奏曲」(G.コッチェ)、CD 「Reich :Rimixed」より
4	パガニーニへのオマージュと変容 「24のカプリース」（N.パガニーニ）、「パガニーニパーソナル」（一柳慧）、「パガニーニジャズ」（F.サイ）
5	フルクサスとコンセプチュアルアート (D.チュードア、小杉武久、J.マチューナス、N.J.パイク、J.ブレクト、E.ブラウン)
6	テキストを伴う作品「トゥシェ」 （V.グロヴォカール）、「リヴィングルームミュージック」「18の春を迎えた陽気な未亡人」（J.ケージ）、「To The Earth」（F.ジェフスキ）、「橋を渡って」(高橋悠治)
7	声 「ロゴサンティ（J.ウッド）、「雨の向こう側で」（池辺晋一郎）、「赤道のゼフィルス」（副士則夫）
8	エレクトロニクス 「ムーヴィングエア」「フェイビアンセオリー」(N.ウェストレイク)、「テマツカル」（J.アルバレツ）、「リンデ」(D.アルマダ)、「ガレージドラマー」(T.キャンベル)他
9	シアターミュージック 「aphasia」（M.アップルバウム）、「これはボールではない」（A.エスペレ他）、「Silence Must be!」(T.D.メイ)、「アラーム」(P.ルーダス)他
10	玩具とスーパーボール 「グラウンド」「赤道のゼフィルス」「海流」「リスコントロ」「カップル」（副士則夫）、「波」（P.ノアゴー）、「モノヴァランス」（池辺晋一郎）他
11	エフェクターとしてのティンパニー 「冬」(武満徹)、「イーチン」(P.ノアゴー)、「ワイルド・ガーデン」(E.コペツキ)
12	マルチメディア 「6つの日本庭園」（K.サーリアホ）他
13	協奏曲 「コンチェルト」（D.ミヨー）、「コンチェルト」（A.ジョリヴェ）、「アフロコンチェルト」（石井眞木）、「クロモスフィア」（副士則夫）、「ジティマルヤ」（武満徹）他
14	コラージュ 「The Beatles1962-1970」（J.ケージ）、「Revolution No.9」(The Beatles)他
15	一年間のまとめ、総合レポート

科目名	打楽器の変遷と奏法の研究２　［月4］						
代表教員	古川　玄一郎	授業コード	IE286200	科目コード	IE2862	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲者たちは打楽器に何を求めたのか。
表現素材としての打楽器のあり方を演奏者の視座より考察し､譜面の読みを深くする。

２．授業概要

19世紀なかごろより急速に発展し様々なかたちで音楽作品に用いられてきた打楽器だが、その特徴のひとつとして楽器のヴァリエーションが膨大なことが挙げられる。
奏法は各打楽器によりそれぞれ異なり、さらに撥類を組み合わせることによって音色の可能性は無限の拡がりをみせる。当然表現媒体として打楽器をチョイスする作曲家は多く、彼らははこれまでにない新しい響きをもとめ従来の奏法からは大きく逸れた、いわゆる特殊奏法を考案してきた。
この講義は19世紀初頭から現代に至るまでの打楽器芸術の遷移とそれらの表現方法を､毎回テーマに即した作品と作曲家にフォーカスし研究を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

①20世紀までの音楽史を理解しておくこと。
②取り上げる作品を聴き､譜面に目を通すこと。
③取り上げる作品の奏法、記譜法を理解しておくこと。
（トータルの学習想定時間は90分程度）

４．成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢（平常点）50%、レポート50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

①「新版打楽器事典」網代景介・岡田知之共著（音楽之友社）
②授業内で適宜配布するプリントや譜例

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

諸芸術に対する深い理解と愛情を持つ履修者を望む。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ～音を聴くということ～
2	オーケストラに導入される非楽音 「さまよえるオランダ人」(R.ワーグナー)、「交響曲第6番」(G.マーラー)、「アルプス交響曲」(R.シュトラウス)、「子供と魔法」(M.ラヴェル)、「パリのアメリカ人」(G.ガーシュイン)、「パラード」(E.サティ)
3	室内楽① 「兵士の物語」(I.ストラヴィンスキー)、「バレエ・メカニック」(G.アンタイル)、「2台ピアノと打楽器のためのソナタ」(B.バルトーク)、「夏の夜の音楽」（G.クラム）、「linea」（L.ベリオ）
4	室内楽②(打楽器アンサンブル他) 「鼻」(D.ショスタコーヴィチ)、「イオニザシオン」(E.ヴァーレーズ)、「２組のティンパニのためのマーチ」(フィリドール兄弟)、「ソロモンの雅歌からの５つの断章」(V.トムソン)
5	J.ケージ① (プリペアドピアノ考案～4'33")
6	J.ケージ② (打楽器アンサンブル作品を中心に)
7	具体音と大衆音楽 「L.アンダーソン、S.ジョプリン」(タイプライター、サンドペーパーバレエ、シンコペイテッドクロック、ピアノラグタイム)
8	図形楽譜 「ツィクルス」(K.シュトックハウゼン)、「デンマークの王様」(M.フェルドマン)、「サッファ」(I.クセナキス）、「インテリアル」「ギロ」(H.ラッヘンマン)他
9	武満徹①打楽器作品 「ムナーリバイムナーリ」「四季」「カシオペア」「雨の樹」「From me flows what you call Time」「ジティマルヤ」
10	武満徹②映画音楽他 「怪談」「はなれ瞽女おりん」「砂の女」「他人の顔」「燃える秋」「心中天網島」
11	引用 「動物の謝肉祭」（C.サンサーンス）、「干からびた胎児」（E.サティ）、「The Well-Tempered Percussion」（P.ノアゴー）
12	弓で弾く打楽器 「グラウンド」（副士則夫）、「変化する共鳴の長さ」（鷲見音衛門文広）、「ナゲキバトのソネット」（C.ディーン）、「イーチン」（P.ノアゴー）
13	クラスター 「REEL」（L..ハリソン）、「TheTides of Manaunaun」（H.カウエル）、「シリカ」（副士則夫）他
14	プリペアドピアノ 「かくて大地は再び身を結ばん」（J.ケージ）、「エオリアンハープ」（H.カウエル）、「デュオローグ」（西村朗）他
15	前期まとめ、レポート

授業計画	
	［後期］
1	S.ライヒ① (初期テープ作品～木片の音楽まで)
2	S.ライヒ② (Six Marimba～現在まで)
3	ライヒへのオマージュと変容 「Uberlagerung und Verschibung」(K.オーベルマイヤー)、「手拍子の音楽変奏曲」(G.コッチェ)、CD 「Reich :Rimixed」より
4	パガニーニへのオマージュと変容 「24のカプリース」（N.パガニーニ）、「パガニーニパーソナル」（一柳慧）、「パガニーニジャズ」（F.サイ）
5	フルクサスとコンセプチュアルアート (D.チュードア、小杉武久、J.マチューナス、N.J.パイク、J.ブレクト、E.ブラウン)
6	テキストを伴う作品「トゥシェ」 （V.グロヴォカール）、「リヴィングルームミュージック」「18の春を迎えた陽気な未亡人」（J.ケージ）、「To The Earth」（F.ジェフスキ）、「橋を渡って」(高橋悠治)
7	声 「ロゴサンティ（J.ウッド）、「雨の向こう側で」（池辺晋一郎）、「赤道のゼフィルス」（副士則夫）
8	エレクトロニクス 「ムーヴィングエア」「フェイビアンセオリー」(N.ウェストレイク)、「テマツカル」（J.アルバレツ）、「リンデ」(D.アルマダ)、「ガレージドラマー」(T.キャンベル)他
9	シアターミュージック 「aphasia」（M.アップルバウム）、「これはボールではない」（A.エスペレ他）、「Silence Must be!」(T.D.メイ)、「アラーム」(P.ルーダス)他
10	玩具とスーパーボール 「グラウンド」「赤道のゼフィルス」「海流」「リスコントロ」「カップル」（副士則夫）、「波」（P.ノアゴー）、「モノヴァランス」（池辺晋一郎）他
11	エフェクターとしてのティンパニー 「冬」(武満徹)、「イーチン」(P.ノアゴー)、「ワイルド・ガーデン」(E.コペツキ)
12	マルチメディア 「6つの日本庭園」（K.サーリアホ）他
13	協奏曲 「コンチェルト」（D.ミヨー）、「コンチェルト」（A.ジョリヴェ）、「アフロコンチェルト」（石井眞木）、「クロモスフィア」（副士則夫）、「ジティマルヤ」（武満徹）他
14	コラージュ 「The Beatles1962-1970」（J.ケージ）、「Revolution No.9」(The Beatles)他
15	一年間のまとめ、総合レポート

科目名	コンチェルト研究１						
代表教員	江崎　昌子	授業コード	IE287100	科目コード	IE2871	期間	通年
担当教員	北島　公彦、外山　啓介						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オーケストラの華である協奏曲のスタイルをソロとオーケストラが共にどのように音楽を作っているかを分析し、実際に電子オルガンとの協演を通して協奏曲における演奏技術を学ぶ。協奏曲のソリストとしての役割、指揮者とオーケストラのとの息の合わせ方を学ぶため、また卒業後にコンチェルトオーディションなどにおけるピアノ伴奏者として活躍できる高度で専門的な技術を身につけるため、ソロパートのみならずオーケストラパートをピアノ伴奏版としても習得し、オーケストラの響きをイメージしながらピアノで伴奏する際の注意点や工夫なども課題とする。

２．授業概要

電子オルガンとのコンチェルト研究演奏会で演奏する曲を各自選択し（学生の希望による）ソロ、オーケストラパートのピアノ伴奏の両方を学び仕上げる。コンチェルト研究演奏会の前に二台ピアノにおける試演会も行う。試演会ではソロで出演するほかピアノ伴奏パートとして出演することも多いに推奨する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員のレッスンによる

４．成績評価の方法及び基準

コンチェルト研究演奏会における成果発表、また平常点（受講態度、授業への取り組み方）により評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	コンチェルトの歴史とピアノ協奏曲の発展
2	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の研究（ソロパートを中心に、バロック時代のソロパートの在り方について学ぶ）
3	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、協奏曲としての役割について）
4	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	古典(モーツァルト)のピアノ協奏曲研究　（ソロパートのタッチやペダリング、ソロパートの入り方、オーケストラとのやりとりについて）
6	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートのスコアリーディングとともに、ピアノ伴奏として演奏する際の響きの作り方について学ぶ）
7	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版よるアンサンブル演習
8	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲研究　（ソロパートを中心に、モーツァルトの協奏曲との比較）
9	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲研究　（オーケストラパートを中心に、オーケストラの各楽器に相応しいタッチや響きの作り方をピアノで実演する）
10	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、古典からの流れとロマン派の協奏曲の発展を学ぶ。）
12	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの響きをイメージしながらピアノ伴奏としてどのような表現が必要かを学ぶ）
13	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、ショパンの協奏曲の特徴、ショパンが意図した響き、及び協奏曲に反映された舞曲的なリズムについて学ぶ）
15	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートとソロを含め、ナショナルエディション版による協奏曲独奏版の演奏方法を学ぶ）

授業計画	
1	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
2	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、テンポの変化やカデンツについて）
3	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における、オーケストラの各楽器に最もふさわしい音色の研究）
4	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	近現代（ラフマニノフ）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、オーケストラとのバランス、ピアノの楽器の発展に伴う協奏曲の在り方について学ぶ）
6	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、ラフマニノフの協奏曲の特徴を学ぶ）
7	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	近現代（ラヴェル）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、後期ロマン派からの転換について、響きや表現の変化、及びスタイルの違いを学ぶ）
9	近現代（ラヴェル）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における諸問題について学ぶ）
10	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	近現代（プロコフィエフ）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心にプロコフィエフのタッチや表現について学ぶ）
12	近現代（プロコフィエフ）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、ソロパートとオーケストラの各楽器の役割、バランスについて）
13	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	指揮者による協奏曲演奏会演習
15	指揮者と電子オルガンによる演奏会演習

科目名	コンチェルト研究２						
代表教員	江崎　昌子	授業コード	IE287200	科目コード	IE2872	期間	通年
担当教員	北島　公彦、外山　啓介						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オーケストラの華である協奏曲のスタイルをソロとオーケストラが共にどのように音楽を作っているかを分析し、実際に電子オルガンとの協演を通して協奏曲における演奏技術を学ぶ。協奏曲のソリストとしての役割、指揮者とオーケストラのとの息の合わせ方を学ぶため、また卒業後にコンチェルトオーディションなどにおけるピアノ伴奏者として活躍できる高度で専門的な技術を身につけるため、ソロパートのみならずオーケストラパートをピアノ伴奏版としても習得し、オーケストラの響きをイメージしながらピアノで伴奏する際の注意点や工夫なども課題とする。

２．授業概要

電子オルガンとのコンチェルト研究演奏会で演奏する曲を各自選択し（学生の希望による）ソロ、オーケストラパートのピアノ伴奏の両方を学び仕上げる。コンチェルト研究演奏会の前に二台ピアノにおける試演会も行う。試演会ではソロで出演するほかピアノ伴奏パートとして出演することも多いに推奨する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員のレッスンによる

４．成績評価の方法及び基準

コンチェルト研究演奏会における成果発表、また平常点（受講態度、授業への取り組み方）により評価する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	コンチェルトの歴史とピアノ協奏曲の発展
2	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の研究（ソロパートを中心に、バロック時代のソロパートの在り方について学ぶ）
3	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、協奏曲としての役割について）
4	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	古典(モーツァルト)のピアノ協奏曲研究　（ソロパートのタッチやペダリング、ソロパートの入り方、オーケストラとのやりとりについて）
6	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートのスコアリーディングとともに、ピアノ伴奏として演奏する際の響きの作り方について学ぶ）
7	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版よるアンサンブル演習
8	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲研究　（ソロパートを中心に、モーツァルトの協奏曲との比較）
9	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲研究　（オーケストラパートを中心に、オーケストラの各楽器に相応しいタッチや響きの作り方をピアノで実演する）
10	古典(ベートーヴェン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、古典からの流れとロマン派の協奏曲の発展を学ぶ。）
12	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの響きをイメージしながらピアノ伴奏としてどのような表現が必要かを学ぶ）
13	ロマン派(シューマン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、ショパンの協奏曲の特徴、ショパンが意図した響き、及び協奏曲に反映された舞曲的なリズムについて学ぶ）
15	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートとソロを含め、ナショナルエディション版による協奏曲独奏版の演奏方法を学ぶ）

授業計画	
1	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
2	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、テンポの変化やカデンツについて）
3	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における、オーケストラの各楽器に最もふさわしい音色の研究）
4	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	近現代（ラフマニノフ）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、オーケストラとのバランス、ピアノの楽器の発展に伴う協奏曲の在り方について学ぶ）
6	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、ラフマニノフの協奏曲の特徴を学ぶ）
7	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	近現代（ラヴェル）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、後期ロマン派からの転換について、響きや表現の変化、及びスタイルの違いを学ぶ）
9	近現代（ラヴェル）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における諸問題について学ぶ）
10	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	近現代（プロコフィエフ）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心にプロコフィエフのタッチや表現について学ぶ）
12	近現代（プロコフィエフ）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、ソロパートとオーケストラの各楽器の役割、バランスについて）
13	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	指揮者による協奏曲演奏会演習
15	指揮者と電子オルガンによる演奏会演習

科目名	チェンバロ研究　[火5]						
代表教員	上薗　未佳	授業コード	IE288000	科目コード	IE2880	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

チェンバロを学ぶことは、J.S.バッハをはじめとするバロック音楽の理解を深め演奏する上で欠かせないことのひとつです。
この授業では、後期ルネサンスから前古典派までの様々な作曲家のチェンバロ作品に触れ、その魅力に迫ります。そして、チェンバロの歴史、奏法や装飾音などの演奏習慣、さらに、調律法、通奏低音奏法などを幅広く学ぶことによって、自らの奏法に活かし、より豊かな音楽性を育むことがねらいです。

2．授業概要

〇チェンバロの歴史、種類、構造について
〇チェンバロ奏法、演奏習慣、調律法、通奏低音奏法について
〇後期ルネサンスから前古典派までの多彩な作品の演奏。CD鑑賞。
〇後期に開催される「バロックとその周辺の音楽」演奏会の参加希望者へのレッスン（ソロ及びアンサンブル）
〇発表会の開催

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられる課題曲の予習及び復習をして臨むこと。およそ60分の予習復習が必要。出来る限り、チェンバロで練習すること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、及び、前期後期の最後の授業での演奏とレポートを総合的に考慮して評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

「ハープシコード・メソード」（マリア・ボクソール／有田千代子訳、日本ショット）、「クラヴサン奏法」（フランソワ・クープラン／桑形亜樹子訳、全音楽譜出版社、2018）、「正しいクラヴィーア奏法」（カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ著／東川清一訳、全音楽譜出版社）、「チェンバロ・フォルテピアノ」（渡邊順生著、東京書籍、２０００）、「鍵盤調律法」（横田誠三著、2008）
Running the Numbers:A Thorough Figured Bass Workbook for Keyboard Players
（F.C.Fitch/J.Ashworth Loux Music Company/Dovehouse Editions 2012）他。
授業内で必要な楽譜、資料を適宜配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業に欠席する場合は、必ず事前に連絡することを厳守してください。

授業計画	
	［前期］　場合によって、変更されることがあります。
1	ガイダンス
2	チェンバロについて（歴史、種類、構造等）
3	チェンバロ奏法入門
4	ヴァージナル楽派①歴史と作品について
5	ヴァージナル楽派②鑑賞、演習
6	イタリア初期バロック①歴史と作品について
7	イタリア初期バロック②鑑賞、演習
8	ドイツ中期バロック①歴史と作品について
9	ドイツ中期バロック②鑑賞、演習
10	フランス・クラヴサン楽派①歴史と作品について
11	フランス・クラヴサン楽派②鑑賞、演習
12	後期バロック①歴史と作品について
13	後期バロック②鑑賞、演習
14	前古典派③歴史と作品について、鑑賞、演習
15	前期発表（演奏とレポート）

授業計画	
	［後期］　場合によって、変更されることがあります。
1	チェンバロ調律法入門
2	通奏低音奏法入門①数字の読み方。リアリゼーション。
3	通奏低音奏法入門②課題：ホルボーン、モンテヴェルディ等
4	通奏低音奏法入門③課題：ダンドリュー、テレマン等
5	個人レッスン（後期ルネサンス）①W.バード、J.ブル等
6	個人レッスン（初期バロック）②フレスコバルディ等
7	個人レッスン（後期ルネサンスから初期バロック）③自由曲
8	個人レッスン（中期バロック）①L.クープラン、ダングルベール等
9	個人レッスン（中期バロック）②フローベルガー、ベーム等
10	個人レッスン（中期バロック）③F.クープラン等
11	個人レッスン（後期バロック）①バッハ、ヘンデル等
12	個人レッスン（後期バロック）②スカルラッティ等
13	個人レッスン（後期バロック）③ラモー等
14	個人レッスン（後期バロック、前古典派）④自由曲
15	後期発表（演奏とレポート）

科目名	音楽教育特殊研究１　［金3］						
代表教員	董　芳勝	授業コード	IE288100	科目コード	IE2881	期間	通年
担当教員	佐藤　昌弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：学校音楽科の理念と実践
到達目標：音楽科教育の基本的な事項(日本の音楽科教育の歴史、学習指導要領の方針と内容、実践学的な教育観と子ども観、現在の学校音楽教育の成果と課題、等々)を理解し、教育課程の内容の検証と授業実践への分析し、まとめることができる。

２．授業概要

文献での学習を通して、学校の音楽教育にかかわる基本的な考え方(教育観や学力観、子ども観、授業観、評価観、教材観等)を知る。実践事例の文献を通して、研究方法や実践分析の基礎学力を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と演習を交えて行い、また学外における実践の見学も計画しているので、それぞれの内容に応じ、また担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

レポート（評価の35%）　課題への対応（評価の35%）　授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第１回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】主に日本の学校音楽教育の歴史と現在の指導要領の内容の理解を通して、音楽科教育にかかわる基本的な教育観や子ども観、学力観等を身につく。以下の課題を中心に解く。 課題1：音楽科教育の目的と専門音楽教育の目的との同異点 課題2：子どもの音（音楽）への内面的な志向性とは 課題3：子どもの音楽的な発達段階
1	前期ガイダンス 日本の音楽科教育の歩み
2	音楽教育の哲学理論と学校音楽教育の授業論
3	音楽科の目標と評価
4	音楽科の指導内容と教材研究
5	音楽科の歌唱表現活動とその指導
6	音楽科の器楽表現活動とその指導
7	音楽科の教材研究
8	音楽科の鑑賞活動とその指導
9	音楽科における音楽の伝統文化の実践とその指導
10	音楽の伝統文化の継承と動向
11	中学校音楽科の目標と指導内容
12	高等学校の芸術科音楽の目標と指導内容
13	音楽科と他教科の関連
14	子どもの音楽的な発達と子ども理解
15	前期のまとめ

授業計画	
	【後期】主に授業実践の事例を通して、音楽活動の見方と研究方法の基礎的な知識と能力を身につく。前半では、日本と中国の学校音楽教育の同異点を知るため、授業実践の文献資料を取り入れる。後半では、音楽教育の研究に必要な基礎的な知識と能力を身につけるため、音楽教育実践学の基本的なキーワードを取り上げ、自分の言葉で説明し、まとめる。以下の課題を中心に解く。 課題1：音楽活動における教師の働きかけと子どもの思い・願い 課題2：子どもの音楽経験と音楽生成 課題3：音楽教員の養成とその課題 課題4：音楽教育の基本的な研究方法と視点
1	後期ガイダンス 日中の音楽科教育の目標と内容の比較(小・中学校)
2	日中の音楽科授業の実践比較(1)―「うみ」の授業実践
3	日中の音楽科授業の実践比較(2)―「赤とんぼ」の授業実践
4	日中の音楽科授業の実践比較(3)―器楽表現活動(葫芦丝とリコーダー)の授業実践
5	日中の音楽科授業の実践比較(4)-鑑賞活動(「おもちゃのシンフォニー」)の授業実践
6	日中の音楽科授業の実践比較(5)-音楽伝統文化の授業実践
7	日中の音楽科授業実践比較のまとめ
8	音楽経験と思考
9	音楽科評価の基本概念
10	音楽科における教材の働きといろいろな音楽
11	音楽科のカリキュラム
12	音楽科の授業研究
13	音楽教員の養成と教員の資質・能力
14	音楽科の広がりと学校文化
15	後期のまとめ

科目名	音楽教育特殊研究２　［金3］						
代表教員	董　芳勝	授業コード	IE288200	科目コード	IE2882	期間	通年
担当教員	佐藤　昌弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：学校音楽科の理念と実践
到達目標：音楽科教育の基本的な事項(日本の音楽科教育の歴史、学習指導要領の方針と内容、実践学的な教育観と子ども観、現在の学校音楽教育の成果と課題、等々)を理解し、教育課程の内容の検証と授業実践への分析し、まとめることができる。

２．授業概要

文献での学習を通して、学校の音楽教育にかかわる基本的な考え方(教育観や学力観、子ども観、授業観、評価観、教材観等)を知る。実践事例の文献を通して、研究方法や実践分析の基礎学力を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と演習を交えて行い、また学外における実践の見学も計画しているので、それぞれの内容に応じ、また担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

レポート（評価の35%）　課題への対応（評価の35%）　授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第１回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】主に日本の学校音楽教育の歴史と現在の指導要領の内容の理解を通して、音楽科教育にかかわる基本的な教育観や子ども観、学力観等を身につく。以下の課題を中心に解く。 課題1：音楽科教育の目的と専門音楽教育の目的との同異点 課題2：子どもの音（音楽）への内面的な志向性とは 課題3：子どもの音楽的な発達段階
1	前期ガイダンス 日本の音楽科教育の歩み
2	音楽教育の哲学理論と学校音楽教育の授業論
3	音楽科の目標と評価
4	音楽科の指導内容と教材研究
5	音楽科の歌唱表現活動とその指導
6	音楽科の器楽表現活動とその指導
7	音楽科の創作表現活動とその指導
8	音楽科の鑑賞活動とその指導
9	音楽科における音楽の伝統文化の実践とその指導
10	音楽の伝統文化の継承と動向
11	中学校音楽科の目標と指導内容
12	高等学校の芸術科音楽の目標と指導内容
13	音楽科と他教科の関連
14	子どもの音楽的な発達と子ども理解
15	前期のまとめ

授業計画	
	【後期】 主に授業実践の事例を通して、音楽活動の見方と研究方法の基礎的な知識と能力を身につく。前半では、日本と中国の学校音楽教育の同異点を知るため、授業実践の文献資料を取り入れる。後半では、音楽教育の研究に必要な基礎的な知識と能力を身につけるため、音楽教育実践学の基本的なキーワードを取り上げ、自分の言葉で説明し、まとめる。以下の課題を中心に解く。 課題1：音楽活動における教師の働きかけと子どもの思い・願い 課題2：子どもの音楽経験と音楽生成 課題3：音楽教員の養成とその課題 課題4：音楽教育の基本的な研究方法と視点
1	後期ガイダンス 日中の音楽科教育の目標と内容の比較(小・中学校)
2	日中の音楽科授業の実践比較(1)―「うみ」の授業実践
3	日中の音楽科授業の実践比較(2)―「赤とんぼ」の授業実践
4	日中の音楽科授業の実践比較(3)―器楽表現活動(葫芦丝とリコーダー)の授業実践
5	日中の音楽科授業の実践比較(4)-鑑賞活動(「おもちゃのシンフォニー」)の授業実践
6	日中の音楽科授業の実践比較(5)-音楽伝統文化の授業実践
7	日中の音楽科授業実践比較のまとめ
8	音楽経験と思考
9	音楽科評価の基本概念
10	音楽科における教材の働きといろいろな音楽
11	音楽科のカリキュラム
12	音楽科の授業研究
13	音楽教員の養成と教員の資質・能力
14	音楽科の広がりと学校文化
15	後期のまとめ

科目名	音楽教育特殊研究３　（前）［火4］、（後）［金5］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE288300	科目コード	IE2883	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：日中の学校教育における今日的課題
到達目標：今日の日本と中国の就学前教育と学校教育における問題について、ナショナルカリキュラムおよび先行研究や実践報告より両国の相違点・共通点を分析し、考察することができる。

２．授業概要

今日、中日両国の音楽教育に共通して存在する問題について、①西洋音楽と伝統音楽・大衆音楽、②ICT活用の教育、③音楽を通した幼児の能力育成、という3視点から考察する。課程標準および学習指導要領に記載されるこれらに関わる事項を精査し、また関連する先行研究、実践報告を収集、読解し、かつ日中の比較を試みる。また個別のテーマに即して、学内外の講師による集中講義、および日本の学校の授業見学を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と実習を交えて行い、受講生の発表も随時行うため、シラバスに準じて、担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

期末レポート（35%）　課題への対応（35%）　授業への参加姿勢（30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第１回授業、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】上記3観点について課程標準・学習指導要領、先行研究から現状を把握し、問題点を理解する。
1	ガイダンス　日中の音楽教育における今日的課題
2	1　指導内容における西洋音楽および大衆音楽・伝統音楽 1-1 課程標準・学習指導要領における西洋芸術音楽・伝統的民族音楽・大衆音楽
3	1-2 日中の音楽教育における伝統音楽
4	1-3 日中の音楽教育における大衆音楽
5	1-4 児童生徒における西洋芸術音楽・伝統的民族音楽・大衆音楽の理解
6	2 音楽教育におけるICT活用 2-1 日本の学校教育におけるICT活用
7	2-2 中国の学校教育におけるICT活用
8	2-3 オンラインの活用
9	2-4 音楽科教育へのICT教育導入の利点
10	3 音楽を通した幼児の能力育成 3-1 幼稚園教育要領（日本）および幼児園教育指導綱要（中国）における表現関係指導事項
11	3-2 中国の民間の幼児音楽教育
12	3-3 日本の民間の幼児音楽教育
13	3-4 幼児の能力開発に求められるもの
14	4-1 個別テーマの視点からの総括（前半学生）
15	4-2 個別テーマの視点からの総括（後半学生）

授業計画	
	【後期】前掲3観点にかかわる実践報告の読解・分析およびそれぞれの実践の体験を通して、解決すべき問題点を抽出し、望ましい方向への方策を試論する。
1	ガイダンス　前期の学習内容における問題点の明確化
2	1　指導内容における西洋芸術音楽および大衆音楽・伝統音楽 1-1 日本の音楽科教育における伝統音楽の実践
3	1-2 中国の音楽科教育における伝統音楽の実践
4	1-3 日本の音楽科教育におけるポピュラー音楽の実践
5	1-4 ポピュラー音楽と西洋芸術音楽をつなぐもの
6	2-1 日本の学校教育におけるICT活用の実践
7	2-2 中国の学校教育におけるICT活用の実践
8	2-3 日中における一般教育を含めたオンライン教育の実践
9	2-4 ICT活用における問題点
10	3-1 音楽を通した幼児のコミュニケーション能力の育成
11	3-2 音楽を通した幼児の創造的表現能力の育成
12	3-3 幼小連続・連繋による能力育成
13	4 修士論文作成に向けて 4-1 研究課題・研究方法について
14	4-2 研究計画について
15	総括

科目名	音楽教育特殊研究４　（前）［火4］、（後）［金5］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE288400	科目コード	IE2884	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：カリキュラム・デザインにおける理念と内容
到達目標：学校教育や民間教育における様々な音楽学習のカリキュラムについて、カリキュラム・デザインにおける理念とその内容を、具体例をもって分析・理解し、その問題点を抽出する。

２．授業概要

カリキュラムは学習指導要領など制度的な教育課程が代表的であるが、広くは指導する側が学習者に与える学習経験の総体ということができ、様々な教育の場にカリキュラムは存在する。本授業では学校教育における音楽科・特別活動、大学院における専門教育、民間における教育というそれぞれ異なる教育を取り上げ、受講生の個々の研究テーマと関連させて、それぞれのカリキュラム・デザインの理念と特徴および内容（教材等）を分析・理解し、その課題について現代社会における問題点を視野に入れつつ考察する。また個別のテーマに応じて日本と中国の例を取り上げ、比較検討を行う。なおテーマに応じて学内外の講師による集中講義を行う。
３．授業時間外の学習（予習復習について）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と実習を交えて行い、受講生の発表も随時行うため、シラバスに準じて、担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

期末レポート（35%）　課題への対応（35%）　授業への参加姿勢（30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第１回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】様々な音楽学習の場におけるカリキュラム
1	ガイダンス
2	1　カリキュラム、カリキュラム・デザインとは
3	2－1　音楽科ー日本の場合
4	2－2　音楽科ーICT活用の歴史
5	2－3　音楽科—ICT活用の問題
6	3－1　特別活動—日本における特別活動の意義
7	3－2　特別活動—その理念：吹奏楽クラブの場合
8	3－3　特別活動—その内容：吹奏楽クラブの場合
9	4－1　民間教育—日中における年少者に対するピアノ指導
10	4－2　民間教育—ピアノ指導へのリトミック導入の理念
11	4－3　民間教育—リトミック活用のピアノ指導の実際
12	5－1　専門教育—日中における伝統音楽の取扱い
13	5－2　専門教育—日中の大学教育における伝統音楽
14	5－3　専門教育—日中の大学教育における箏の演奏指導
15	前期総括

授業計画	
	【後期】様々な場におけるカリキュラムの問題点
1	2－1　音楽科におけるICT活用―カリキュラム改善の課題
2	2－2　音楽科におけるICT活用―eポートフォリオの活用
3	2－3　音楽科におけるICT活用―カリキュラム・デザインにおける理念の構築
4	3－1　吹奏楽クラブのカリキュラム―その特徴と問題点
5	3－2　吹奏楽クラブのカリキュラム―カリキュラムの改善
6	3－3　吹奏楽クラブのカリキュラム―中国における吹奏楽指導者養成への示唆
7	4－1　年少者に対するピアノ指導―カリキュラムにおけるリトミックの位置付け
8	4－2　年少者に対するピアノ指導―リトミック活用の有効性
9	4－3　年少者に対するピアノ指導―中国におけるピアノ指導のリトミック導入
10	5－1　専門教育における箏の指導―カリキュラムにおける職業教育としての側面
11	5－2　専門教育における箏の指導―日本の箏学習のカリキュラム・デザインにおける問題点
12	5－3　専門教育における箏の指導―中国の古箏学習のカリキュラム・デザインにおける問題点
13	6－1　学校教育におけるカリキュラム・デザインの課題
14	6－2　演奏教育におけるカリキュラム・デザインの課題
15	後期総括

科目名	合奏指導法研究１　（前）　[水2]						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2885C0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

合奏指導に関わる研修を通じて、音楽能力、指導力を身につけ且つ実践的な指導法のノウハウを研究する。

２．授業概要

学部開設合奏授業（オーケストラ・吹奏楽・アンサンブルなど）に参加（見学を含む）して授業内容をレポート提出する。（半期に１回担当教員へ）
外部プロ演奏団体はプログラムのコピー、中学高校吹奏楽、オーケストラ指導の場合は指導参加日時等と指導の教員の印鑑を必要とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と指導練習を必ず行う

４．成績評価の方法及び基準

レポートを中心に指導内容による

５．授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）やCD等の音源。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的な実践参加を望む。特に学部開設授業オーケストラ・吹奏楽・アンサンブル系（フルートオーケストラ・サックスオーケストラ・金管バンド・ファンファーレバンド）・洗足学園ニューフィルハーモニー・学外プロオーケストラ等。（中学・高校・大学等一般吹奏楽バンド指導やエキストラ出演も含む）

授業計画	
	注：各自で研究内容をレポート提出するが演奏会プログラム等を添付すること. 座学は前期半期予定
1	合奏指導法ガイダンス（前期）
2	フルートオーケストラ(同族)岩花先生
3	ブリティッシュ・ブラス 福田先生
4	オーケストラ指導について　指揮法① 松元先生
5	吹奏楽指導について　指揮法②松元先生
6	吹奏楽研究 池上先生
7	管楽器編曲方法①概要 松下先生
8	オーケストラ研究 渡部先生
9	サックスオーケストラ（同族)岩本先生
10	管楽器編曲法②楽器学と使用法 松下先生
11	管楽器編曲法③編曲実践（実際の編曲楽譜例 ） 松下先生
12	管楽器編曲法④編曲実践と演奏 松下先生
13	管楽器編曲法⑤実際に編曲した楽曲の演奏研究　松下先生
14	管楽器編曲法⑥ 編曲作品講評と修正 松下先生
15	合奏指導法研究まとめ 渡部先生

授業計画	
	［後期］ 幅広い指導活動を体験しレポートにて報告する。後期は座学は無い
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	合奏指導法研究１						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	IE2885D0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

弦楽合奏を通して、合奏の基本である、アインザッツ、音程のとり方、ハーモニー、各楽器のバランス、音色のつくり方、ボーイング等、各自スコアを用意し、考えながら一緒に音楽をつくり上げ、一人一人の技術・音楽性の向上につなげる。日本の作曲家を始め、様々な国の作曲家の背景等をふまえ、弦楽合奏ならではの響き、喜びを伝えられるような演奏ができるように共に学びあいたい。

２．授業概要

前期・後期の各演奏会に向けて、スコアを読みながら自分のパートだけでなく、他のパートのことも理解し、色々な方向から作品にとり組む。分奏・合奏を行い完成度の高い仕上りにする。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスそれぞれの楽器の日本を代表する弦楽器奏者の先生方を指導教員に迎え、各曲の解釈、ボーイング、フィンガリング、練習の仕方など自分たちでも考え、それに対して先生方の指導が行われる。コンサートに向けての仕上方も学ぶ。コンサートを聴いていただくお客様をどのように集客するかも考え、実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

最初の授業までに譜読みをする。スコアを読み、CD等を聴いて曲について勉強しておく、授業前も練習をよくして授業後も必ず復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（評価の40%）
平常点（評価の40%）
演奏会に向けての姿勢（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい
演奏会で取り上げる曲について事前に調べ、CDなどで理解しておくことが望ましい。
応募者多数の場合はオーディションによって選抜する。

授業計画	
	［前期］古澤巌先生から学ぶ マリーノのコンチェルト ルーマニアン・ラプソディ他
1	ガイダンス（前期授業説明） 前期課題曲の作曲家について学ぶ
2	マリーノのコンチェルト　譜読み
3	マリーノのコンチェルト　パート分奏
4	マリーノのコンチェルト　全体合奏
5	ルーマニアン・ラプソディの譜読み
6	ルーマニアン・ラプソディ　パート分奏
7	ルーマニアン・ラプソディ　全体合奏
8	その他作品の譜読み
9	その他作品　パート分奏
10	その他作品　全体合奏
11	前期課題曲前半の通し練習
12	前期課題曲後半の通し練習
13	前期課題曲全体の通し練習
14	前期演奏会リハーサル最終確認
15	前期演奏会

授業計画	
	［後期］フェデリコ　アゴスティーニ先生・ヴィルフリート・シュトレーレ先生から学ぶ 芥川也寸志　弦楽のための三章 モーツァルト　ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 ドヴォルザーク　弦楽セレナーデ
1	ガイダンス（後期授業説明） 後期課題曲の作曲家について学ぶ
2	芥川也寸志　弦楽のための三章　譜読み
3	芥川也寸志　弦楽のための三章　パート分奏
4	芥川也寸志　弦楽のための三章　全体合奏
5	モーツァルト　ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲　譜読み
6	モーツァルト　ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲　パート分奏
7	モーツァルト　ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲　全体合奏
8	ドヴォルザーク　弦楽セレナーデ　譜読み（前半）
9	ドヴォルザーク　弦楽セレナーデ　譜読み（後半）
10	ドヴォルザーク　弦楽セレナーデ　パート分奏
11	ドヴォルザーク　弦楽セレナーデ　全体合奏
12	後期プログラム　前半通し練習
13	後期プログラム　後半通し練習
14	後期プログラム　全体通し練習
15	後期演奏会

科目名	合奏指導法研究１						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE2885F0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽に携わる中で、演奏会を作り上げることは、必然性があると考えられる。この授業では、定期演奏会に向けての選曲に始まり、演奏会のテーマ、それに合った選曲、アレンジ、演奏表現を研究して、レベルの高い演奏会を作り上げることを目標とする。演奏することだけでなく、お互いに聞き合いながら、それを指導することも学んでいく。

２．授業概要

演奏会のテーマ、構成を考え、選曲を行なう。ソロ、アンサンブル等、演奏スタイルの決定、アレンジ、演奏と進める。リハーサルを進めながら、曲をまとめるための方法などを考え、最終的には、演奏会本番でその成果を発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業1回目で考えたスケジュールに合わせ、選曲、楽譜の準備、アレンジ等、計画に合わせて、予習、復習を行なうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み態度・・50%　演奏会本番の演奏・・50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時紹介していく。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的な授業への参加と授業への準備を行なってほしい。

授業計画	
	［前期］ いろいろな演奏の形態の研究分析を行い、選曲をする。その後で、アレンジを始める。
1	ガイダンス
2	演奏会のコンセプトを分析する。（A 案）
3	演奏会のコンセプトを分析する。（B 案）
4	演奏会のコンセプトを分析する。（C 案）
5	定期演奏会のための選曲のポイントについて
6	選曲のための調査1回目（音源）
7	選曲のための調査2回目（楽譜）
8	選曲のアイディアのプレゼンテーション1回目（前半学生）
9	選曲のアイディアのプレゼンテーション2回目（後半学生）
10	プログラムの決定。
11	音源の選択。
12	音源の制作。
13	演奏者の決定。
14	アレンジ案のプレゼンテーション。
15	演奏会までのアレンジスケジュールの決定。

授業計画	
	［後期］ 前期で決めたプログラムに沿って、演奏を仕上げていく。
1	ソロアレンジの確認と手直し（1部のプログラム）
2	ソロアレンジの確認と手直し（2部のプログラム）
3	アンサンブルアレンジの確認と手直し（1部のプログラム）
4	アンサンブルアレンジの確認と手直し（2部のプログラム）
5	ソロ演奏曲の解釈と音色作りの確認（1部のプログラム）
6	ソロ演奏曲の解釈と音色作りの確認（2部のプログラム）
7	アンサンブル演奏曲の解釈と音色作り（1部のプログラム）
8	アンサンブル演奏曲の解釈と音色作り（2部のプログラム）
9	指揮者から合奏指導法を学ぶ。
10	アンサンブルの演奏並びに指導法（解釈と表現方法）
11	アンサンブルの演奏並びに指導法（バランスの考え方と判断基準）
12	演奏会の進行に必要な情報を集める。
13	演奏会全体の流れから、演奏以外の部分についての時間配分や内容について、まとめる。
14	定期演奏会のゲネプロを行なう。 進行の仕方の確認。
15	演奏会本番を終えて、演奏、アレンジ、企画全体から、分析を試みる。

科目名	合奏指導法研究１						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2885G0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本学では多くのコンサートがあり、GHコースの講師や学生のみならず、他コースの学生や外部の奏者との共演の機会もある。自らが優れた演奏をするだけでなく、コンサート本番にむけての全体準備やスケジュール計画の作成、パート練習や合奏練習における後輩への助言、指導等、院生としてリーダーの役割も果たさなければならない。演奏家として将来、指導的立場になることを目指し、実践の場でリーダーとしての研鑽を積む。

２．授業概要

学内外の演奏会およびそのための準備や練習を演習の機会とする。また、担当責任者としてコンサートの企画立案も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レジュメ、チラシ、プログラム作成やスケジュール管理などを行う。

４．成績評価の方法及び基準

演奏会の企画や計画立案の内容、実施実績を総合的に判断し評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

過去のコンサートの資料（チラシ、プログラム、レジュメなど）
楽譜等の管理については、著作物としての認識を強く持ち、充分に配慮すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
1	コンサート運営研究１ / ガイダンス
2	コンサート運営研究２ / GH関連イベントの事例研究
3	コンサート運営研究３ / 本学各種イベントの事例研究
4	コンサート運営研究４ / 学部イベント等の事例研究
5	コンサート運営研究５ / 仮想自主リサイタル構想立案
6	コンサート運営研究６ / 仮想自主リサイタル予算作成
7	コンサート運営研究７ / 仮想自主リサイタル企画案完成
8	外部コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
9	外部コンサート準備 / 直前広報展開
10	外部コンサート準備 / タイムテーブル策定等
11	外部コンサート準備 / 最終チェック
12	「和のいろは」コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	「和のいろは」コンサート準備 / 直前広報展開
14	「和のいろは」コンサート準備 / タイムテーブル作成等
15	「和のいろは」コンサート準備 / 最終チェック

授業計画	
1	後期ガイダンス / 役割分担等決定
2	邦楽ミュージカル準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
3	邦楽ミュージカル準備 / 照明・音響との打合せ
4	邦楽ミュージカル準備 / 直前広報展開
5	邦楽ミュージカル準備 / タイムテーブル作成等
6	邦楽ミュージカル準備 / 最終チェック
7	冬の音楽祭準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
8	冬の音楽祭準備 / 音楽祭全体とのすり合わせ
9	冬の音楽祭準備 / 直前広報展開
10	冬の音楽祭準備 / タイムテーブル作成等
11	冬の音楽祭準備 / 最終チェック
12	定期演奏会準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	定期演奏会準備 / 直前広報展開
14	定期演奏会準備 / タイムテーブル作成等
15	定期演奏会準備 / 最終チェック

科目名	合奏指導法研究１　[水4]						
代表教員	小林　徹	授業コード	IE2885H0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員	原　善伸						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI(GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブルの指導的立場に立って演奏することができ、同時に指揮をして合奏指導ができるようになること。

２．授業概要

ギター合奏授業の中心となって演奏し、講師指導により指揮を実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われている楽曲の譜読み、分析

４．成績評価の方法及び基準

学部授業に対する貢献度と演奏会での評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布　（バロック時代のJS.バッハ、A.ヴィヴァルディ。ロマン派のF.カルリ、F.ソル。近代のF.トローバの編曲作品及びオリジナル作品を使用する。）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業は全回出席が前提となる。

授業計画	
	［前期］ ギターアンサンブルに必用な基礎練習と前期クラシックギターコース演奏会にむけた楽曲の練習。
1	ガイダンス ギター重奏、合奏について
2	ギター重奏、合奏のための基礎練習
3	ギターアンサンブルのレパートリー紹介
4	ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲紹介
5	ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲練習
6	ギターアンサンブルによるイギリスバロック時代の楽曲練習
7	古典派時代のギターアンサンブル曲の紹介
8	古典派時代のギターアンサンブル曲の練習
9	古典派時代のギターアンサンブル曲の練習指揮付き
10	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定
11	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習
12	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 演奏会形式による発表練習
13	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	後期に向けた夏休み中の課題・演奏曲の配布

授業計画	
	［後期］ 後期クラシックギターコース演奏会に向けた取り組みと、ギターアンサンブルの主要レパートリーの研究。
1	ガイダンス 後期のギターアンサンブルの課題と目標設定
2	ロマン派のギターアンサンブル曲の紹介
3	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 F. カルリの作品
4	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 F. ソルの作品
5	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 発表会形式による小発表会
6	近代のギターアンサンブル曲の紹介
7	近代のギターアンサンブル曲の練習
8	現代のギターアンサンブル曲の紹介
9	現代のギターアンサンブル曲の練習
10	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定
11	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 ロマン派
12	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 現代曲
13	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	合奏指導法研究１　［水6］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE2885J0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員	石井　喜久子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音楽教育の分野で重要な役割を果たす器楽の合奏について、アンサンブルのありかた、合奏指導法に関する研究、演習を重ねていくことを主題とします。

【到達目標】教育楽器を中心とした器楽合奏や、学校教育における吹奏楽活動について、知識や経験を深め、将来の教育現場での合奏指導、教材の開発につながる力を身に付けることを到達目標とします。

２．授業概要

前期は、器楽合奏についての基礎知識、基本的なアンサンブルの実践とその指導法についての演習を中心に授業を進めていきます。
後期は、「音楽教育コース定期演奏会」出演に向けての合奏練習、将来の教育現場に必要とされる合奏指導の研究を中心に授業を進めていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

この授業では主に、いくつかの楽曲を履修者全員で実際に合奏し、指導し合う演習をします。そのために授業外でのスコアの読譜と個人練習は不可欠であり、それらは総じて毎回90分ほど要することが想定されます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（合奏に取り組む熱意、練習への意欲、合奏指導の工夫の観点を中心として）を評価の100%とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

用途に応じ、授業内で随時、配布、紹介していきます。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［前期］ アンサンブルに関する概論と実習　【基礎編】
1	前期ガイダンス
2	概論1：合奏形態についての考察
3	概論2：楽譜から何を読み取り、指導するかについて
4	概論3：合奏レパートリーについて
5	全員参加アンサンブルに向けての編成とレパートリーの検討
6	全員参加アンサンブルに向けての編成とレパートリー、合奏練習計画の確定
7	合奏編曲法の基礎知識
8	合奏編曲法の基礎理論
9	簡単な合奏編曲の実践
10	合奏の指揮法
11	合奏試演1～精確な譜読みと音出し
12	合奏試演2～全体の響きのバランスをとることを主眼に
13	合奏試演3～適切な奏法と表現に留意して
14	合奏試演4～合奏の仕上げを目標に
15	「音楽教育コース定期演奏会」における合奏発表への立案

授業計画	
	［後期］ アンサンブルに関する概論と実習　【応用編】
1	後期ガイダンス
2	編曲と合奏の実践1～精確な譜読みと音出し
3	編曲と合奏の実践2～全体の響きのバランスをとることを主眼に
4	編曲と合奏の実践3～あらためて楽曲のスタイル、形式を見つめ直して
5	編曲と合奏の実践4～適切な奏法と表現に留意して
6	編曲と合奏の実践5～一段階上の合奏を目指し音色に注目
7	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル1～演奏の基本の見直し
8	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル2～楽曲の特色を活かした演奏表現を目指す
9	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル3～訴求力の高い合奏を目指す
10	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル4～本番を意識して合奏を仕上げる
11	「音楽教育コース定期演奏会」最終リハーサル
12	「音楽教育コース定期演奏会」の反省会
13	合奏指導案のプレゼンテーション
14	合奏指導法についてのディスカッション
15	総括

科目名	合奏指導法研究２　（前）［水2］						
代表教員	渡部　亨	授業コード	IE2886C0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

合奏指導に関わる研修を通じて、音楽能力、指導力を身につけ且つ実践的な指導法のノウハウを研究する。

２．授業概要

学部開設合奏授業（オーケストラ・吹奏楽・アンサンブルなど）に参加（見学を含む）して授業内容をレポート提出する。（半期に１回担当教員へ）
外部プロ演奏団体はプログラムのコピー、中学高校吹奏楽、オーケストラ指導の場合は指導参加日時等と指導の教員の印鑑を必要とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と指導練習を必ず行う

４．成績評価の方法及び基準

レポートを中心に指導内容による

５．授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）やCD等の音源。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的な実践参加を望む。特に学部開設授業オーケストラ・吹奏楽・アンサンブル系（フルートオーケストラ・サックスオーケストラ・金管バンド・ファンファーレバンド）・洗足学園ニューフィルハーモニー・学外プロオーケストラ等。（中学・高校・大学等一般吹奏楽バンド指導やエキストラ出演も含む）

授業計画	
	注：各自で研究内容をレポート提出するが演奏会プログラム等を添付すること. 座学は前期半期予定
1	合奏指導法ガイダンス（前期）
2	フルートオーケストラ(同族)岩花先生
3	ブリティッシュ・ブラス 福田先生
4	オーケストラ指導について　指揮法① 松元先生
5	吹奏楽指導について　指揮法②松元先生
6	吹奏楽研究 池上先生
7	管楽器編曲方法①概要 松下先生
8	オーケストラ研究 渡部先生
9	サックスオーケストラ（同族)岩本先生
10	管楽器編曲法②楽器学と使用法 松下先生
11	管楽器編曲法③編曲実践（実際の編曲楽譜例 ） 松下先生
12	管楽器編曲法④編曲実践と演奏 松下先生
13	管楽器編曲法⑤実際に編曲した楽曲の演奏研究　松下先生
14	管楽器編曲法⑥ 編曲作品講評と修正 松下先生
15	合奏指導法研究まとめ 渡部先生

授業計画	
	［後期］ 幅広い指導活動を体験しレポートにて報告する。後期は座学は無い
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	合奏指導法研究２						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	IE2886D0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

弦楽合奏を通して、合奏の基本である、アインザッツ、音程のとり方、ハーモニー、各楽器のバランス、音色のつくり方、ボーイング等、各自スコアを用意し、考えながら一緒に音楽をつくり上げ、一人一人の技術・音楽性の向上につなげる。日本の作曲家を始め、様々な国の作曲家の背景等をふまえ、弦楽合奏ならではの響き、喜びを伝えられるような演奏ができるように共に学びあいたい。

２．授業概要

前期・後期の各演奏会に向けて、スコアを読みながら自分のパートだけでなく、他のパートのことも理解し、色々な方向から作品にとり組む。分奏・合奏を行い完成度の高い仕上りにする。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスそれぞれの楽器の日本を代表する弦楽器奏者の先生方を指導教員に迎え、各曲の解釈、ボーイング、フィンガリング、練習の仕方など自分たちでも考え、それに対して先生方の指導が行われる。コンサートに向けての仕上方も学ぶ。コンサートを聴いていただくお客様をどのように集客するかも考え、実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

最初の授業までに譜読みをする。スコアを読み、CD等を聴いて曲について勉強しておく、授業前も練習をよくして授業後も必ず復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（評価の40%）
平常点（評価の40%）
演奏会に向けての姿勢（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい
演奏会で取り上げる曲について事前に調べ、CDなどで理解しておくことが望ましい。
応募者多数の場合はオーディションによって選抜する。

授業計画	
	［前期］古澤巌先生から学ぶ マリーノのコンチェルト ルーマニアン・ラプソディ他
1	ガイダンス（前期授業説明） 前期課題曲の作曲家について学ぶ
2	マリーノのコンチェルト　譜読み
3	マリーノのコンチェルト　パート分奏
4	マリーノのコンチェルト　全体合奏
5	ルーマニアン・ラプソディの譜読み
6	ルーマニアン・ラプソディ　パート分奏
7	ルーマニアン・ラプソディ　全体合奏
8	その他作品の譜読み
9	その他作品　パート分奏
10	その他作品　全体合奏
11	前期課題曲前半の通し練習
12	前期課題曲後半の通し練習
13	前期課題曲全体の通し練習
14	前期演奏会リハーサル最終確認
15	前期演奏会

授業計画	
	［後期］フェデリコ　アゴスティーニ先生・ヴィルフリート・シュトレーレ先生から学ぶ 芥川也寸志　弦楽のための三章 モーツァルト　ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲 ドヴォルザーク　弦楽セレナーデ
1	ガイダンス（後期授業説明） 後期課題曲の作曲家について学ぶ
2	芥川也寸志　弦楽のための三章　譜読み
3	芥川也寸志　弦楽のための三章　パート分奏
4	芥川也寸志　弦楽のための三章　全体合奏
5	モーツァルト　ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲　譜読み
6	モーツァルト　ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲　パート分奏
7	モーツァルト　ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲　全体合奏
8	ドヴォルザーク　弦楽セレナーデ　譜読み（前半）
9	ドヴォルザーク　弦楽セレナーデ　譜読み（後半）
10	ドヴォルザーク　弦楽セレナーデ　パート分奏
11	ドヴォルザーク　弦楽セレナーデ　全体合奏
12	後期プログラム　前半通し練習
13	後期プログラム　後半通し練習
14	後期プログラム　全体通し練習
15	後期演奏会

科目名	合奏指導法研究２						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	IE2886F0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽に携わる中で、演奏会を作り上げることは、必然性があると考えられる。この授業では、定期演奏会に向けての選曲に始まり、演奏会のテーマ、それに合った選曲、アレンジ、演奏表現を研究して、レベルの高い演奏会を作り上げることを目標とする。演奏することだけでなく、お互いに聞き合いながら、それを指導することも学んでいく。

２．授業概要

演奏会のテーマ、構成を考え、選曲を行なう。ソロ、アンサンブル等、演奏スタイルの決定、アレンジ、演奏と進める。リハーサルを進めながら、曲をまとめるための方法などを考え、最終的には、演奏会本番でその成果を発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業1回目で考えたスケジュールに合わせ、選曲、楽譜の準備、アレンジ等、計画に合わせて、予習、復習を行なうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み態度・・50%　演奏会本番の演奏・・50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時紹介していく。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的な授業への参加と授業への準備を行なってほしい。

授業計画	
	［前期］ いろいろな演奏の形態の研究分析を行い、選曲をする。その後で、アレンジを始める。
1	ガイダンス
2	演奏会のコンセプトを分析する。（A 案）
3	演奏会のコンセプトを分析する。（B 案）
4	演奏会のコンセプトを分析する。（C 案）
5	定期演奏会のための選曲のポイントについて
6	選曲のための調査1回目（音源）
7	選曲のための調査2回目（楽譜）
8	選曲のアイディアのプレゼンテーション1回目（前半学生）
9	選曲のアイディアのプレゼンテーション2回目（後半学生）
10	プログラムの決定。
11	音源の選択。
12	音源の制作。
13	演奏者の決定。
14	アレンジ案のプレゼンテーション。
15	演奏会までのアレンジスケジュールの決定。

授業計画	
	［後期］ 前期で決めたプログラムに沿って、演奏を仕上げていく。
1	ソロアレンジの確認と手直し（1部のプログラム）
2	ソロアレンジの確認と手直し（2部のプログラム）
3	アンサンブルアレンジの確認と手直し（1部のプログラム）
4	アンサンブルアレンジの確認と手直し（2部のプログラム）
5	ソロ演奏曲の解釈と音色作りの確認（1部のプログラム）
6	ソロ演奏曲の解釈と音色作りの確認（2部のプログラム）
7	アンサンブル演奏曲の解釈と音色作り（1部のプログラム）
8	アンサンブル演奏曲の解釈と音色作り（2部のプログラム）
9	指揮者から合奏指導法を学ぶ。
10	アンサンブルの演奏並びに指導法（解釈と表現方法）
11	アンサンブルの演奏並びに指導法（バランスの考え方と判断基準）
12	演奏会の進行に必要な情報を集める。
13	演奏会全体の流れから、演奏以外の部分についての時間配分や内容について、まとめる。
14	定期演奏会のゲネプロを行なう。 進行の仕方の確認。
15	演奏会本番を終えて、演奏、アレンジ、企画全体から、分析を試みる。

科目名	合奏指導法研究２						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	IE2886G0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本学では多くのコンサートがあり、GHコースの講師や学生のみならず、他コースの学生や外部の奏者との共演の機会もある。自らが優れた演奏をするだけでなく、コンサート本番にむけての全体準備やスケジュール計画の作成、パート練習や合奏練習における後輩への助言、指導等、院生としてリーダーの役割も果たさなければならない。演奏家として将来、指導的立場になることを目指し、実践の場でリーダーとしての研鑽を積む。

２．授業概要

学内外の演奏会およびそのための準備や練習を演習の機会とする。また、担当責任者としてコンサートの企画立案も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レジュメ、チラシ、プログラム作成やスケジュール管理などを行う。

４．成績評価の方法及び基準

演奏会の企画や計画立案の内容、実施実績を総合的に判断し評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

過去のコンサートの資料（チラシ、プログラム、レジュメなど）
楽譜等の管理については、著作物としての認識を強く持ち、充分に配慮すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
1	コンサート運営研究１ / ガイダンス
2	コンサート運営研究２ / GH関連イベントの事例研究
3	コンサート運営研究３ / 本学各種イベントの事例研究
4	コンサート運営研究４ / 学部イベント等の事例研究
5	コンサート運営研究５ / 仮想自主リサイタル構想立案
6	コンサート運営研究６ / 仮想自主リサイタル予算作成
7	コンサート運営研究７ / 仮想自主リサイタル企画案完成
8	外部コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
9	外部コンサート準備 / 直前広報展開
10	外部コンサート準備 / タイムテーブル作成等
11	外部コンサート準備 / 最終チェック
12	「和のいろは」コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	「和のいろは」コンサート準備 / 直前広報展開
14	「和のいろは」コンサート準備 / タイムテーブル作成等
15	「和のいろは」コンサート準備 / 最終チェック

授業計画	
1	後期ガイダンス / 役割分担策定等
2	邦楽ミュージカル準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
3	邦楽ミュージカル準備 / 照明・音響との打合せ
4	邦楽ミュージカル準備 / 直前広報展開
5	邦楽ミュージカル準備 / タイムテーブル作成等
6	邦楽ミュージカル準備 / 最終チェック
7	冬の音楽祭準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
8	冬の音楽祭準備 / 音楽祭全体とのすり合わせ
9	冬の音楽祭準備 / 直前広報展開
10	冬の音楽祭準備 / タイムテーブル作成等
11	冬の音楽祭準備 / 最終チェック
12	定期演奏会準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	定期演奏会準備 / 直前広報展開
14	定期演奏会準備 / タイムテーブル作成等
15	定期演奏会準備 / 最終チェック

科目名	合奏指導法研究２　[水4]						
代表教員	小林　徹	授業コード	IE2886H0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	原　善伸						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI(GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブルの指導的立場に立って演奏することができ、同時に指揮をして合奏指導ができるようになること。

２．授業概要

ギター合奏授業の中心となって演奏し、講師指導により指揮を実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われている楽曲の譜読み、分析

４．成績評価の方法及び基準

学部授業に対する貢献度と演奏会での評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布　（バロック時代のJS.バッハ、A.ヴィヴァルディ。ロマン派のF.カルリ、F.ソル。近代のF.トローバの編曲作品及びオリジナル作品を使用する。）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業は全回出席が前提となる。

授業計画	
	［前期］ ギターアンサンブルに必用な基礎練習と前期クラシックギターコース演奏会にむけた楽曲の練習。
1	ガイダンス ギター重奏、合奏について
2	ギター重奏、合奏のための基礎練習
3	ギターアンサンブルのレパートリー紹介
4	ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲紹介
5	ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲練習
6	ギターアンサンブルによるイギリスバロック時代の楽曲練習
7	古典派時代のギターアンサンブル曲の紹介
8	古典派時代のギターアンサンブル曲の練習
9	古典派時代のギターアンサンブル曲の練習指揮付き
10	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定
11	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習
12	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 演奏会形式による発表練習
13	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	後期に向けた夏休み中の課題・演奏曲の配布

授業計画	
	［後期］ 後期クラシックギターコース演奏会に向けた取り組みと、ギターアンサンブルの主要レパートリーの研究。
1	ガイダンス 後期のギターアンサンブルの課題と目標設定
2	ロマン派のギターアンサンブル曲の紹介
3	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 F. カルリの作品
4	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 F. ソルの作品
5	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 発表会形式による小発表会
6	近代のギターアンサンブル曲の紹介
7	近代のギターアンサンブル曲の練習
8	現代のギターアンサンブル曲の紹介
9	現代のギターアンサンブル曲の練習
10	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定
11	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 ロマン派
12	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 現代曲
13	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	合奏指導法研究２　［水6］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	IE2886J0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	石井　喜久子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音楽教育の分野で重要な役割を果たす器楽の合奏について、アンサンブルのありかた、合奏指導法に関する研究、演習を重ねていくことを主題とします。

【到達目標】教育楽器を中心とした器楽合奏や、学校教育における吹奏楽活動について、知識や経験を深め、将来の教育現場での合奏指導、教材の開発につながる力を身に付けることを到達目標とします。

２．授業概要

前期は、器楽合奏についての基礎知識、基本的なアンサンブルの実践とその指導法についての演習を中心に授業を進めていきます。
後期は、「音楽教育コース定期演奏会」出演に向けての合奏練習、将来の教育現場に必要とされる合奏指導の研究を中心に授業を進めていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

この授業では主に、いくつかの楽曲を履修者全員で実際に合奏し、指導し合う演習をします。そのために授業外でのスコアの読譜と個人練習は不可欠であり、それらは総じて毎回90分ほど要することが想定されます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（合奏に取り組む熱意、練習への意欲、合奏指導の工夫の観点を中心として）を評価の100%とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

用途に応じ、授業内で随時、配布、紹介していきます。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［前期］ アンサンブルに関する概論と実習　【基礎編】
1	前期ガイダンス
2	概論1：合奏形態についての考察
3	概論2：楽譜から何を読み取り、指導するかについて
4	概論3：合奏レパートリーについて
5	全員参加アンサンブルに向けての編成とレパートリーの検討
6	全員参加アンサンブルに向けての編成とレパートリー、合奏練習計画の確定
7	合奏編曲法の基礎知識
8	合奏編曲法の基礎理論
9	簡単な合奏編曲の実践
10	合奏の指揮法
11	合奏試演1～精確な譜読みと音出し
12	合奏試演2～全体の響きのバランスをとることを主眼に
13	合奏試演3～適切な奏法と表現に留意して
14	合奏試演4～合奏の仕上げを目標に
15	「音楽教育コース定期演奏会」における合奏発表への立案

授業計画	
	［後期］ アンサンブルに関する概論と実習　【応用編】
1	後期ガイダンス
2	編曲と合奏の実践1～精確な譜読みと音出し
3	編曲と合奏の実践2～全体の響きのバランスをとることを主眼に
4	編曲と合奏の実践3～あらためて楽曲のスタイル、形式を見つめ直して
5	編曲と合奏の実践4～適切な奏法と表現に留意して
6	編曲と合奏の実践5～一段階上の合奏を目指し音色に注目
7	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル1～演奏の基本の見直し
8	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル2～楽曲の特色を活かした演奏表現を目指す
9	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル3～訴求力の高い合奏を目指す
10	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル4～本番を意識して合奏を仕上げる
11	「音楽教育コース定期演奏会」最終リハーサル
12	「音楽教育コース定期演奏会」の反省会
13	合奏指導案のプレゼンテーション
14	合奏指導法についてのディスカッション
15	総括

科目名	作品研究法　[月4]Aクラス						
代表教員	那須田　務	授業コード	IE3070A0	科目コード	IE3070	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（MT・MU除く）	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本学の大学院生は2年次に副論文執筆が義務づけられています。当講座では音楽学の専門的な論文を含む文章の読解力や文章力を養うと同時に、具体的な論文の執筆に必要な知識や技術を身に着け、副論文の執筆に備えます。

２．授業概要

音楽学研究や論文執筆の基礎的な技術や方法を学びます。具体的には以下の通りです。音楽学の学問分野についての概説、レファレンス資料の紹介と欧文の文献（作品目録など）の読み方、文献の客観的で批判的な扱い方、学術論文の精読、論文執筆の方法論（構成、書式、引用や注釈、研究方法など）、大学院研究・修了演奏会の曲目解説の指導も行います。なお、後期の講義で取り上げる研究論文や講義の内容は変更することがあります。あらかじめご了承ください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

当講座では論文執筆の基礎的な能力を養うために様々な課題（予習、復習）を設けています。授業時間外での作業も必要になりますが、これを通して学んだ事柄は、実際の執筆に役立つことでしょう。具体的な課題はその都度提示します。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%と課題の提出物50%の平均点で評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の際に指示します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論（和声・対位法・楽曲分析）や音楽史などの基礎的な知識を持つ者。1年次に履修してください。

授業計画	
	［前期］ 論文執筆の基礎的な知識や技術を学びます。
1	はじめに。課題の提示：小論文
2	音楽学について～音楽学とは何か、音楽学の歴史
3	音楽学について～音楽学の歴史的分野
4	音楽学について～非歴史的分野、音楽社会学、音楽心理学、民族音楽学、楽器学など
5	小論文の返却・添削など
6	レファレンス資料の紹介、文献資料の探し方
7	RISM・RILM講座
8	文献表の作成、課題の提示
9	欧文の作品目録（WV）の読み方～バッハ，ヘンデル
10	欧文の作品目録（WV）の読み方～シューマン、ブラームスなど
11	歴史的研究の方法論、課題の提示
12	学術論文を読む～例）沼野雄司1999「C．ドビュッシーの《海》研究序説～第1曲を中心に」東京音楽大学研究紀要
13	学術論文を読む～例）大崎滋生2008「ベートーヴェン伝説は今後どこまで維持できるか？～《シンフォニア・エロイカ》の成立伝説を例にして」桐朋学園大学研究紀要34
14	論文執筆のテーマの決め方、アプローチの方法、執筆のプロセス、計画の立て方など
15	前期のまとめ、夏休みの課題の提示

授業計画	
	［後期］ 各自研究テーマを決め、論文を執筆します。
1	夏休みの課題の提出と添削
2	曲目解説の書き方。大学院研究・修了演奏会のプログラムノート執筆の指導
3	大学院研究・修了演奏会のプログラムノート執筆の指導
4	2年生の副論文中間発表の聴講
5	情報の分類、整理の仕方、論文の構成法
6	引用・情報源の示し方、注釈の書き方
7	音楽学慣例の講義～詩と韻律、音楽の関係（ドイツ語詩）
8	音楽学関連の講義～詩と韻律、音楽の関係（フランス語詩）
9	音楽学関連の講義～詩と韻律、音楽の関係（その他の言語）
10	音楽学関連の講義～作曲家の自筆譜から分かること
11	音楽学関連の講義～修辞学と音楽
12	音楽学関連の講義～楽曲研究
13	後期課題～序論と結論
14	後期課題～譜例、図など
15	後期課題の個人指導、当講座のまとめ

科目名	作品研究法　[金2]Bクラス						
代表教員	那須田　務	授業コード	IE3070B0	科目コード	IE3070	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（MT・MU除く）	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本学の大学院生は2年次に副論文の提出が義務づけられています。当講座では音楽学の専門的な論文を含む文章の読解力や文章力を養うと同時に、論文の執筆に必要な知識や技術を身に着け、副論文の執筆に備えます。

２．授業概要

音楽学研究や論文執筆の基礎的な技術を学びます。具体的には以下の通りです。音楽学の学問分野についての概説、レファレンス資料の紹介と欧文の文献（作品目録など）の読み方、文献資料の客観的で批判的な扱い方、学術論文の精読、論文執筆の方法論（構成、書式、引用や注釈、研究方法など）、大学院研究・修了演奏会の曲目解説の指導も行います。また、後期には実際に論文を執筆してもらいます。なお、後期の講義で取り上げる研究論文や講義の内容は変更することがあります。あらかじめご了承ください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

当講座では論文執筆の基礎的な能力を養うために様々な課題（予習復習）を設けています。授業時間外での作業も必要になりますが、こうして学んだ事柄は、実際の執筆に役立つことでしょう。具体的な課題はその都度提示します。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%と課題の提出物50%の平均点で評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の際に指示します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論（和声・対位法・楽曲分析）や音楽史などの基礎的な知識を持つ者。1年次に履修してください。

授業計画	
	［前期］論文執筆の基礎得ｔ機な知識や技術を学びます。
1	はじめに。課題の提示（小論文）
2	音楽学について～音楽学とは何か、音楽学の歴史
3	音楽学について～音楽学の歴史的分野
4	音楽学について～非歴史的分野、音楽社会学、音楽心理学、民族音楽学、楽器学など
5	課題の添削(小論文)
6	レファレンス資料の紹介、文献資料の探し方
7	RISM・RILM講座
8	文献表の作成、課題の提示
9	欧文の作品目録（ＷＶ）の読み方～バッハ、ヘンデル
10	欧文の作品目録の読み方～シューマン、ブラームスなど
11	歴史的研究の方法論、課題の提示
12	学術論文を読む～例）沼野雄司1999「Ｃ．ドビュッシーの《海》研究序説～第1曲を中心に」東京音楽大学研究紀要
13	学術論文を読む～大崎滋生2008「ベートーヴェン伝説は今後どこまで維持できるか？～《シンフォニア・エロイカ》の成立伝説を例にして」桐朋学園大学研究紀要34
14	論文のテーマの決め方、アプローチの方法、執筆のプロセス、計画の立て方など
15	前期のまとめ、夏休みの課題の提示

授業計画	
	［後期］ 各自の演習と発表を中心に授業を進めます。
1	夏休みの課題の提出と添削
2	曲目解説の執筆方法の説明、大学院研究・修了演奏会のプログラムノート執筆の指導
3	大学院研究・修了演奏会のプログラムノートの執筆の指導
4	2年生の副論文中間発表を聴講
5	情報の分類、整理の仕方、論文の構成法
6	引用・情報源の示し方、注釈の書き方
7	音楽学関連の講義：言葉と音楽の関係～韻律論（ドイツ語詩）
8	音楽学関連の講義～詩と韻律、音楽の関係（フランス語詩）
9	音楽学関連の講義～詩と韻律、音楽の関係（その他の言語）
10	音楽学関連の講義～作曲家の自筆譜から分かること
11	音楽学関連の講義～修辞学と音楽
12	音楽学関連の講義～楽曲研究
13	後期課題の個人指導～序論と結論
14	後期課題の個人指導～譜例、図など
15	課題提出と当講座のまとめ

科目名	楽曲分析法　[火1]Aクラス						
代表教員	伊藤　康英	授業コード	IE3080A0	科目コード	IE3080	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（CO除く）	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽作品を分析することで、より充実した演奏表現が可能となる。また作曲への興味も抱くことができるので、音楽作品との関わりかたも変わってくるだろう。
ここでは、「分析から表現を」という観点で、より演奏に役立つ楽曲分析を行う。

２．授業概要

楽曲分析の方法を提示する。
形式や和声などさまざまな角度で分析をする方法を提示する。
実際の楽曲を分析する。
実際の楽曲を演奏し、分析を行う。
簡単な楽曲も創作してみる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

翌週の授業までの１週間に、学生諸君はさまざまな音楽に接するだろう。そういった音楽に積極的に興味をもち、分析してみることをお薦めする。

４．成績評価の方法及び基準

授業内にて、楽曲分析のレポートを提出。それによって評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業計画に記した黒丸の楽譜については各自準備のこと。
授業ではそのほかの多くの楽曲を扱うが、場合によってはポータルの授業資料として配布することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］楽曲分析の基本をさまざまな角度からのアプローチにより知る。 第１回～第５回　分析の基本 第６回～第１０回　変奏の技法から対位法作品の分析へ 第11回～第15回 ソナタ形式
1	分析とは何か ● R.Schumann / Träumereiなど
2	形式とは何か（１） 一部形式などの簡単な形式の楽曲を探し、調べ、そして実際に創作してみる。 ● R. Schumann / Album für die Jugendなど
3	形式とは何か（２） より大きな構造の楽曲を分析するとともに、和声や変奏に対しても興味を持つ。ロンド形式や、ソナタ（ソナチネ）形式も概説。 ● 「ソナチネ・アルバム」。具体的には改めて指示。
4	和声の楽しみ（１） 属和音と主和音の重要性を認識する。 教会旋法についても触れる。 また、実際に楽曲を創作してみる。
5	和声の楽しみ（２） さまざまな種類の和音や転調について知る。 古典的な作品の調の流れを知る。
6	変奏の技法（１） 変奏曲とは？ 変奏の技法を知る。 変奏曲を書いてみる。 ● W.A.Mozart / Zwölf Variationen über das französische Lied "Ah, von dirai-je Mamon" ○ J-B.Arban / The Carnival of Venice, variations
7	変奏の技法（２） Chaconne、Passacagliaといった、変奏を主軸とした楽曲を知り、書いてみる。Pachelbelのカノンも。 ● L.v.Beethoven / "Eroica" variations (op.35)
8	模倣の技法（１） カノンを知り、作ってみる。 ● J.S.Bach / Das Musikalishe Opfer ● J.S.Bach / Invention
9	模倣の技法（２） インヴェンションからフーガへ ● J.S.Bach / Invention そのほか、Bachのさまざまなフーガ
10	対位法の音楽 さまざまなフーガを知る。 Beethoven「大フーガ」、Mendelssohn、Messiaenなど。
11	其方はソナタをご存知か（１） ソナタ形式を、形式、転調法、主題の展開、和声のあらゆる側面から分析し、ソナタ形式の発展の歴史を知る。 HaydnやMozartのソナタ。
12	其方はソナタをご存知か（２） Beethovenのソナタを知る。 ● L.v.Beethoven / Klaviersonate Nr.15 (op.28) ● L.v.Beethoven / "Waldstein" Klaviersonate Nr.21 (op.53) ● L.v. Beethoven / Symphonie Nr.5 (op.67)
13	其方はソナタをご存知か（３） より発展したソナタを分析する。 ○ C.Franck / Violin Sonata ○ F.Liszt / Piano Sonata ○ R.Strauss / Ein Heldenleben
14	ソナタを演奏して分析する（１） 学生の専攻楽器のために書かれたソナタを実際に演奏し、演奏を通して分析、そして表現を学ぶ。
15	ソナタを演奏して分析する（２） 学生の専攻楽器のために書かれたソナタを実際に演奏し、演奏を通して分析、そして表現を学ぶ。（前回とは異なる学生、楽器）。

授業計画	
	［後期］声楽曲はじめ、さまざまな楽曲の分析を行う。 第１回～第７回 声楽作品 第11回～第14回 より新しい音楽の分析の基本
1	声楽曲には歌詞がある（１） イタリア語やドイツ語の歌曲やアリアを通して、言葉をメロディーにする工夫を探る。 〇 Aria Antiche Italiane 1 (ed. Parisotti)他
2	声楽曲には歌詞がある（２） 日本語の特性をを知り、日本語の歌曲を分析する。
3	オペラを知る（１） 〇 W.A.Mozart / Le Nozze di Figaroより第２幕の分析・その１ アリアと重唱
4	オペラを知る（２） 〇 W.A.Mozart / Le Nozze di Figaro第２幕の分析・その２ レチタティーヴォの技法
5	オペラを知る (3) 〇 W.A.Mozart / Le Nozze di Figaroより第２幕の分析・その3 ヴォーカル・アンサンブルの技法
6	オペラを知る（４） 〇 G.Puccini / La Bohème第３幕より
7	オペラを知る (5) 〇 G.Verdi / La Traviata 〇 G.Verdi / Falstaff
8	さまざまな作品を演奏して分析する（１） 学生のそれぞれの先行のために書かれたさまざまな作品を実際に演奏し、演奏を通して分析、そして表現を学ぶ。
9	さまざまな作品を演奏して分析する（２） 学生のそれぞれの先行のために書かれたさまざまな作品を実際に演奏し、演奏を通して分析、そして表現を学ぶ。（前回とは異なる学生）。
10	さまざまな作品を演奏して分析する（３） 学生のそれぞれの先行のために書かれたさまざまな作品を実際に演奏し、演奏を通して分析、そして表現を学ぶ。（前回とは異なる学生）。
11	より新しい和声を知る Fauré、Ravel、Bartókなどの作品を通じて。
12	より新しい音楽を知る。 形式や作曲技法について、19世紀の音楽からどのように展開してきたか。Bartók、Stravinskyの作品を中心に。
13	十二音技法の魅力 Schönbergはどのようにして十二音技法に到達したか。
14	現代曲 西洋音楽はどのようにして発展を遂げてきたか。
15	総括

科目名	楽曲分析法　[水3]Bクラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	IE3080B0	科目コード	IE3080	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（MT・CO除く）	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

説得力のある演奏を行うためには入念な演奏プランニングが必須である。そのためには作曲家の意図をしっかり把握する必要があり、楽曲分析が極めて有効な手段となる。この講座では様々な時代の様々な編成・形式による作品を取り上げ、適切な分析をできるノウハウを会得することを目標とする。

２．授業概要

スコアを読みながら音源を聴き、旋律・和声・形式・楽器法・管弦楽法などあらゆる角度からの分析を試みる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

入手可能なスコアについては事前に用意し、一度は曲全体を視聴しておくこと。可能であれば複数の演奏家による演奏を視聴しておくのが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、提出物等による平常点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

基本的に授業で扱う曲の楽譜は各自用意すること。入手困難なものについてはこちらで用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年次に履修することが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	器楽曲の分析に求められるもの ～チャイコフスキー「四季」より「炉端にて」を題材にして～
2	声楽作品の分析に求められるもの ～シューマン「女の愛と生涯」を題材にして～
3	旋律の分析について ハイドン　交響曲101番「時計」より モーツァルト　「クラリネット協奏曲」より ショパン　練習曲　op10-3　より
4	和声分析について ベートーヴェン　ピアノソナタ　op14-2 第２楽章より メンデルスゾーン　「Lieder ohne Worte」より
5	形式分析について 三部形式・ロンド形式で表現できること ブラームス「インテルメッツォ」op117より ブラームス「ヴァイオリンソナタ２番」より
6	形式分析について ソナタ形式とは ～19世紀以前のソナタ形式～ C.F.E.バッハ「チェンバロのためのソナタ」より モーツァルト「ピアノソナタ」k.331より
7	形式分析について ソナタ形式とは ～19世紀以降のソナタ形式～ ベートーヴェン「ヴァイオリンソナタ９番」より ブラームス「交響曲４番」より
8	形式分析について バール形式とは ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルバイデ「パレスチナリート」 ヴァーグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より
9	形式分析について 定旋律（カントゥス・フィルムス）とは（１） ペロタン「ヴィデルント・オムネス」 デュファイ「ヌーペル・ロザーヌム」
10	形式分析について 定旋律（カントゥス・フィルムス）とは（２） オケゲム「戦士のミサ」 ジョスカン「フェララ公エルコーレのミサ」
11	形式分析について イソリズムとは マショー「ノートルダーム・ミサ」より メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より
12	形式分析について フーガとは（１） フレスコバルディ「フィオーリ・ムジカーリ」より スヴェーリンク「半音階的幻想曲」
13	形式分析について フーガとは（２） フィッシャー「アリアドネ・ムジカ」より J.S.バッハ「平均律クラヴィア集」より
14	形式分析について フーガとは（３） ベートーヴェン「交響曲第３番」より ベートーヴェン「ピアノソナタ29番」より
15	形式分析について フーガとは（４） ブラームス「チェロソナタ１番」より バルトーク「弦楽器、打楽器、チェレスタのための音楽」より

授業計画	
	［後期］
1	楽曲分析総合演習（１） モーツァルト「ピアノソナタk576」
2	楽曲分析総合演習（２） ベートーヴェン「弦楽四重奏曲」op56-1
3	楽曲分析総合演習（３） パガニーニ「カプリス」より パガニーニ「ヴァイオリン協奏曲１番」より
4	楽曲分析総合演習（４） ヴェーバー「魔弾の射手」より
5	楽曲分析総合演習（５） ロッシーニ「ウイリアム・テル」より
6	楽曲分析総合演習（６） シューベルト「冬の旅」
7	楽曲分析総合演習（７） ベルリオーズ「ファウストの郷罰」より
8	楽曲分析総合演習（８） シューマン「ピアノ四重奏曲」
9	楽曲分析総合演習（９） ショパン「チェロソナタ」
10	楽曲分析総合演習（10） ブラームス「ピアノトリオ１番」
11	楽曲分析総合演習（11）]フォーレ「レクイエム」より デュルフレ「レクイエム」より
12	楽曲分析総合演習（12） ドビュッシー　交響詩「海」より
13	楽曲分析総合演習（13） シェーンベルク「浄夜」 シェーンベルク「ピエロ・リュネール」
14	楽曲分析総合演習（14） ヴェーベルン「３つの歌曲」op. 18より ベルク「ヴァイオリン協奏曲」より
15	楽曲分析総合演習（15） バルトーク「２台のピアノと打楽器のためのソナタ」

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(PF)						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	XIL1110A0	科目コード	IL1110d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

修了後の高度な専門性が求められるピアニストとしての演奏技術、深い学識及び卓越した音楽性を培うことを目標とする。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

習得すべき演奏技術、いかなる状況においても揺るがぬ自己の音楽性を身につけるため、日々錬磨研究すること。

4．成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおいての取り組み成果による。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

其々の状況に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	楽式から音楽表現法を考察し、演奏に効果的な演奏技術を研究する。
2	バロック時代の舞曲から、時代の変遷により発展した楽曲を実践研究。
3	ドイツ起源の宮廷舞曲として採り入れられたアルマンドの形式を、バッハの作品から研究する。
4	フランス起源のクーラントを、バッハのイギリス組曲から考察、基本の3拍子のリズムを研究。
5	スペイン起源のサラバンドの3拍子を、クーラントとの比較研究により実践する。
6	イギリス起源で17世紀にヨーロッパ大陸に広まったジーグの形式を、急速なテンポにおける音質、音色の演奏効果を考察、実践する。
7	フランス起源のガヴォットの2拍子の舞曲を、バッハの作品より研究し、適切な音質と音色の奏法を探る。
8	フランスの民族舞曲から発展したメヌエットを、バッハのフランス組曲から表現方法を研究実践。
9	リュリによって宮廷舞曲に採りこまれたブーレの急速なテンポの2拍子を、明るい音質で奏する技術の探求実践。
10	フランス起源の舞曲パスピエを、指先のタッチの効果的奏法を研究し実践する。
11	シチリア島起源のシチリアーノを取り上げ、遅いテンポの舞曲のフレーズから音の響き方を研究し実践する。
12	スコットランド起源のエコセーズを、ベートーヴェンの作品から研究実践する。
13	ポロネーズのしっかりとしたリズムを、ショパンの作品から研究し、ポロネーズのリズムに適切な音質を探求する。
14	ポーランド舞曲でショパンによって広められたマズルカを、ポロネーズの3拍子と比較し研究実践する。
15	スペイン起源のボレロを取り上げ、繰り返されるリズムから音質や音色の変化による表現法を実践から研究する。

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	イタリア起源のタランテラをリストの作品により激しい曲想の表現、音質を探求する。
2	様々な楽曲の奏法に必要な技術を習得するため、ショパンの練習曲から適切なタッチのあり方を研究実践する。
3	リストの練習曲からヴィルトゥオーソ的な奏法を研究実践する。
4	ドビュッシーの練習曲から、より繊細な音質と音色を研究し、タッチの多様性を探求する。
5	ラフマニノフの絵画的練習曲「音の絵」から、ロシアのピアニズムを研究し、適切な音質と音色を探求し演奏表現の拡大を図る。
6	スクリャービンの練習曲から、テヌート、スタッカート、スラーなど多様なタッチによる表現法の確立を図る。
7	バッハの作品を取り上げ、チェンバロとのタッチの相違、現代でのピアノによる表現法を探求する。
8	バッハの作品から、オルガンとピアノの響き方の比較をし、現代のピアノによる効果的な奏法の研究実践。
9	スカルラッティのソナタを取り上げ、この時代のタッチを研究実践する。
10	ソナタ形式による奏法を探求し、モーツァルトの作品から研究実践する。
11	ベートーヴェンのソナタから、ソナタ形式の発展に伴う奏法の発展を研究実践する。
12	シューベルトのソナタを取り上げ、ベートーヴェンの影響と相違を比較研究、音質と音色の相違について探求実践する。
13	シューマンのソナタを取り上げ、古典派との相違、それに伴う音質、音色の奏法について研究実践。
14	研究演奏会における楽曲の分析から効果的な奏法の研究。
15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(WI)						
代表教員	渡部　亨	授業コード	XIL1110C0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（１年次）、修士演奏会（２年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

２．授業概要

担当教員による個人レッスン。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに収得する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（１） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（３）練習曲の選定
4	専門器楽実習（４）練習曲の実践研究
5	専門器楽実習（５）無伴奏作品研究
6	専門器楽実習（６）バロック作品研究ヴィヴァルディ
7	専門器楽実習（７）バロック作品研究ヘンデル
8	専門器楽実習（８）バロック作品研究バッハ
9	専門器楽実習（９）古典作品研究ハイドン
10	専門器楽実習（１０）古典作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（１１）古典作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（１２）ロマン派作品研究シューマン
13	専門器楽実習（１３）ロマン派作品研究ブラームス
14	専門器楽実習（１４）ロマン派作品研究ライネッケ
15	専門器楽実習（１５）ロマン派作品研究ウェーバー

授業計画	
	［後期］
1	専門器楽実習（１）　※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（３）近代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（７）近代作品研究プーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究　平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作品研究　武満徹
15	専門器楽実習（１５）研究演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(SI)						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	XIL1110D0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、世界に通用する演奏家、教育者になるための高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン
そのためには、基本的な奏法の見直しをし、テクニックの向上を図る。音楽的教養を備えるためにも日々研究を進める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

常に、自分の演奏に対して客観的にとらえ、奏法研究、表現、分析につとめる。

4．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（１） 単音のスケールの確実な音程の取り方、ポジション移動の極意の研究。
2	３度、６度、８度、１０度など和音のスケールを通して美しい音程の取り方を研究する。
3	ヴィヴラートのかけ方の種類の研究と実践。
4	ボ-イングの演習。デタシェ、スピッカート、サルタ―ト等研究。
5	身体の使い方とバランスと音色について実践と研究。
6	ロングトーンを通して身体のバランスと右手の研究と実践。
7	バロック奏法研究。 テレマン12のファンタジー
8	バロック奏法研究。 バッハ無伴奏ソナタNo.1
9	バロック奏法研究。 バッハ無伴奏パルティータNo.3
10	バッハ奏法研究。 無伴奏ソナタNo.1
11	バッハ奏法研究。 パルティータNo. ３
12	バッハ無伴奏奏法研究。 ソナタNo.2
13	バッハ無伴奏研究。 右手テクニックの分析。
14	無伴奏バッハ奏法研究。 フィンガリングの分析。
15	無伴奏バッハ研究を通してバロック奏法を学ぶ。

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）・修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	モーツァルト協奏曲No.3の楽曲分析。
2	モーツァルト協奏曲No.3ボーイングとフィンガリングの研究。
3	モーツァルト協奏曲No.4 楽曲分析。
4	モーツァルト協奏曲No.4ボーイングとフィンガリング研究。
5	モーツァルト協奏曲No.5楽曲分析。
6	モーツァルト協奏曲No.5.ボーイングとフィンガリング研究。
7	モーツァルトソナタ分析と奏法研究。
8	モーツァルトソナタのピアノを学ぶ。
9	ベートーベンソナタNo.1楽曲分析。
10	ベートーベンソナタNo.1ボーイングとフィンガリング。
11	ベートーベンソナタNo.3楽曲分析。
12	ベートーベンソナタNo.3ボーイングとフィンガリング研究。
13	ベートーベンソナタNo.5楽曲分析。
14	ベートーベンソナタNo.５ボーイングとフィンガリング研究。
15	メンデルスゾーン協奏曲楽曲分析。

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(GT)						
代表教員	原　善伸	授業コード	XIL1110D1	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI(GT)	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

プロギタリストとしてステージに立ち、リサイタルを行うに足る実力をつけることを目標とする。

2．授業概要

レッスン担当教員の個人レッスンをメインとし、年間数回の客員教授や海外招聘教員の特別レッスンを行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日の基礎練習、現在研究中の楽曲演奏、各自レパートリーの維持

4．成績評価の方法及び基準

専門家としての技量やレパートリーの完成度を勘案し、研究演奏会における演奏内容を評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自の研究対象となる楽曲の信頼の置ける出版譜及び原典版
演奏家としての技量を養うための各教本やエチュード

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギターの演奏家をとして世に出て行こうとする者。
またクラシックギターの教育者として高度な知識と指導法を身につけることを目指すもの。

授業計画	
1	ガイダンス
2	技術練習の方法と教材
3	エチュードの歴史的考察
4	クラシックギターの現代奏法の研究
5	プジョールの技術教本の考察と実践
6	カルレバロの技術教本の考察と実践
7	パンピング・ナイロンの考察と実践
8	クラシックギターの必須レパートリー研究
9	J.S.バッハのギターへの編曲作品研究
10	フーガイ短調BWV1000の分析と演奏
11	プレリュード、フーガ、アレグロBWV998の分析と演奏
12	リュート組曲第１番BWV996の分析と演奏
13	リュート組曲第３番BWV995の分析と演奏
14	シャコンヌBWV1004～の分析と演奏
15	前期総括と発表演奏

授業計画	
1	後期ガイダンス
2	近現代のクラシックギター必修レパートリー考察
3	H. ヴィラ＝ロボスのギター作品の研究
4	「５つの前奏曲」の分析と演奏
5	「１２の練習曲」の分析と演奏
6	「ギターコンチェルト」の分析と演奏
7	J. トゥリーナのギター作品研究
8	「ソナタ」の作品分析と演奏
9	「セビリア幻想曲」の作品分析と演奏
10	武満徹のギター作品研究
11	「フォリオス」の作品分析と演奏
12	「すべては薄明の中に」の作品分析と演奏
13	「エキノキス」の作品分析と演奏
14	「12の地球の歌」の作品分析と演奏
15	研究演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(PI)						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	XIL1110E0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	専門器楽実習Ⅰは専門器楽実習Ⅱとリンクさせることを前提に履修することが望ましい。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

大学院として学部レベルと比較して、演奏技術のさらなる向上を目指す。同時に、演奏楽器と演奏作品に対するより深い知識と理解力を身につけ、それを自身が音楽を表現するツールとしていく。将来的に音楽が社会でどんな役割を担うことが出来るかということも常に意識、考察する。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、また
レッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、
取り組む作品のアナリーゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合は
それらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

講座、課題に対する取り組み姿勢とそれによる成果のレベルを考慮し評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として履修生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	［前期］ 概ね下記の流れで進むが、それに加えて複数の教員が担当教員となる個人レッスンのため、各履修者の技量に応じ、各担当教員それぞれの方法で演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	演奏楽器の発音方を研究する。身体の使い方、ストロークなどを変えることで、出る音がどう変化するかを検証。
2	演奏楽器によって出せる音のダイナミックスの検証。 大きい音、小さい音を出すのにどういう発音方と力の使い方が必要かを考える。
3	呼吸について。身体の動きに伴う呼吸方を検証。 身体の動き、呼吸方を的確に使うことによって出せる多彩な音と音色を検証、確認する。
4	リズム、ビートについて考える。
5	音、それに対する間について考える。
6	演奏楽器の奏法、テクニックについての検証。
7	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
8	楽曲についての学習。アナリーゼ。
9	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
10	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
11	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
12	次の楽曲に取り組む。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
13	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
14	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
15	前期レッスンの統括。後期レッスンに繋げる。

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、前期での学習をふまえ、より高度なレッスン内容としていくことを目指す。
1	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
2	楽曲についての学習。アナリーゼ。
3	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
4	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
5	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
6	次の楽曲に取り組む。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
7	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める
8	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
9	次の楽曲に取り組む。より難易度の高い作品を取り上げる。ここであらためて体の使い方、呼吸方などを検証。楽曲を読み、曲に対するイメージを広げる。
10	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
11	楽曲を演奏するのに必要な奏法とテクニックの検証。
12	楽曲を演奏し、表現するのに効果的な音色や音質を検証。
13	楽曲の演奏構成のたてかたの研究。
14	取り組む楽曲の現時点での演奏の完成を目指す。
15	後期レッスンの統括、また、年間を通した学習内容の再確認と反省。次のステップについてのディスカッション。

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(E0)						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XIL1110F0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性を習得することを目指す。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

積極的な予習、復習を望む。

4．成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習(1)　アレンジ曲を選曲
2	専門器楽実習(2)　アレンジ曲の選曲と分析
3	専門器楽実習(3)　曲の時代背景、スタイル研究　読譜の確認
4	専門器楽実習(4)　曲の時代背景、スタイル研究　表現の工夫
5	専門器楽実習(5)　曲のハーモニー分析　和音からフレーズの仕組みを考える。
6	専門器楽実習(6)　曲のハーモニー分析　曲全体の流れをつかむ。
7	専門器楽実習(7)　曲のアレンジ実習　スコアリーディングをおこなう。
8	専門器楽実習(8)　曲のアレンジ実習　スコアをリダクションする。楽譜の確認。
9	専門器楽実習(9)　曲のアレンジ実習　確認
10	専門器楽実習(10)　レジストレーション研究　曲に合った音色を選択
11	専門器楽実習(11)　レジストレーション研究　音色の組み合わせについて
12	専門器楽実習(12)　演奏解釈並びに表現テクニック研究 アーティキュレーションの確認
13	専門器楽実習(13)　演奏解釈並びに表現テクニック研究 表現の工夫
14	専門器楽実習(14)　1曲を通しての音楽のまとめ方
15	まとめの演奏

授業計画	
	前期授業計画に準ずる。年度末に実施される研究演奏会に向けて、指導を行う。
1	専門器楽実習(1)　コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究
2	専門器楽実習(2)　コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究　時代背景、形式から
3	専門器楽実習(3)　アレンジ研究並びにレジストレーション研究　ハーモニーの確認
4	専門器楽実習(4)　アレンジ研究並びにレジストレーション研究　フレーズと音色の関係を考える
5	専門器楽実習(5)　楽曲分析と演奏法研究
6	専門器楽実習(6)　楽曲分析と演奏法研究　表現の工夫
7	専門器楽実習(7)　アーティキュレーション並びにフレーズ研究
8	専門器楽実習(8)　アーティキュレーション並びにフレーズ研究　フレーズに合った表現の工夫
9	専門器楽実習(9)　演奏解釈と表現方法についての研究 曲全体から考える、それぞれのフレーズの表現
10	専門器楽実習(10)　演応解釈と表現テクニックについての研究　表現の掘り下げ
11	専門器楽実習(11)　音色と演奏テクニックの関連性についての研究　確認
12	専門器楽実習(12)　音色と演奏テクニックの関連性についての研究　表現並びにメカニックな指の動きの工夫
13	専門器楽実習(13)　それぞれ曲を通してのまとめ方研究
14	専門器楽実習(14)　曲を通して演奏する時の表現研究 仕上げの演奏
15	専門器楽実習(15)　演奏会のための通しリハーサルとまとめ

科目名	専門器楽実習Ⅰ　(WA)						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	XIL1110G0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏の音楽性を磨き上げていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏能力を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を５回で１クールとして、1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。　総合的判断の基本線は下記の通り。

・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「専門器楽実習Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品演奏研究実践、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 研究成果発表と講評
11	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品演奏研究実践、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評
6	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評
11	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(PF)						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	XIL1115A0	科目コード	IL1115d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

1年次において習得した演奏技術と音楽性の発展を目指し、修了後にピアニストとして活躍すべく自己の演奏表現の確立をする。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

修了後の演奏活動に向けての準備、リサイタルを開催する際のプログラムのレパートリーを錬磨研究する。

4．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の状況に応じて担当教員より指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	1年を通して時代の変遷により発展を遂げた奏法の変化を研究実践するための計画の立案。
2	バロック時代の楽曲形式を研究し、チェンバロとの音質、音色の違いを比較、現代の奏法に活かすタッチの研究実践。
3	変奏曲の形式の発展を研究、それに伴う楽器、奏法の発展も実践研究する。
4	即興的な形式の研究。バッハのトッカータとフーガ　二短調を実践し研究する。
5	バロック時代のソナタと古典派のソナタの比較研究。時代の変遷による鍵盤楽器の表現法の拡大を、実践により研究する。
6	古典派とロマン派のソナタを比較し、楽器の変遷による奏法の比較、それに伴う表現法の拡大。
7	ロマン派と20世紀のソナタの比較研究。形式の発展から見る演奏表現のj可能性を実践から研究する。
8	作曲家の民族性から見える特色の研究。
9	バロック時代のイタリアにおける作曲家の特徴。併せてチェンバロガ持つ特色も研究する。
10	バロック音楽の協奏様式、通奏低音の研究実践。
11	バロック音楽の重要な作曲家の一人であるヘンデルのソナタの研究。バッハの作品との比較によりバロック時代の音楽性を探求する。
12	チェンバロ、オルガン、ピアノを実際に演奏し、タッチの違い響きの違いを実践研究し、表現法の創作意識を高める。
13	バロック音楽と古典派の音楽の旋律法、和声の比較研究。
14	絶対音楽と標題音楽の研究。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品から実践し探求する。
15	ロマン派の作曲様式、作曲技法の特徴を研究する。ダイナミックスの変化がもたらす演奏効果を考察実践する。

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ロマン派の作曲家ウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーン、シューマン、ブラームスを取り上げ、鍵盤楽曲以外の作品とピアノ曲の比較研究をし、表現の拡大を図る。
2	サン=サーンス、フォーレ、ドビュッシーの作品から、フランスの作曲家の特徴を考察し、ドイツ音楽との比較から音質、音色の相違を研究する。
3	ムソルグスキー、バラキレフ、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフの作品を通して、ロシアの民族的な色彩の表現法の実践研究。
4	アルベニス、グラナドスの作品をから、スペイン音楽と他国の音楽の比較研究。独特のリズム感やハーモニーから奏法の多様性を実践研究する。
5	キャラクターピースにおける表現の創意性の探求。
6	20世紀の音楽における発展の研究。旋律、和声、調性、リズム、形式から見える複雑化を考察し、その奏法、表現法を探る。
7	修了演奏会における楽曲の分析、奏法解釈から、自身の効果的な表現法を研究実践する。
8	修了演奏会における楽曲の副論文作成により、考察した結論を演奏に活かすための奏法研究の実践。
9	自身のレパートリーとなるコンチェルトの奏法研究。独奏とコンチェルトの奏法の比較から効果的な奏法を探求する。
10	オーケストラスコアから見るソリストとしての奏法研究。オーケストラとのアンサンブルからソリストとしての音質、音色、表現法について探求する。
11	声楽曲から見るピアノ独奏曲の実践。リストの編曲作品を取り上げ、歌曲を奏でる声を音によって表現する奏法研究。
12	ピアノ独奏によるベートーヴェン交響曲の奏法研究。 リストの編曲作品から、オーケストラの表現法の研究をとおして、多様な音質、音色の表現を習得する。
13	音楽的な演奏の原理の追求。フレージング、リズム、拍子、音質、音色、2年間の研究を通して培った演奏技術を確立する。
14	ペダリングの演奏効果についての実践研究。ペダリングによる表現の可能性をバロック音楽から現代音楽までを比較実践し、演奏表現の拡大を探求する。
15	2年間の研究成果を試演会の発表を通して、自己の音楽性、演奏技術を確立する。

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(WI)						
代表教員	渡部　亨	授業コード	XIL1115C0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（１年次）、修士演奏会（２年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

２．授業概要

担当教員による個人レッスン。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに収得する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（１）　※下記参照の事
2	専門器楽実習（２）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（３）練習曲の選定
4	専門器楽実習（４）練習曲の実践
5	専門器楽実習（５）コンクール用無伴奏曲実践
6	専門器楽実習（６）コンクール課題曲選定
7	専門器楽実習（７）バロックソナタ作品研究バッハ
8	専門器楽実習（８）バロック協奏曲作品研究ヴィヴァルディ
9	専門器楽実習（９）古典派ソナタ作品研究モーツァルト
10	専門器楽実習（１０）古典派協奏曲作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（１１）古典派ソナタ作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（１２）古典派協奏曲作品研究シュターミッツ
13	専門器楽実習（１３）古典派ソナタ作品研究ウェーバー
14	専門器楽実習（１４）ロマン派作品研究シューマン
15	専門器楽実習（１５）ロマン派ソナタ作品研究ブラームス

授業計画	
	［後期］
1	専門器楽実習（１）　※下記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（３）近現代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近現代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近現代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近現代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（７）近現代作品研究プーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究　平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作曲家作品研究　武満徹
15	専門器楽実習（１５）修了演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(SI)						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	XIL1115D0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること

4．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	速いスピードでスケールを正確に弾けるための奏法研究
2	パガニーニ奇想曲No.24奏法研究・楽曲分析
3	パガニーニ奇想曲No.24ボーイングとフィンがリング研究
4	パガニーニ奇想曲No.９、１１、１６奏法研究・楽曲分析
5	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタ楽曲分析
6	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタボーイングとフィンガリング
7	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo.2楽曲分析
8	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo.2ボーイングとフィンガリング
9	メンデルスゾーン協奏曲のボーイングとフィンガリング
10	メンデルスゾーン協奏曲表現研究とテクニックの分析
11	サン=サーンス協奏曲研究 楽曲分析
12	サン=サーンス協奏曲研究 ボーイングとフィンガリング
13	サン=サーンス協奏曲研究 表現とテクニックについて
14	フランク ソナタ研究 楽曲分析
15	フランク ソナタ研究 ボーイング、フィンガリング、テクニック分析

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）、修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ベートーベン ソナタNo.7研究楽曲分析
2	ベートーベン ソナタNo.7研究ボーイング フィンガリング
3	ベートーベン ソナタNo.9研究 楽曲分析
4	ベートーベン ソナタNo.9研究 ボーイング、フィンガリング
5	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 楽曲分析
6	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 ボーイング、フィンガリング
7	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章楽曲分析
8	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章 ボーイング、フィンガリング
9	ブラームス協奏曲 1楽章 楽曲分析
10	プラームス協奏曲1楽章 ボーイング、フィンガリング
11	プラームス協奏曲2.3楽章 楽曲分析
12	プラームス協奏曲2.3楽章 ボーイング、フィンガリング
13	プラームス ソナタ楽曲分析
14	プラームス ソナタ、ボーイング、フィンガリング
15	プラームス ソナタ 表現研究

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(GT)						
代表教員	原　善伸	授業コード	XIL1115D1	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI(GT)	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

プロギタリストとしてステージに立ち、リサイタルを行うに足る実力をつけることを目標とする。

2．授業概要

レッスン担当教員の個人レッスンをメインとし、年間数回の客員教授や海外招聘教員の特別レッスンを行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日の基礎練習、現在研究中の楽曲演奏、各自レパートリーの維持

4．成績評価の方法及び基準

専門家としての技量やレパートリーの完成度を勘案し、修了演奏会における演奏内容を評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自の研究対象となる楽曲の信頼の置ける出版譜及び原典版
演奏家としての技量を養うための各教本やエチュード

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギターの演奏家をとして世に出て行こうとする者。
またクラシックギターの教育者として高度な知識と指導法を身につけることを目指すもの。

授業計画	
1	ガイダンス
2	技術練習の方法と教材
3	エチュードの歴史的考察
4	クラシックギターの現代奏法の研究
5	プジョールの技術教本の考察と実践
6	カルレバロの技術教本の考察と実践
7	パンピング・ナイロンの考察と実践
8	クラシックギターの必須レパートリー研究
9	J.S.バッハのギターへの編曲作品研究
10	フーガイ短調BWV1000の分析と演奏
11	プレリュード、フーガ、アレグロBWV998の分析と演奏
12	リュート組曲第１番BWV996の分析と演奏
13	リュート組曲第３番BWV995の分析と演奏
14	シャコンヌBWV1004～の分析と演奏
15	前期総括と発表演奏

授業計画	
1	後期ガイダンス
2	近現代のクラシックギター必修レパートリー考察
3	H. ヴィラ＝ロボスのギター作品の研究
4	「５つの前奏曲」の分析と演奏
5	「１２の練習曲」の分析と演奏
6	「ギターコンチェルト」の分析と演奏
7	J. トゥリーナのギター作品研究
8	「ソナタ」の作品分析と演奏
9	「セビリア幻想曲」の作品分析と演奏
10	武満徹のギター作品研究
11	「フォリオス」の作品分析と演奏
12	「すべては薄明の中に」の作品分析と演奏
13	「エキノキス」の作品分析と演奏
14	「12の地球の歌」の作品分析と演奏
15	修了演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(PI)						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	XIL1115E0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	専門器楽実習Ⅰは専門器楽実習Ⅱとリンクさせることを前提に履修することが望ましい。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

大学院として学部レベルと比較して、演奏技術のさらなる向上を目指す。同時に、演奏楽器と演奏作品に対するより深い知識と理解力を身につけ、それを自身が音楽を表現するツールとしていく。将来的に音楽が社会でどんな役割を担うことが出来るかということも常に意識、考察する。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、また
レッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、
取り組む作品のアナリーゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合は
それらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

講座、課題に対する取り組み姿勢と、それによる成果のレベルを考慮し評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として履修生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	［前期］ 概ね下記の流れで進むが、それに加えて複数の教員が担当教員となる個人レッスンのため、各履修者の技量に応じ、各担当教員それぞれの方法で演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	演奏楽器の発音方を研究する。身体の使い方、ストロークなどを変えることで、出る音がどう変化するかを検証。
2	演奏楽器によって出せる音のダイナミックスの検証。 大きい音、小さい音を出すのにどういう発音方と力の使い方が必要かを考える。
3	呼吸について。身体の動きに伴う呼吸方を検証。 身体の動き、呼吸方を的確に使うことによって出せる多彩な音と音色を検証、確認する。
4	リズム、ビートについて考える。
5	音、それに対する間について考える。
6	演奏楽器の奏法、テクニックについての検証。
7	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
8	楽曲についての学習。アナリーゼ。
9	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
10	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
11	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
12	次の楽曲に取り組む。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
13	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
14	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
15	前期レッスンの統括。後期レッスンに繋げる。

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、前期での学習をふまえ、より高度なレッスン内容としていくことを目指す。
1	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
2	楽曲についての学習。アナリーゼ。
3	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
4	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
5	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
6	次の楽曲に取り組む。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
7	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める
8	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
9	次の楽曲に取り組む。より難易度の高い作品を取り上げる。ここであらためて体の使い方、呼吸方などを検証。楽曲を読み、曲に対するイメージを広げる。
10	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
11	楽曲を演奏するのに必要な奏法とテクニックの検証。
12	楽曲を演奏し、表現するのに効果的な音色や音質を検証。
13	楽曲の演奏構成のたてかたの研究。
14	取り組む楽曲の現時点での演奏の完成を目指す。
15	後期レッスンの統括、また、年間を通した学習内容の再確認と反省。次のステップについてのディスカッション。

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(E0)						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XIL1115F0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性を習得することを目指す。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

積極的な予習、復習を望む。

4．成績評価の方法及び基準

修了演奏会での演奏

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習(1)　アレンジ曲を選曲
2	専門器楽実習(2)　アレンジ曲の選曲と分析
3	専門器楽実習(3)　曲の時代背景、スタイル研究　読譜の確認
4	専門器楽実習(4)　曲の時代背景、スタイル研究　表現の工夫
5	専門器楽実習(5)　曲のハーモニー分析　和音からフレーズの仕組みを考える。
6	専門器楽実習(6)　曲のハーモニー分析　曲全体の流れをつかむ。
7	専門器楽実習(7)　曲のアレンジ実習　スコアリーディングをおこなう。
8	専門器楽実習(8)　曲のアレンジ実習　スコアをリダクションする。楽譜の確認。
9	専門器楽実習(9)　曲のアレンジ実習　確認
10	専門器楽実習(10)　レジストレーション研究　曲に合った音色を選択
11	専門器楽実習(11)　レジストレーション研究　音色の組み合わせについて
12	専門器楽実習(12)　演奏解釈並びに表現テクニック研究 アーティキュレーションの確認
13	専門器楽実習(13)　演奏解釈並びに表現テクニック研究 表現の工夫
14	専門器楽実習(14)　1曲を通しての音楽のまとめ方
15	まとめの演奏

授業計画	
	前期授業計画に準ずる。年度末に実施される修了演奏会に向けて、指導を行う。
1	専門器楽実習(1)　コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究
2	専門器楽実習(2)　コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究　時代背景、形式から
3	専門器楽実習(3)　アレンジ研究並びにレジストレーション研究　ハーモニーの確認
4	専門器楽実習(4)　アレンジ研究並びにレジストレーション研究　フレーズと音色の関係を考える
5	専門器楽実習(5)　楽曲分析と演奏法研究
6	専門器楽実習(6)　楽曲分析と演奏法研究　表現の工夫
7	専門器楽実習(7)　アーティキュレーション並びにフレーズ研究
8	専門器楽実習(8)　アーティキュレーション並びにフレーズ研究　フレーズに合った表現の工夫
9	専門器楽実習(9)　演奏解釈と表現方法についての研究 曲全体から考える、それぞれのフレーズの表現
10	専門器楽実習(10)　演応解釈と表現テクニックについての研究　表現の掘り下げ
11	専門器楽実習(11)　音色と演奏テクニックの関連性についての研究　確認
12	専門器楽実習(12)　音色と演奏テクニックの関連性についての研究　表現並びにメカニックな指の動きの工夫
13	専門器楽実習(13)　それぞれ曲を通してのまとめ方研究
14	専門器楽実習(14)　曲を通して演奏する時の表現研究 仕上げの演奏
15	専門器楽実習(15)　演奏会のための通しリハーサルとまとめ

科目名	専門器楽実習Ⅱ　(WA)						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	XIL1115GO	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位取得を前提としている。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏の音楽性を更に高度に磨き上げていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏能力を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を５回で１クールとして、1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。

・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程２年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。１年目の「器楽演奏実習Ⅰ」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品演奏研究実践、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第１クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第１クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第１クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第１クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第１クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
6	第２クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第２クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第２クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第２クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第２クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
11	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品演奏研究実践、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
6	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し 「和のいろは」コンサート曲レッスン4
9	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
11	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評

科目名	演奏法研究Ⅰ　(PF)						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	XIL1170A0	科目コード	IL1170d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

修了後の高度な専門性が求められるピアニストとしての演奏技術、深い学識及び卓越した音楽性を培うことを目標とする。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

習得すべき演奏技術、いかなる状況においても揺るがぬ自己の音楽性を身につけるため、日々錬磨研究すること。

4．成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおいての取り組み成果による。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

其々の状況に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	楽式から音楽表現法を考察し、演奏に効果的な演奏技術を研究する。
2	バロック時代の舞曲から、時代の変遷により発展した楽曲を実践研究。
3	ドイツ起源の宮廷舞曲として採り入れられたアルマンドの形式を、バッハの作品から研究する。
4	フランス起源のクーラントを、バッハのイギリス組曲から考察、基本の3拍子のリズムを研究。
5	スペイン起源のサラバンドの3拍子を、クーラントとの比較研究により実践する。
6	イギリス起源で17世紀にヨーロッパ大陸に広まったジーグの形式を、急速なテンポにおける音質、音色の演奏効果を考察、実践する。
7	フランス起源のガヴォットの2拍子の舞曲を、バッハの作品より研究し、適切な音質と音色の奏法を探る。
8	フランスの民族舞曲から発展したメヌエットを、バッハのフランス組曲から表現方法を研究実践。
9	リュリによって宮廷舞曲に採りこまれたブーレの急速なテンポの2拍子を、明るい音質で奏する技術の探求実践。
10	フランス起源の舞曲パスピエを、指先のタッチの効果的奏法を研究し実践する。
11	シチリア島起源のシチリアーノを取り上げ、遅いテンポの舞曲のフレーズから音の響き方を研究し実践する。
12	スコットランド起源のエコセーズを、ベートーヴェンの作品から研究実践する。
13	ポロネーズのしっかりとしたリズムを、ショパンの作品から研究し、ポロネーズのリズムに適切な音質を探求する。
14	ポーランド舞曲でショパンによって広められたマズルカを、ポロネーズの3拍子と比較し研究実践する。
15	スペイン起源のボレロを取り上げ、繰り返されるリズムから音質や音色の変化による表現法を実践から研究する。

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	イタリア起源のタランテラをリストの作品により激しい曲想の表現、音質を探求する。
2	様々な楽曲の奏法に必要な技術を習得するため、ショパンの練習曲から適切なタッチのあり方を研究実践する。
3	リストの練習曲からヴィルトゥオーソ的な奏法を研究実践する。
4	ドビュッシーの練習曲から、より繊細な音質と音色を研究し、タッチの多様性を探求する。
5	ラフマニノフの絵画的練習曲「音の絵」から、ロシアのピアニズムを研究し、適切な音質と音色を探求し演奏表現の拡大を図る。
6	スクリャービンの練習曲から、テヌート、スタッカート、スラーなど多様なタッチによる表現法の確立を図る。
7	バッハの作品を取り上げ、チェンバロとのタッチの相違、現代でのピアノによる表現法を探求する。
8	バッハの作品から、オルガンとピアノの響き方の比較をし、現代のピアノによる効果的な奏法の研究実践。
9	スカルラッティのソナタを取り上げ、この時代のタッチを研究実践する。
10	ソナタ形式による奏法を探求し、モーツァルトの作品から研究実践する。
11	ベートーヴェンのソナタから、ソナタ形式の発展に伴う奏法の発展を研究実践する。
12	シューベルトのソナタを取り上げ、ベートーヴェンの影響と相違を比較研究、音質と音色の相違について探求実践する。
13	シューマンのソナタを取り上げ、古典派との相違、それに伴う音質、音色の奏法について研究実践。
14	研究演奏会における楽曲の分析から効果的な奏法の研究。
15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	演奏法研究Ⅰ　(WI)						
代表教員	渡部　亨	授業コード	XIL1170C0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（１年次）、修士演奏会（２年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

２．授業概要

担当教員による個人レッスン。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに収得する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（１） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（３）練習曲の選定
4	専門器楽実習（４）練習曲の実践研究
5	専門器楽実習（５）無伴奏作品研究
6	専門器楽実習（６）バロック作品研究ヴィヴァルディ
7	専門器楽実習（７）バロック作品研究ヘンデル
8	専門器楽実習（８）バロック作品研究バッハ
9	専門器楽実習（９）古典作品研究ハイドン
10	専門器楽実習（１０）古典作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（１１）古典作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（１２）ロマン派作品研究シューマン
13	専門器楽実習（１３）ロマン派作品研究ブラームス
14	専門器楽実習（１４）ロマン派作品研究ライネッケ
15	専門器楽実習（１５）ロマン派作品研究ウェーバー

授業計画	
	［後期］
1	専門器楽実習（１）　※上記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（３）近代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（７）近代作品研究プーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究　平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作品研究　武満徹
15	専門器楽実習（１５）研究演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅰ　(SI)						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	XIL1170D0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、世界に通用する演奏家、教育者になるための高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン
そのためには、基本的な奏法の見直しをし、テクニックの向上を図る。音楽的教養を備えるためにも日々研究を進める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

常に、自分の演奏に対して客観的にとらえ、奏法研究、表現、分析につとめる。

4．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（１） 単音のスケールの確実な音程の取り方、ポジション移動の極意の研究。
2	３度、６度、８度、１０度など和音のスケールを通して美しい音程の取り方を研究する。
3	ヴィヴラートのかけ方の種類の研究と実践。
4	ボ-イングの演習。デタシェ、スピッカート、サルタ―ト等研究。
5	身体の使い方とバランスと音色について実践と研究
6	ロングトーンを通して身体のバランスと右手の研究と実践。
7	バロック奏法研究。 テレマン12のファンタジー
8	バロック奏法研究。 バッハ無伴奏ソナタNo.1
9	バロック奏法研究。 バッハ無伴奏パルティータNo.3
10	バッハ奏法研究。 無伴奏ソナタNo.1
11	バッハ奏法研究。 パルティータNo. ３
12	バッハ無伴奏奏法研究。 ソナタNo.2
13	バッハ無伴奏研究。 右手テクニックの分析。
14	無伴奏バッハ奏法研究。 フィンガリングの分析。
15	無伴奏バッハ研究を通してバロック奏法を学ぶ。

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）・修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	モーツァルト協奏曲No.3の楽曲分析。
2	モーツァルト協奏曲No.3ボーイングとフィンガリングの研究。
3	モーツァルト協奏曲No.4 楽曲分析。
4	モーツァルト協奏曲No.4ボーイングとフィンガリング研究。
5	モーツァルト協奏曲No.5楽曲分析。
6	モーツァルト協奏曲No.5.ボーイングとフィンガリング研究。
7	モーツァルトソナタ分析と奏法研究。
8	モーツァルトソナタのピアノを学ぶ。
9	ベートーベンソナタNo.1楽曲分析。
10	ベートーベンソナタNo.1ボーイングとフィンガリング。
11	ベートーベンソナタNo.3楽曲分析。
12	ベートーベンソナタNo.3ボーイングとフィンガリング研究。
13	ベートーベンソナタNo.5楽曲分析。
14	ベートーベンソナタNo.5ボーイングとフィンガリング研究。
15	メンデルスゾーン協奏曲楽曲分析。

科目名	演奏法研究Ⅰ　(GT)						
代表教員	原　善伸	授業コード	XIL1170D1	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI(GT)	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

クラシックギターの主要なレパートリーの演奏法を研究する。
基本技術として重要なスケール、アルペジョ、トレモロなどのテクニックを、より高度な水準に到達させることを目標とする。

2．授業概要

レッスン担当教員（原善伸）の個人レッスンと、客員教授（鈴木大介、大萩康司）や海外招聘教員の特別レッスンを行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

研究中の楽曲やテーマを学内図書館などを利用し、様々な角度から研究する。

4．成績評価の方法及び基準

研究演奏会において、どのように研究の成果が現れたかを検証、採点する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

25の練習曲集Op.60（M.カルカッシ）セゴヴィア編20の練習曲（F.ソル）
12の練習曲（H.ヴィラ=ロボス）12の地球の歌（武満徹）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギターの奏法がどのように発展、進歩してきたかを、レパートリーの中に見出し、実践しようとする意欲を持った者。

授業計画	
1	ガイダンス：年間の授業計画について
2	クラシックギター演奏法の歴史概観
3	中世の撥弦楽器の使用例と奏法
4	スペイン16世紀、ヴィウエラの奏法
5	イギリス・エリザベス朝リュートの奏法
6	イタリア16世紀のリュートとギター音楽の奏法研究
7	ルネッサンス期ドイツのリュート音楽研究
8	フランドルやフランスにおけるルネッサンスリュートやギター奏法研究
9	バロックリュートの奏法とレパートリー研究
10	フランスバロックのリュート音楽研究
11	ドイツバロック、特にS.L.ヴァイスのリュート音楽研究
12	J.S.バッハのリュート音楽研究
13	J.S.バッハのクラシックギターへの編曲作品研究
14	A.セゴヴィアのバッハ編曲作品研究前期のまとめ
15	前期総括発表

授業計画	
1	後期ガイダンス：後期の授業計画と研究演奏会準備計画
2	ルネッサンスギターとバロックギターについての考察
3	ルネッサンスギターの作品と奏法研究（A.ムダーラ、L.ナルバエス、P.アテニアンなど）
4	ガスパル・サンスのバロックギター作品の奏法研究
5	ロベール・ド・ヴィゼーのバロックギター作品の奏法研究
6	その他のバロックギター作曲家の作品研究（ムルシア、ロンカリ、ロジーなど）
7	19世紀ギターの構造、奏法と作品、作曲家についての考察
8	F.カルッリの作品と奏法研究
9	F.ソルの作品と奏法研究
10	M.ジュリアーニの作品と奏法研究
11	ロマン派のギター作品と作曲家、奏法、そして楽器の変容
12	J.K.メルツとN.コストの作品と奏法研究
13	A.トーレスの登場と現代クラシックギター、構造と受容の歴史
14	A.セゴヴィアによる現代クラシックギターの奏法革命
15	研究演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅰ　(PI)						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	XIL1170E0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究Ⅰ、Ⅱはそれぞれをリンクさせて取り組むことが望ましい。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽器を演奏する上での基礎を固め、そこからより高度なテクニックを身につけていく中で、
多彩な音色、リズム、ビートについての考察、表現することなどについて深く研究する。
その学習の先に、院を修了して社会に出てから、どのような形で音楽と社会を結んでいくことが
出来るかという点も常に考えて各々の研究を進めていくことが望まれる。

年度末の研究演奏会での発表を大きな目標とし、そこに結びつくよう
考えて年間の授業を進めていく。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、また
レッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、
取り組む作品のアナリーゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合は
それらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏により評価する

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として受講生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	［前期］ 概ね下記のような流れで進むことになるが、複数担当教員による個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべくそれぞれの方法を交えて受講生と相談しながら個人指導にあたる。
1	前期授業についてのガイダンス。後期の研究演奏会で発表するプログラムを何にするかの相談を交えつつ、前期に取り組む作品をおおよそ決定する。受講生が取り組むべき基礎課題についても相談、確認する。
2	演奏楽器を演奏する上での姿勢について、発音するのに必要なストローク、体の使い方などを実践を交えて研究と確認をする。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながら アナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうかに重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	取り組む作品の、この時点での一つの完成を目指す。 演奏会で取り上げられるレベルの演奏が出来るようになっているか、あらためて細部を確認する。
8	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認。年度始めのレッスンから成長したところ、より改善が必要な箇所を認識し、この先のレッスンにつなげていく。
9	次の作品への取り組み。基礎を大切にしながら、より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。
10	取り組む作品が楽譜となっている場合、楽譜上に記載されていることを大切にしつつ、あえて違ったアプローチの可能性があるか、など、既成概念にとらわれずに作品と向き合う時間を持つ。実践を交えながら、受講生と担当教員間でのアイデアの交換、ディスカッションを中心にレッスンを進める。
11	あらためて取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行ったアプローチが有効であるかどうかを検証する。 作品と取り組み始めた当初よりも広い視野で作品を捉えていく。
12	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
13	前期にこれまで取り組んで来た作品とは違ったテイストの小品を学習する。作品に応じた演奏楽器の音色を探す。
14	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。小品ならではの表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。
15	前期レッスンの統括。その上で後期研究演奏会のプログラムについて再考し、後期のレッスンに繋げる。

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	後期授業についてのガイダンス。研究演奏会で発表するプログラムを何にするかを相談、決定し、それを前提として後期レッスンの進め方を相談する。
2	前期レッスンで学習したことを復習する。基礎の確認と表現についての再考など。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながら アナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうかに重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認し、作品演奏に反映させられているかを検証。
8	より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。既成概念にとらわれるだけにとどまらない自由な発想を持って作品と向かい合う方法を相談、考える。
9	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
10	次の作品への取り組み。担当教員の指導を形にするだけではなく、受講生が自分で考え、自分の演奏とそこから生まれる音、音楽を体感する、という方向性を強めていく。
11	取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行った自分で考えたアプローチが有効であるかどうかを検証する。 一層広い視野で作品を捉えていく方法を相談、研究する。
12	表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。１曲を演奏する上での構成の立て方を相談、研究する。
13	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。 研究演奏会での演奏を前提に、演奏会場の広さ、響きなども想定した演奏を目指す。
14	研究演奏会で演奏するにあたって、ステージ上での立ち居振る舞い、演奏曲間の気持ちの切り替え、集中力の保ち方と緩め方など、演奏するという以外の部分について考察する。
15	研究演奏会プログラムの作品の最終確認。 後期レッスンの統括。

科目名	演奏法研究Ⅰ　(E0)						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XIL1170F0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専門器楽実習と関連性を持たせつつ、修士論文のテーマを決定し、その研究を担当教員指導のもと、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

継続的な研究、練習を望む。

4．成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏により評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的にレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	個人レッスンの、各個人の技量に応じ、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すると同時に、アレンジやオリジナル作品等の指導も行う。
1	演奏法研究(1)　レパートリー選曲
2	演奏法研究(2)　バロック演奏法研究　様式を中心に
3	演奏法研究(3)　バロック演奏法研究　形式、和声を学ぶ
4	演奏法研究(4)　パイプオルガン演奏法研究と応用　フィンガリングを中心に
5	演奏法研究(5)　パイプオルガン演奏法研究と応用　ペダル奏法を学ぶ
6	演奏法研究(6)　アーティキュレーション研究　レガート奏法を学ぶ。
7	演奏法研究(7)　アーティキュレーション研究　スタッカート、テヌートなどを学ぶ。
8	演奏法研究(8)　レジストレーション研究　音色を生かした奏法を研究する。
9	演奏法研究(9)　レジストレーション研究、エディット研究　木管楽器の音色を作る。
10	演奏法研究(10)　レジストレーション研究、エディット研究　金管楽器の音色を作る。
11	演奏法研究(11)　レジストレーション研究、エディット研究　ストリングスの音色を作る。
12	演奏法研究(12)　フレーズの表現についての研究 フレーズの解釈からの表現方法
13	演奏法研究(13)　フレーズの表現についての研究 ペダル鍵盤のよるフレーズの表現の仕方。
14	演奏法研究(14)　曲のまとめと解釈について　表現の工夫
15	演奏法研究(15)　曲のまとめと解釈について　演奏の確認

授業計画	
	前期授業計画に準ずる。研究演奏会に向けての指導も積極的 に行われる。
1	演奏法研究(1)　ロマン派の音楽について　選曲
2	演奏法研究(2)　ロマン派の音楽のレジストレーション研究　アナリーゼから音色を工夫する。
3	演奏法研究(3)　ロマン派の音楽とレジストレーション研究　奏法を中心に
4	演奏法研究(4)　ロマン派のレパートリー　音色と演奏法の関係性について　時代背景や様式から考える。
5	演奏法研究(5)　ロマン派のレパートリー　音色と演奏法の関係性について　形式、和声から分析する。
6	演奏法研究(6)　近現代のレパートリー選曲
7	演奏法研究(7)　近現代作品のスタイル研究　様式や時代背景から学ぶ。
8	演奏法研究(8)　近現代作品スタイル研究　形式や和声から考える。
9	演奏法研究(9)　近現代作品の演奏表現についての研究 表現法、音色を考える。
10	演奏法研究(10)　近現代作品の演奏表現についての研究 表現の工夫
11	演奏法研究(11)　近現代作品のフレーズ研究と表現 表現を掘り下げ。
12	演奏法研究(12)研究演奏会用楽曲のアナリーゼと解釈について
13	演奏法研究(13)研究演奏会用楽曲の音色研究
14	演奏法研究(14)研究演奏会用楽曲のフレーズの表現並びにアーティキュレーションの研究
15	演奏法研究(15)研究演奏会用楽曲の全体を通しての演奏によるリハーサル

科目名	演奏法研究Ⅰ　(WA)						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	XIL1170G0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏法（技術面）を鍛えていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏技法を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を５回で１クールとして、1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。　総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「演奏法研究Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
7	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 研究成果発表と講評
11	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 ／　導入編～必要な演奏法についての概説
2	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 ／ 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 ／ 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 ／ 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 ／ 研究成果発表と講評
6	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 ／　導入編～必要な演奏法についての概説
7	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 ／ 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 ／ 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 ／ 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 ／ 研究成果発表と講評
11	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 ／ 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 ／ 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 ／ 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 ／ 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第６クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 ／ 研究成果発表と講評

科目名	演奏法研究Ⅱ　(PF)						
代表教員	小嶋　貴文	授業コード	XIL1175A0	科目コード	IL1175d	期間	通 年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

1年次において習得した演奏技術と音楽性の発展を目指し、修了後にピアニストとして活躍すべく自己の演奏表現の確立をする。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

修了後の演奏活動に向けての準備、リサイタルを開催する際のプログラムのレパートリーを錬磨研究する。

4．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の状況に応じて担当教員より指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	1年を通して時代の変遷により発展を遂げた奏法の変化を研究実践するための計画の立案。
2	バロック時代の楽曲形式を研究し、チェンバロとの音質、音色の違いを比較、現代の奏法に活かすタッチの研究実践。
3	変奏曲の形式の発展を研究、それに伴う楽器、奏法の発展も実践研究する。
4	即興的な形式の研究。バッハのトッカータとフーガ　二短調を実践し研究する。
5	バロック時代のソナタと古典派のソナタの比較研究。時代の変遷による鍵盤楽器の表現法の拡大を、実践により研究する。
6	古典派とロマン派のソナタを比較し、楽器の変遷による奏法の比較、それに伴う表現法の拡大。
7	ロマン派と20世紀のソナタの比較研究。形式の発展から見る演奏表現のj可能性を実践から研究する。
8	作曲家の民族性から見える特色の研究。
9	バロック時代のイタリアにおける作曲家の特徴。併せてチェンバロガ持つ特色も研究する。
10	バロック音楽の協奏様式、通奏低音の研究実践。
11	バロック音楽の重要な作曲家の一人であるヘンデルのソナタの研究。バッハの作品との比較によりバロック時代の音楽性を探求する。
12	チェンバロ、オルガン、ピアノを実際に演奏し、タッチの違い響きの違いを実践研究し、表現法の創作意識を高める。
13	バロック音楽と古典派の音楽の旋律法、和声の比較研究。
14	絶対音楽と標題音楽の研究。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品から実践し探求する。
15	ロマン派の作曲様式、作曲技法の特徴を研究する。ダイナミックスの変化がもたらす演奏効果を考察実践する。

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ロマン派の作曲家ウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーン、シューマン、ブラームスを取り上げ、鍵盤楽曲以外の作品とピアノ曲の比較研究をし、表現の拡大を図る。
2	サン=サーンス、フォーレ、ドビュッシーの作品から、フランスの作曲家の特徴を考察し、ドイツ音楽との比較から音質、音色の相違を研究する。
3	ムソルグスキー、バラキレフ、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフの作品を通して、ロシアの民族的な色彩の表現法の実践研究。
4	アルベニス、グラナドスの作品をから、スペイン音楽と他国の音楽の比較研究。独特のリズム感やハーモニーから奏法の多様性を実践研究する。
5	キャラクターピースにおける表現の創意性の探求。
6	20世紀の音楽における発展の研究。旋律、和声、調性、リズム、形式から見える複雑化を考察し、その奏法、表現法を探る。
7	修了演奏会における楽曲の分析、奏法解釈から、自身の効果的な表現法を研究実践する。
8	修了演奏会における楽曲の副論文作成により、考察した結論を演奏に活かすための奏法研究の実践。
9	自身のレパートリーとなるコンチェルトの奏法研究。独奏とコンチェルトの奏法の比較から効果的な奏法を探求する。
10	オーケストラスコアから見るソリストとしての奏法研究。オーケストラとのアンサンブルからソリストとしての音質、音色、表現法について探求する。
11	声楽曲から見るピアノ独奏曲の実践。リストの編曲作品を取り上げ、歌曲を奏でる声を音によって表現する奏法研究。
12	ピアノ独奏によるベートーヴェン交響曲の奏法研究。 リストの編曲作品から、オーケストラの表現法の研究をとおして、多様な音質、音色の表現を習得する。
13	音楽的な演奏の原理の追求。フレージング、リズム、拍子、音質、音色、2年間の研究を通して培った演奏技術を確立する。
14	ペダリングの演奏効果についての実践研究。ペダリングによる表現の可能性をバロック音楽から現代音楽までを比較実践し、演奏表現の拡大を探求する。
15	2年間の研究成果を試演会の発表を通して、自己の音楽性、演奏技術を確立する。

科目名	演奏法研究Ⅱ　(WI)						
代表教員	渡部　亨	授業コード	XIL1175C0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（１年次）、修士演奏会（２年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに収得する。

4．成績評価の方法及び基準

平常点

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習（ガイダンス）（１） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（２）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（３）練習曲の選定
4	専門器楽実習（４）練習曲の実践
5	専門器楽実習（５）コンクール用無伴奏曲実践
6	専門器楽実習（６）コンクール課題曲選定
7	専門器楽実習（７）バロックソナタ作品研究バッハ
8	専門器楽実習（８）バロック協奏曲作品研究ヴィヴァルディ
9	専門器楽実習（９）古典派ソナタ作品研究モーツァルト
10	専門器楽実習（１０）古典派協奏曲作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（１１）古典派ソナタ作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（１２）古典派協奏曲作品研究シュターミッツ
13	専門器楽実習（１３）古典派ソナタ作品研究ウェーバー
14	専門器楽実習（１４）ロマン派作品研究シューマン
15	専門器楽実習（１５）ロマン派ソナタ作品研究ブラームス

授業計画	
	［後期］
1	専門器楽実習（１）　※下記参照の事
2	専門器楽実習（２）ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（３）近現代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（４）近現代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（５）近現代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（６）近現代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（７）近現代作品研究プーランク
8	専門器楽実習（８）近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（９）近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（１０）近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（１１）近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（１２）近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（１３）邦人作曲家作品研究　平尾貴四男
14	専門器楽実習（１４）邦人作曲家作品研究　武満徹
15	専門器楽実習（１５）修了演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅱ　(SI)						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	XIL1175D0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること

4．成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	速いスピードでスケールを正確に弾けるための奏法研究
2	パガニーニ奇想曲No.24奏法研究・楽曲分析
3	パガニーニ奇想曲No.24ボーイングとフィンがリング研究
4	パガニーニ奇想曲No.９、１１、１６奏法研究・楽曲分析
5	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタ楽曲分析
6	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタボーイングとフィンがリング
7	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo.2楽曲分析
8	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo.2ボーイングとフィンがリング
9	メンデルスゾーン協奏曲のボーイングとフィンがリング
10	メンデルスゾーン協奏曲表現研究とテクニックの分析
11	サン=サーンス協奏曲研究 楽曲分析
12	サン=サーンス協奏曲研究 ボーイングとフィンガリング
13	サン=サーンス協奏曲研究 表現とテクニックについて
14	フランク ソナタ研究 楽曲分析
15	フランク ソナタ研究 ボーイング、フィンガリング、テクニック分析

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（１年）、修了演奏会（２年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	ベートーベン ソナタNo.7研究楽曲分析
2	ベートーベン ソナタNo.7研究ボーイング フィンガリング
3	ベートーベン ソナタNo.9研究 楽曲分析
4	ベートーベン ソナタNo.9研究 ボーイング、フィンガリング
5	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 楽曲分析
6	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 ボーイング、フィンガリング
7	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章楽曲分析
8	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章 ボーイング、フィンガリング
9	ブラームス協奏曲1楽章　楽曲分析
10	プラームス協奏曲1楽章　ボーイング、フィンガリング
11	プラームス協奏曲2.3楽章　楽曲分析
12	プラームス協奏曲2.3楽章　ボーイング、フィンガリング
13	プラームス ソナタ楽曲分析
14	プラームス ソナタ、ボーイング、フィンガリング
15	プラームス ソナタ 表現研究

科目名	演奏法研究Ⅱ　(GT)						
代表教員	原　善伸	授業コード	XIL1175D1	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI(GT)	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックギターの主要なレパートリーの演奏法を研究する。
基本技術として重要なスケール、アルペジョ、トレモロなどのテクニックを、より高度な水準に到達させることを目標とする。

２．授業概要

レッスン担当教員（原善伸）の個人レッスンと、客員教授（鈴木大介、大萩康司）や海外招聘教員の特別レッスンを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

研究中の楽曲やテーマを学内図書館などを利用し、様々な角度から研究する。

４．成績評価の方法及び基準

修了演奏会において、どのように研究の成果が現れたかを検証、採点する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

25の練習曲集Op.60（M.カルカッシ）セゴヴィア編20の練習曲（F.ソル）
12の練習曲（H.ヴィラ=ロボス）12の地球の歌（武満徹）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギターの奏法がどのように発展、進歩してきたかを、レパートリーの中に見出し、実践しようとする意欲を持った者。

授業計画	
1	ガイダンス：年間の授業計画について
2	クラシックギター演奏法の歴史概観
3	中世の撥弦楽器の使用例と奏法
4	スペイン16世紀、ヴィウエラの奏法
5	イギリス・エリザベス朝リュートの奏法
6	イタリア16世紀のリュートとギター音楽の奏法研究
7	ルネッサンス期ドイツのリュート音楽研究
8	フランドルやフランスにおけるルネッサンスリュートやギター奏法研究
9	バロックリュートの奏法とレパートリー研究
10	フランスバロックのリュート音楽研究
11	ドイツバロック、特にS.L.ヴァイスのリュート音楽研究
12	J.S.バッハのリュート音楽研究
13	J.S.バッハのクラシックギターへの編曲作品研究
14	A.セゴヴィアのバッハ編曲作品研究前期のまとめ
15	前期総括発表

授業計画	
1	後期ガイダンス：後期の授業計画と終了演奏会準備計画
2	ルネッサンスギターとバロックギターについての考察
3	ルネッサンスギターの作品と奏法研究（A.ムダーラ、L.ナルバエス、P.アテニアンなど）
4	ガスパル・サンスのバロックギター作品の奏法研究
5	ロベール・ド・ヴィゼーのバロックギター作品の奏法研究
6	その他のバロックギター作曲家の作品研究（ムルシア、ロンカリ、ロジーなど）
7	19世紀ギターの構造、奏法と作品、作曲家についての考察
8	F.カルッリの作品と奏法研究
9	F.ソルの作品と奏法研究
10	M.ジュリアーニの作品と奏法研究
11	ロマン派のギター作品と作曲家、奏法、そして楽器の変容
12	J.K.メルツとN.コストの作品と奏法研究
13	A.トーレスの登場と現代クラシックギター、構造と受容の歴史
14	A.セゴヴィアによる現代クラシックギターの奏法革命
15	修了演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅱ　(PI)						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	XIL1175E0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究Ⅰ、Ⅱはそれぞれをリンクさせて取り組むことが望ましい。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽器を演奏する上での基礎を固め、そこからより高度なテクニックを身につけていく中で、
多彩な音色、リズム、ビートについての考察、表現することなどについて深く研究する。
その学習の先に、院を修了して社会に出てから、どのような形で音楽と社会を結んでいくことが
出来るかという点も常に考えて各々の研究を進めていくことが望まれる。

年度末の修了演奏会での発表を大きな目標とし、そこに結びつくよう
考えて年間の授業を進めていく。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、また
レッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、
取り組む作品のアナリーゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合は
それらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

修了演奏会での演奏により評価する

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として受講生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	［前期］ 概ね下記のような流れで進むことになるが、複数担当教員による個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべくそれぞれの方法を交えて受講生と相談しながら個人指導にあたる。
1	前期授業についてのガイダンス。後期の修了演奏会で発表するプログラムを何にするかの相談を交えつつ、前期に取り組む作品をおおよそ決定する。受講生が取り組むべき基礎課題についても相談、確認する。
2	演奏楽器を演奏する上での姿勢について、発音するのに必要なストローク、体の使い方などを実践を交えて研究と確認をする。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながら アナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうかに重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	取り組む作品の、この時点での一つの完成を目指す。 演奏会で取り上げられるレベルの演奏が出来るようになっているか、あらためて細部を確認する。
8	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認。年度始めのレッスンから成長したところ、より改善が必要な箇所を認識し、この先のレッスンにつなげていく。
9	次の作品への取り組み。基礎を大切にしながら、より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。
10	取り組む作品が楽譜となっている場合、楽譜上に記載されていることを大切にしつつ、あえて違ったアプローチの可能性があるか、など、既成概念にとらわれずに作品と向き合う時間を持つ。実践を交えながら、受講生と担当教員間でのアイデアの交換、ディスカッションを中心にレッスンを進める。
11	あらためて取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行ったアプローチが有効であるかどうかを検証する。 作品と取り組み始めた当初よりも広い視野で作品を捉えていく。
12	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
13	前期にこれまで取り組んで来た作品とは違ったテイストの小品を学習する。作品に応じた演奏楽器の音色を探す。
14	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。小品ならではの表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。
15	前期レッスンの統括。その上で後期研究演奏会のプログラムについて再考し、後期のレッスンに繋げる。

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。
1	後期授業についてのガイダンス。修了演奏会で発表するプログラムを何にするかを相談、決定し、それを前提として後期レッスンの進め方を相談する。
2	前期レッスンで学習したことを復習する。基礎の確認と表現についての再考など。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながら アナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうかに重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認し、作品演奏に反映させられているかを検証。
8	より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。既成概念にとらわれるだけにとどまらない自由な発想を持って作品と向かい合う方法を相談、考える。
9	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
10	次の作品への取り組み。担当教員の指導を形にするだけではなく、受講生が自分で考え、自分の演奏とそこから生まれる音、音楽を体感する、という方向性を強めていく。
11	取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行った自分で考えたアプローチが有効であるかどうかを検証する。 一層広い視野で作品を捉えていく方法を相談、研究する。
12	表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。１曲を演奏する上での構成の立て方を相談、研究する。
13	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。 研究演奏会での演奏を前提に、演奏会場の広さ、響きなども想定した演奏を目指す。
14	研究演奏会で演奏するにあたって、ステージ上での立ち居振る舞い、演奏曲間の気持ちの切り替え、集中力の保ち方と緩め方など、演奏するという以外の部分について考察する。
15	修了演奏会プログラムの作品の最終確認。 後期レッスンの統括。

科目名	演奏法研究Ⅱ　(E0)						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XIL1175F0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専門器楽実習と関連性を持たせつつ、修士論文のテーマを決定し、その研究を担当教員指導のもと、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2．授業概要

担当教員による個人レッスン

3．授業時間外の学習（予習復習について）

継続的な研究、練習を望む。

4．成績評価の方法及び基準

修了演奏会での演奏により評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的にレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	個人レッスンの、各個人の技量に応じ、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すると同時に、アレンジやオリジナル作品等の指導も行う。
1	演奏法研究(1)　レパートリー選曲
2	演奏法研究(2)　バロック演奏法研究　様式を中心に
3	演奏法研究(3)　バロック演奏法研究　形式、和声を学ぶ
4	演奏法研究(4)　パイプオルガン演奏法研究と応用　フィンガリングを中心に
5	演奏法研究(5)　パイプオルガン演奏法研究と応用　ペダル奏法を学ぶ
6	演奏法研究(6)　アーティキュレーション研究　レガート奏法を学ぶ。
7	演奏法研究(7)　アーティキュレーション研究　スタッカート、テヌートなどを学ぶ。
8	演奏法研究(8)　レジストレーション研究　音色を生かした奏法を研究する。
9	演奏法研究(9)　レジストレーション研究、エディット研究　木管楽器の音色を作る。
10	演奏法研究(10)　レジストレーション研究、エディット研究　金管楽器の音色を作る。
11	演奏法研究(11)　レジストレーション研究、エディット研究　ストリングスの音色を作る。
12	演奏法研究(12)　フレーズの表現についての研究 フレーズの解釈からの表現方法
13	演奏法研究(13)　フレーズの表現についての研究 ペダル鍵盤のよるフレーズの表現の仕方。
14	演奏法研究(14)　曲のまとめと解釈について　表現の工夫
15	演奏法研究(15)　曲のまとめと解釈について　演奏の確認

授業計画	
	前期授業計画に準ずる。修了演奏会に向けての指導も積極的 に行われる。
1	演奏法研究(1)　ロマン派の音楽について　選曲
2	演奏法研究(2)　ロマン派の音楽のレジストレーション研究　アナリーゼから音色を工夫する。
3	演奏法研究(3)　ロマン派の音楽とレジストレーション研究　奏法を中心に
4	演奏法研究(4)　ロマン派のレパートリー　音色と演奏法の関係性について　時代背景や様式から考える。
5	演奏法研究(5)　ロマン派のレパートリー　音色と演奏法の関係性について　形式、和声から分析する。
6	演奏法研究(6)　近現代のレパートリー選曲
7	演奏法研究(7)　近現代作品のスタイル研究　様式や時代背景から学ぶ。
8	演奏法研究(8)　近現代作品スタイル研究　形式や和声から考える。
9	演奏法研究(9)　近現代作品の演奏表現についての研究 表現法、音色を考える。
10	演奏法研究(10)　近現代作品の演奏表現についての研究 表現の工夫
11	演奏法研究(11)　近現代作品のフレーズ研究と表現 表現を掘り下げ。
12	演奏法研究(12)修了演奏会用楽曲のアナリーゼと解釈について
13	演奏法研究(13)修了演奏会用楽曲の音色研究
14	演奏法研究(14)修了演奏会用楽曲のフレーズの表現並びにアーティキュレーションの研究
15	演奏法研究(15)修了演奏会用楽曲の全体を通しての演奏によるリハーサル

科目名	演奏法研究Ⅱ　(WA)						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	XIL1175GO	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員	山口　賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位取得を前提としている。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏法（技術面）を鍛えていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏技法を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を５回で１クールとして、1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。　総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25%　　・実践への取り組み＝25%　　・演奏技量に反映された成果＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程１年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。２年目の「演奏法研究Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第１クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
7	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第２クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 研究成果発表と講評
11	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第３クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～必要な演奏法についての概説、2)譜読み等、演奏法徹底研究、3)課題作品演奏法研究実践、4)演奏法ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 /　導入編～必要な演奏法についての概説
2	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第４クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
6	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 /　導入編～必要な演奏法についての概説
7	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第５クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
11	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第６クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

科目名	声楽実習Ⅰ　(V0)						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XIL131000	科目コード	IL1310d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究Ⅰとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

１．主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、発声法から音楽表現に至るまで、学生一人一人に合わせたレッスンを行う。
担当教員により、各自の目標を達成できるよう指導が行われる

２．授業概要

2年間という短い期間の中で、学生一人一人の演奏技術、表現を考え、ディクションなど基礎を確立し、更により高度なテクニックの習得と、音楽表現を学び、研究演奏会では、集大成としての演奏に臨む。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクション、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

４．成績評価の方法及び基準

試験　１００％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レッスン担当教員の指示のもと準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

年間30回のレッスンは、1回1回の積み重ねによって成立するので、遅刻欠席がないようにする。
また、担当教員と研究課題をしっかり決め、積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究
3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括
7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析
11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス／研究演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究
3	選曲した作品の作曲家及び時代背景
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究
7	前半のまとめ／研究演奏に向けてプログラムの確定
8	研究演奏会に選曲した曲の作品研究
9	研究演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	研究演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究
11	研究演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	研究演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	研究演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	研究演奏会に向けて、全体の流れを確認する
15	年間を通してのまとめ（研究演奏会への仕上げ）

科目名	声楽実習Ⅱ　(V0)						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XIL131500	科目コード	IL1315d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究Ⅱとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1．主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、発声法から音楽表現に至るまで、学生一人一人に合わせたレッスンを行う。
担当教員により、各自の目標を達成できるよう指導が行われる

2．授業概要

2年間という短い期間の中で、学生一人一人の演奏技術、表現を考え、ディクションなど基礎を確立し、更により高度なテクニックの習得と、音楽表現を学び、修了演奏会では、集大成としての演奏に臨む。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクション、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

4．成績評価の方法及び基準

修了演奏会（試験）100%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

レッスン担当教員の指示のもと準備する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

年間30回のレッスンは、1回1回の積み重ねによって成立するので、遅刻欠席がないようにする。
また、担当教員と研究課題をしっかり決め、積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究
3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括
7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析
11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス／修了演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究
3	選曲した作品の作曲家及び時代背景の研究
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究
7	前半のまとめ／修了演奏に向けてプログラムの確定
8	修了演奏会に選曲した曲の作品研究
9	修了演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	修了演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究
11	修了演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	修了演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	修了演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	修了演奏会に向けて、全体の流れを確認する
15	年間を通してのまとめ（修了演奏会への仕上げ）

科目名	演奏法研究Ⅰ　(V0)						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XIL137000	科目コード	IL1370d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	声楽実習Ⅰとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1．主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、発声法から音楽表現に至るまで、学生一人一人に合わせたレッスンを行う。
担当教員により、各自の目標を達成できるよう指導が行われる。

2．授業概要

2年間という短い期間の中で、学生一人一人の演奏技術、表現を考え、ディクションなど基礎を確立し、更により高度なテクニックの習得と、音楽表現を学び、研究演奏会では、集大成としての演奏に臨む。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクション、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

4．成績評価の方法及び基準

試験　100%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

レッスン担当教員の指示のもと準備する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

研究課題をしっかり決めること.
1回1回のレッスンを、しっかり積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究
3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括
7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析
11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス／研究演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究
3	選曲した作品の作曲家及び時代背景
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究
7	前半のまとめ／研究演奏に向けてプログラムの確定
8	研究演奏会に選曲した曲の作品研究
9	研究演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	研究演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究
11	研究演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	研究演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	研究演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	研究演奏会にむけて仕上げをしていく
15	年間を通してのまとめ（研究演奏会への仕上げ）

科目名	演奏法研究Ⅱ　(V0)						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XIL137500	科目コード	IL1375d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	声楽実習Ⅱとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

１．主題・到達目標

学生各自が研究テーマを持って、各レッスン担当教員からアドヴァイスを受け、自分の目標を達成させる。

２．授業概要

年間３０回の個人レッスンによる

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
歌唱時に必要な表現法を、各自、検討して次回のレッスンに発表できるように準備しておくこと

４．成績評価の方法及び基準

修了演奏会（試験）100%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各レッスン担当教員、及び論文担当指導教員がその都度指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

研究課題をしっかり決める,
1回1回のレッスンをを積み重ねていくことが望ましい

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究
3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括
7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析
11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス／修了演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究
3	選曲した作品の作曲家及び時代背景の研究
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究
7	前半のまとめ／修了演奏に向けてプログラムの確定
8	修了演奏会に選曲した曲の作品研究
9	修了演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	修了演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究
11	修了演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	修了演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	修了演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	修了演奏会に向けて、全体の流れを確認する
15	年間を通してのまとめ（修了演奏会への仕上げ）

科目名	創作研究Ⅰ　(CO)						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XIL151100	科目コード	IL1511d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、創作研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

創作研究Ⅰは、前期に大きな編成による室内楽曲、後期に室内オーケストラや管弦楽曲を中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（O.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（大きな編成による室内楽など）
3	楽曲研究－基礎（大きな編成による室内楽など）
4	楽曲研究－応用（大きな編成による室内楽など）
5	楽曲研究－まとめ（大きな編成による室内楽など）
6	書法研究－導入（大きな編成による室内楽など）
7	書法研究－基礎（大きな編成による室内楽など）
8	書法研究－応用（大きな編成による室内楽など）
9	書法研究－まとめ（大きな編成による室内楽など）
10	構成とスケッチ－導入（大きな編成による室内楽など）
11	構成とスケッチ－基礎（大きな編成による室内楽など）
12	構成とスケッチ－応用（大きな編成による室内楽など）
13	構成とスケッチ－まとめ（大きな編成による室内楽など）
14	楽譜の作成－基礎（大きな編成による室内楽など）
15	楽譜の作成－応用（大きな編成による室内楽など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（室内オーケストラや管弦楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）
3	楽曲研究－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（室内オーケストラや管弦楽曲など）
5	書法研究－導入（室内オーケストラや管弦楽曲など）
6	書法研究－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）
7	書法研究－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
8	書法研究－まとめ（室内オーケストラや管弦楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（室内オーケストラや管弦楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）
11	構成とスケッチ－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（室内オーケストラや管弦楽曲など）
13	楽譜の作成－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）
14	楽譜の作成－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	創作研究Ⅱ　(CO)						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XIL151600	科目コード	IL1516d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、創作研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

創作研究Ⅱは、前期に２０世紀の交響曲と管弦楽曲、後期に現代の多様な編成による楽曲を中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（O.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
3	楽曲研究－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
4	楽曲研究－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
5	楽曲研究－まとめ（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
6	書法研究－導入（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
7	書法研究－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
8	書法研究－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
9	書法研究－まとめ（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
10	構成とスケッチ－導入（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
11	構成とスケッチ－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
12	構成とスケッチ－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
13	構成とスケッチ－まとめ（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
14	楽譜の作成－基礎（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）
15	楽譜の作成－応用（２０世紀の交響曲と管弦楽曲など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
3	楽曲研究－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
5	書法研究－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
6	書法研究－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
7	書法研究－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
8	書法研究－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
11	構成とスケッチ－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
13	楽譜の作成－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
14	楽譜の作成－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲理論研究Ⅰ　(CO)						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XIL157000	科目コード	IL1570d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。２年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅰは、前期にスタイル和声を研究、後期にフーガ書法を研究し、自作品にそれらの技法を取り入れられることを目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『フーガ書法』（音楽之友社）
『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）
『Vingt Leçons d'Harmonie』（O.メシアン著／LEDUC社刊）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	授業概要 スタイル和声の研究（J.S.バッハ）
2	J.S.バッハ様式での創作のスケッチ
3	J.S.バッハ様式での創作のまとめ
4	スタイル和声の研究（W.A.モーツァルト）
5	W.A.モーツァルト様式での創作のスケッチ
6	W.A.モーツァルト様式での創作のまとめ
7	スタイル和声の研究（R.シューマン）
8	R.シューマン様式での創作のスケッチ
9	R.シューマン様式での創作のまとめ
10	スタイル和声の研究（J.ブラームス）
11	J.ブラームス様式での創作のスケッチ
12	J.ブラームス様式での創作のまとめ
13	スタイル和声の研究（R.ワーグナー）
14	R.ワーグナー様式での創作のスケッチ
15	R.ワーグナー様式での創作のまとめ 前期の総括と講評

授業計画	
	［後期］
1	授業概要 学習フーガ（４声）の様式について
2	学習フーガ　第１提示部の書き方
3	作曲演習１　第１提示部
4	学習フーガ　第１喜遊部の書き方
5	作曲演習２　第１喜遊部
6	学習フーガ　第２提示部の書き方
7	作曲演習３　第２提示部
8	学習フーガ　第２喜遊部の書き方
9	作曲演習４　第２喜遊部
10	学習フーガ　第３提示部の書き方
11	作曲演習５　第３提示部
12	学習フーガ　第３喜遊部の書き方
13	作曲演習６　第３喜遊部
14	学習フーガ　提示部と喜遊部の総括
15	１年間の総括と講評

科目名	作曲理論研究Ⅱ　(CO)						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XIL157500	科目コード	IL1575d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。２年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅱは、前期にフーガ書法を研究して完成をめざし、後期にスタイル和声を研究し、自作品にそれらの技法を取り入れられることを目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『フーガ書法』（音楽之友社）
『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）
『Vingt Leçons d'Harmonie』（O.メシアン著／Leduc社刊）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	授業概要 学習フーガ　主要追拍の書き方
2	作曲演習７　主要追拍
3	学習フーガ　対唱追拍の書き方
4	作曲演習８　対唱追拍
5	学習フーガ　平行調追拍の書き方
6	作曲演習９　平行調追拍
7	学習フーガ　真正追拍の書き方
8	作曲演習１０　真正追拍
9	学習フーガ　結尾部の書き方
10	作曲演習１１　結尾部
11	作曲演習１２　学習フーガのまとめ
12	学習フーガの浄書制作（４段譜）
13	学習フーガの浄書制作（２台ピアノ版）
14	学習フーガの試演、試聴
15	前期の総括と講評

授業計画	
	［後期］
1	スタイル和声の研究（J.P.ラモー）
2	J.P.ラモー様式での創作のスケッチ
3	J.P.ラモー様式での創作のまとめ
4	スタイル和声の研究（C.フランク）
5	C.フランク様式での創作のスケッチ
6	C.フランク様式での創作のまとめ
7	スタイル和声の研究（G.フォーレ）
8	G.フォーレ様式での創作のスケッチ
9	G.フォーレ様式での創作のまとめ
10	スタイル和声の研究（C.ドビュッシー）
11	C.ドビュッシー様式での創作のスケッチ
12	C.ドビュッシー様式での創作のまとめ
13	スタイル和声の研究（M.ラヴェル）
14	M.ラヴェル様式での創作のスケッチ
15	M.ラヴェル様式での創作のまとめ １年間の総括と講評

科目名	創作制作研究Ⅰ　(SC)						
代表教員	森　威功	授業コード	XIL1580B0	科目コード	IL1580d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

創作制作研究は、音楽制作スキルの向上を図るものではなく、各自作品のクオリティーを重視した視点で指導する。また、音楽音響理論研究と連携して創作能力を養うことが目標である。

２．授業概要

音楽・音響デザインコースにおける創作制作研究は、個々の研究テーマに沿って行われる。従って、研究内容と合致する担当教員に師事することが必要であるが、これは「音楽音響理論研究」と合わせて事前面接によって決定される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

講義内容を良く分析し、作品へ反映するための方法を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

研究成果５０%、研究態度5０%、

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この科目はレッスン形式であるため、シラバスの記載内容は一例に過ぎない。実際には担当教員と相談しながら決めることになる。

授業計画	
	［前期］ 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	映像におけるシーンの分析と音楽の構成１（テーマ）
2	映像におけるシーンの分析と音楽の構成２（感情表現）
3	映像におけるシーンの分析と音楽の構成３（情景表現）
4	映像におけるシーンの分析と音楽の構成４（人物表現）
5	映像におけるシーンの分析と音楽の構成5（無機質表現）
6	シーンを設定してスケッチ（作曲）
7	スケッチについてディスカッション
8	スケッチの修正
9	楽器編成についての考察（小編成）
10	アレンジスコアの制作（各初期設定）
11	アレンジスコアの制作2（各修正作業）
12	アレンジスコアの制作３（演奏表現に関する部分を確認）
13	DTMにてシミュレーション1（トラックの構成とデータ入力）
14	DTMにてシミュレーション2（ミキシングと各調整）
15	作品の試聴とディスカッション

授業計画	
	［後期］ 年度末試験における作品発表を念頭に、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	前期の作品にシンセサイザーの付加を検討
2	シンセサイザーの音色について考察
3	スコアのミックスとマスタリング
4	前期作品を弦楽四重奏にリアレンジ（準備）
5	対位的アプローチの導入1（２声）
6	対位的アプローチの導入2（3声）
7	対位的アプローチの導入3（４声）
8	弦楽四重奏にアレンジ（前半）
9	弦楽四重奏にアレンジ（中盤）
10	弦楽四重奏にアレンジ（後半）
11	弦楽四重奏のスコアの完成
12	DTMによるシミレーション１（トラックの構成とデータ入力）
13	DTMによるシミレーション2（ベロシティーの調整）
14	DTMによるシミレーション3（ミキシングと各調整）
15	作品試聴と講評

科目名	創作制作研究Ⅱ　(SC)						
代表教員	森　威功	授業コード	XIL1585B0	科目コード	IL1585d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目	「創作制作研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

創作制作研究は、音楽制作スキルの向上を図るものではなく、各自作品のクオリティーを重視した視点で指導する。また、音楽音響理論研究と連携して創作能力を養うことが目標である。

２．授業概要

音楽・音響デザインコースにおける創作制作研究は、個々の研究テーマに沿って行われる。従って、研究内容を網羅する担当教員に師事することが必要であるが、これは「音楽音響理論研究」と合わせて事前面接によって決定される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

講義内容を良く分析し、作品へ反映するための方法を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

研究成果５０％、研究態度5０％
研究成果に関しては、作品発表も含まれる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

指導教員の指示に従い準備すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この科目はレッスン形式であるため、シラバスの記載内容は一例に過ぎない。実際には担当教員と相談しながら決めることになる。

授業計画	
	［前期］ 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	映像におけるシーンの分析と音楽の構成１（テーマ）
2	映像におけるシーンの分析と音楽の構成２（感情表現）
3	映像におけるシーンの分析と音楽の構成３（情景表現）
4	映像におけるシーンの分析と音楽の構成４（人物表現）
5	映像におけるシーンの分析と音楽の構成5（無機質表現）
6	シーンを設定してスケッチ（作曲）
7	スケッチについてディスカッション
8	スケッチの修正
9	楽器編成についての考察（オーケストラ）
10	スコアの制作１（前半）
11	スコアの制作２（中盤）
12	スコアの制作３（後半）
13	DTMによるシミレーション１（前半）
14	DTMによるシミレーション２（中盤）
15	DTMによるシミレーション３（後半）

授業計画	
	［後期］ 年度末試験における作品発表を念頭に、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	前期の作品にシンセサイザーの付加を検討
2	シンセサイザーの音色について考察
3	スコアのミックスとマスタリング
4	前期作品を弦楽四重奏にリアレンジ（準備）
5	対位的アプローチの導入1（２声）
6	対位的アプローチの導入2（３声）
7	対位的アプローチの導入3（４声）
8	弦楽四重奏にアレンジ（前半）
9	弦楽四重奏にアレンジ（中盤）
10	弦楽四重奏にアレンジ（後半）
11	ハリウッド的オーケストラのアプローチ１（作品研究）
12	ハリウッド的オーケストラのアプローチ2(代表的なアプローチ)
13	ハリウッド的オーケストラのアプローチ3(簡単な楽曲を制作)
14	シンセサイザーアプローチ4（楽曲の制作とミックス）
15	作品試聴

科目名	音楽音響理論研究Ⅰ　(SC)						
代表教員	森　威功	授業コード	XIL1590B0	科目コード	IL1590d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽音響理論は、打ち込み技術やスコアリングなど楽曲制作上のスキル向上を目標とする。

２．授業概要

個々の研究テーマに沿って、必要な技術の修得を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回で学習した内容はテキストとしてデータ化しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

研究成果５０%、研究態度50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業計画は学生ごとに異なるため、その一例であることに注意されたい。

授業計画	
	［前期］ 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。ここではフィールドレコーディングを活用した作品制作を想定している。
1	研究に必要な技術の確認及び学習計画
2	これまでの自己の作品の検証
3	これまでの自己の作品の検証と整理
4	前期の作品制作の計画
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定
7	作品のモチーフを複数作成
8	モチーフの抽出
9	録音素材とモチーフの関連性を検討
10	作品全体の構成を調整
11	楽曲の指導（構成を中心に）
12	楽曲の指導（各セクションのについて）
13	楽曲の指導（録音素材のレストレーションを中心に）
14	作品のミックス
15	ミックスの仕上げ

授業計画	
	［後期］ 後期は前期の反省点を踏まえ、引き続きフィールドレコーディングを活用した作品制作を想定している。
1	後期の作品発表に関する計画と確認
2	録音素材の活用視点と加工方法について
3	録音素材の発展方法について
4	録音素材の空間処理について
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定
7	楽曲の指導（構成を中心に）
8	楽曲の指導（各セクションのについて）
9	曲のの指導（録音素材のレストレーションを中心に）
10	ミキシング（前半部）
11	ミキシング（後半部、オートメーションなど）
12	ミキシング段階における楽曲の微調整
13	マスタリング（EQなど詳細処理）
14	マスタリング（全体のラウドネスの調整）
15	作品の試聴

科目名	音楽音響理論研究Ⅱ　(SC)						
代表教員	森　威功	授業コード	XIL1595BO	科目コード	IL1595d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目	「音楽音響理論研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽音響理論は、打ち込み技術やスコアリングなど楽曲制作上のスキル向上を目標とする。　。

２．授業概要

個々の研究テーマに沿って、必要な技術の修得を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回で学習した内容はテキストとしてデータ化しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

研究成果５０%、研究態度50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業計画は学生ごとに異なるため、その一例であることに注意されたい。

授業計画	
	［前期］ 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	修了作品についてのディスカッション
2	修了作品と副論文の関係性についての検証
3	前期の作品制作の計画
4	作品の録音素材を選定
5	作品の収録スケジュールの設定
6	作品のモチーフを複数作成
7	モチーフの抽出
8	録音素材とモチーフの関連性を確認
9	作品全体の構成を調整
10	楽曲の指導（構成を中心に）
11	楽曲の指導（各セクションのについて）
12	楽曲の指導（録音素材のレストレーションを中心に）
13	作品のミックス
14	ミックスの仕上げ
15	マスタリング作業

授業計画	
	［後期］ 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	修了作品に関する計画と確認（後期作品）
2	録音素材の活用視点と加工方法について
3	録音素材の発展方法について
4	録音素材の空間処理について
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定
7	楽曲の指導（構成を中心に）
8	楽曲の指導（各セクションのについて）
9	曲のの指導（録音素材のレストレーションを中心に）
10	ミキシング（前半部）
11	ミキシング（後半部）
12	ミキシング段階における楽曲の微調整
13	マスタリング（前半部）
14	マスタリング（後半部）
15	作品の試聴

科目名	副科研究１　(MP)						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XIL2051C0	科目コード	IL2051d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

副科研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

２．授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。それぞれ1～2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み
3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科研究２　(MP)						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XIL2052C0	科目コード	IL2052d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

副科研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

２．授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。それぞれ1～2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み
3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科研究３　(MP)						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XIL2053C0	科目コード	IL2053d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

副科研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

２．授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。それぞれ1～2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み
3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	副科研究４　(MP)						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XIL2054C0	科目コード	IL2054d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

副科研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

２．授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。それぞれ1～2時間の所要時間が想定される。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（１）精確な譜読み
3	実技指導（２）楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（３）楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（４）演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（５）演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（６）演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（７）楽曲の和声を理解して
9	実技指導（８）楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（９）奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（１０）演奏表現を工夫して
12	実技指導（１１）細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（１２）音色を意識して
14	実技指導（１３）仕上げ
15	総括

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	